

# 法人 年報

第 19 号



**2023 年度**  
**(令和 5 年度)**

**医療法人 博仁会**  
**社会福祉法人 博友会**  
**学校法人 志村学園**

# 目 次

巻頭言 .....	1
法人経営理念	
医療法人 博仁会 .....	2
社会福祉法人 博友会 .....	3
法人の沿革 .....	4
志村大宮病院概要 .....	6

## 第一部

1. 博仁会 組織図 .....	9
2. 博友会 組織図 .....	10
3. 志村学園 組織図 .....	11
4. 委員会一覧	
博仁会 .....	12
博友会 .....	13
5. 年間行事	
博仁会 .....	14
博友会 .....	15
6. 事業実績 (博仁会).....	16
事業実績 (博友会) .....	26
7. 部門別実績報告	
〔博仁会〕	
SFG 看護グループ 病院・老健部 .....	28
一般病棟科 .....	29
緩和ケア病棟科 .....	30
外来科 .....	31
回復期リハビリテーション病棟科 .....	33
医療療養病棟科 .....	34
志村地域医療連携センター .....	35
病院リハビリテーション科 .....	36
機能訓練センター フリュージェル .....	38
リハビリテーション事業部 訪問リハビリテーション科 .....	39
画像検査科 .....	40
志村大宮病院認知症疾患医療センター .....	42
老健入所科 .....	43
おおみやホームヘルプステーション .....	44
おおみや訪問看護ステーション .....	45
フロイデひたちなか訪問看護ステーション .....	46
志村フロイデ地域包括ケアセンター .....	47
常陸大宮市南部地域包括支援センター .....	48

ひたちなか市北部地域包括支援センター .....	50
コミュニティケアサービス部 .....	51
在宅介護支援センターおおみや .....	54
常陸大宮市在宅医療・介護連携推進センター .....	55
栄養科 .....	56
薬剤科 .....	57
診療サービス課 .....	58
管理部 .....	59
経理部 .....	61
人事課 .....	62
法人サポート部 .....	63
〔学校法人志村学園〕	
茨城北西看護専門学校 .....	64
〔博友会〕	
事務サービスグループ .....	66
栄養サービスグループ .....	67
御前山フロイデガルテン .....	68
御前山デイサービスセンター .....	69
ごぜんやまホームヘルプステーション .....	70
ごぜんやま訪問入浴サービスセンター .....	71
在宅介護支援センターごぜんやま .....	72
ごぜんやま総合ケアプランセンター .....	73
フロイデグループホーム桂 .....	74
フロイデ総合在宅サポートセンター美和 .....	75
フロイデ総合在宅サポートセンター城里 .....	76
大宮フロイデドルフ .....	77
フロイデアシストハウス大宮 .....	78
8. 各委員会活動報告	
〔博仁会〕	
接遇向上委員会 .....	79
医療介護安全推進委員会 .....	85
感染対策委員会 .....	86
褥瘡対策委員会 .....	87
〔博友会〕	
感染・褥瘡予防委員会 .....	88
地域広報委員会 .....	89
食事委員会 .....	90
リスクマネジメント委員会 .....	91
防災管理委員会 .....	92

車両安全管理委員会 .....	93
-----------------	----

## 第二部

### 1. 学術活動

(1) 理事長執筆取材講演実績 .....	97
-----------------------	----

(2) 学会発表 .....	102
----------------	-----

### 2. 各種行事

第23回全法人目標・成果発表大会 .....	104
------------------------	-----

茨城県央・県北脳卒中地域連携バス研究会 .....	106
---------------------------	-----

ごぜんやまつり2023 第69回長倉七夕まつり .....	107
-------------------------------	-----

# 巻 頭 言

## 2023年度法人年報発刊に当たって

医療法人 博仁会  
社会福祉法人 博友会  
学校法人 志村学園  
理事長 鈴木 邦彦

2023年を振り返りますと、社会全体が大きな節目を迎えた一年であったと実感しております。5月には新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」へと移行し、長く続いた行動制限が緩和され、地域社会には徐々に日常の活気が戻ってまいりました。当グループにおきましても、感染対策を継続しながら、地域に根差した医療・介護・福祉・教育の提供を改めて実践する一年となりました。

この年の大きな喜びとして、2023年4月1日に「フロイデひたちなかメディカルプラザ」を無事開設できたことが挙げられます。本施設は、ベルリン棟とミュンヘン棟の二棟からなり、有床診療所（19床）を中心に、訪問系サービスの充実とともに、看護小規模多機能型居宅介護、住宅型有料老人ホーム（14室）、コミュニティカフェ、売店、メディカルフィットネス、学習室、地域交流スペースを設置し、地域の皆さまが元気な時からご利用していただける「健院」として多世代交流拠点となっています。隣接するフロイデ総合在宅サポートセンター、フロイデグループホームひたちなかと一体となり、在宅から入院、生活支援までを切れ目なく支える拠点として、多くの方々に期待を寄せていただいております。皆様の温かいご理解とご支援のもと運営は順調に推移し、2024年初頭にはフロイデケアタウンひたちなか第3期工事を着工することができました。「フロイデウェルビーイングプレイスひたちなか」では、これまでのサービスに加えて、サービス付き高齢者向け住宅や小規模多機能型居宅介護、児童発達支援・放課後等デイサービス、小規模保育・病児保育、就労継続支援B型を新たに開設予定です。2025年4月にこれらの施設が加わることにより、子どもから高齢者、障がいのある方まで、全世代・全対象型の地域包括ケアを実現する「だれもが自分らしく暮らせるまち」フロイデケアタウンひたちなか、いよいよ完成の時を迎えます。

また、回復期リハビリテーション病棟スイス館が茨城県内で初めて「病院機能評価（高度・専門機能）：リハビリテーション（回復期）Ver.1.0」として認定されたことも、当グループにとって大きな成果であります。今後も地域医療の先駆者としての責任と誇りを胸に、質の高い医療の提供に努めてまいります。

当グループはこれからも、患者様・利用者様の安心と職員の幸せを両立させ、その成果を地域社会へ還元できるよう全力を尽くしてまいります。今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# 医療法人 博仁会

## 【経営理念】

私たちは、お客様が住みなれた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために、必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

## 【経営目標】

私たちは、県央・県北西部のリハビリセンターと高齢者・障害者総合ケアシステムの確立を実現します。

## 【綱領】

1. 顧客様に対する気配りを念頭におく。
1. 顧客様に対して笑顔で接し、接遇向上を常に心掛ける。
1. 品質は全職員の融和と協力によって機能が発揮される。
1. 保健と福祉は医療・介護の一環である。
1. 地域に対する配慮を大事にする。

## 【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、いつでもサービスの改善を心がけることにより、ご利用者様ならびにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供いたします。

## 【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

# 社会福祉法人 博友会

## 【経営理念】

私たちは、お客様が住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らしていただくために必要な保健・医療・福祉の総合的なサービスの提供に努めます。

## 【法人目標】

1. 地域の社会資源としての役割を十分に発揮した、地域共生社会の実現。
2. 法人運営のための収益確保と災害・感染対策を含めた事業継続計画を策定。
3. ICT・IOTを活用した業務効率化と科学的介護への取り組みの実施。
4. 働き方改革の推進と「人財」確保。
5. 新給与体系及び新人事考課制度の効果的運用。

## 【品質方針】

当法人は、お客様のニーズに応え、「笑顔・感謝・工夫」をモットーに、ご利用者様並びにご家族様に安心を与え、信頼される保健・医療・福祉サービスを提供するとともに、品質マネジメントシステムの継続的な改善に努め、常にサービスの質の向上を目指します。

## 【地域リハビリテーション定義】

地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるように、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。

## 法人の沿革

1951年	志村大宮病院設立	開設
1953年	鈴木 芳男 理事長・院長兼任	フロイデ総合在宅サポートセンター美和開設
1996年	鈴木 邦彦 院長就任	フロイデ在宅サポートセンター大宮北開設
1998年	鈴木 芳男 会長就任 鈴木 邦彦 理事長・院長兼任	2006年 フロイデ総合在宅サポートセンター緒川開設 常陸大宮市南部地域包括支援センター開設
1995年	※ おおみや訪問看護ステーション開設	プライベートマーク認証取得
1996年	老人保健施設大宮フロイデハイム開設 大宮デイケアセンター開設 大宮リハビリテーションセンター開設 在宅介護支援センターおおみや開設	2007年 フロイデ総合在宅サポートセンター山方開設 フロイデ総合在宅サポートセンター水戸 けやき台開設
1998年	志村デイケアセンター開設（現在の志村 デイサービスセンター） おおみやホームヘルパーステーション開設	2008年 フロイデ総合在宅サポートセンター城里開設 医療法人 博仁会 志村大宮病院附属 志村クリニックごぜんやま開設
1999年	おおみや総合ケアプランセンター開設	2009年 フロイデ工房しろさと（障害者就労支援 施設）開設
2000年	療養型病棟「チロル館」開設 社会福祉法人 博友会 設立	茨城県指定「小児リハ・ステーション」 開設
2001年	介護老人福祉施設「御前山フロイデガル テン」開設	2010年 学校法人志村学園 茨城北西看護専門学 校開校
2002年	茨城県指定「地域リハ・ステーション」 開設 茨城県指定「おおみや訪問リハ・ステ ーション」開設	フロイデ総合在宅サポートセンター水戸 河和田開設 みとけやき台総合ケアプランセンター 開設
2003年	病院機能評価「複合 A（一般・長期療養）」 認定取得 フロイデグループホーム桂開設 茨城県北西総合リハビリテーションセン ター開設 ・回復期リハビリ病棟「スイス館」 ・総合リハビリテーション施設 「ヨーデルリハビリテーションセン ター」	2011年 地域密着型介護老人福祉施設「大宮フロ イデドルフ」開設 院内保育所「フロイデキンダーガルテ ン」開設
2004年	ISO9001：2000認証取得	2012年 フロイデ総合在宅サポートセンターひた ちなか開設 ひたちなか総合ケアプランセンター開設 コミュニティカフェ「バンホフ」開設
2005年	地域リハビリテーション広域支援センター 開設 亜急性期病床開設 フロイデ在宅サポートセンター大宮中央	2013年 フロイデ総合在宅サポートセンター友部 開設 やまがた総合ケアプランセンター開設 病院機能評価Ver.6.0認定取得 志村フロイデ地域包括ケアセンター開設

2014年	フロイデ総合在宅サポートセンター水戸 けやき台小規模デイサービスつどいの家 開設	2020年	フロイデグループホームひたちなか フロイデ水戸メディカルプラザ 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
2015年	志村大宮病院新本館「ドイツ館」竣工 ・緩和ケア「エーデルワイス病棟」開設 フロイデ総合在宅サポートセンター大宮 開設 フロイデアシストハウス大宮開設 ひたちなか市北部地域包括支援セン ター開設 くるみんマーク（子育てサポート認定企 業）認定	2021年	フロイデひたちなかメディカルプラザ 着工
2016年	院内売店 KIOSK PLATZ 開設 志村検査・健診センター 開設	2023年	フロイデひたちなかメディカルプラザ 開設 みんなの内科外科クリニック(有床診療所) 看護小規模多機能型居宅介護 住宅型有料老人ホーム 訪問診療 訪問看護 訪問介護 訪問リハビリテーション 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 居宅介護支援事業所 就労移行支援 就労継続支援 A型 多世代学習拠点 地域交流スペース  病院機能評価 高度・専門機能：リハビリテーション (回復期) Ver,1.0 副機能リハビリテーション病院
2017年	認知症対応型通所介護志村デイサービス センター（さくらデイサービス）開設 茨城県指定 認知症疾患医療センター 開設 在宅介護支援センターおおみや 開設 機能訓練センターフリーゲル 開設 フロイデ総合在宅サポートセンター友部 開設 フロイデアシストハウス大宮 開設 フロイデひたちなか訪問看護ステーショ ン 開設 フロイデ工房なか 開設 ロッチェなか 開設 療養型病棟「チロル館」が医療療養病棟 「チロル館」へ変更	2024年	フロイデケアタウンひたちなか 第3期工事着工
2018年	病院機能評価 一般病院1 3rdG:Ver.1.1 認定取得 副機能 リハビリテーション病院 3rdG:Ver.1.1 副機能 緩和ケア病院 3rdG:Ver.1.1 付加機能 リハビリテーション機能 (Ver.3.0)		
2019年	フロイデグループホームひたちなか いばらきテクノエイドセンター みんなの休憩所 フロイデ水戸メディカルプラザ フロイデクリニック水戸		

## 志村大宮病院概要

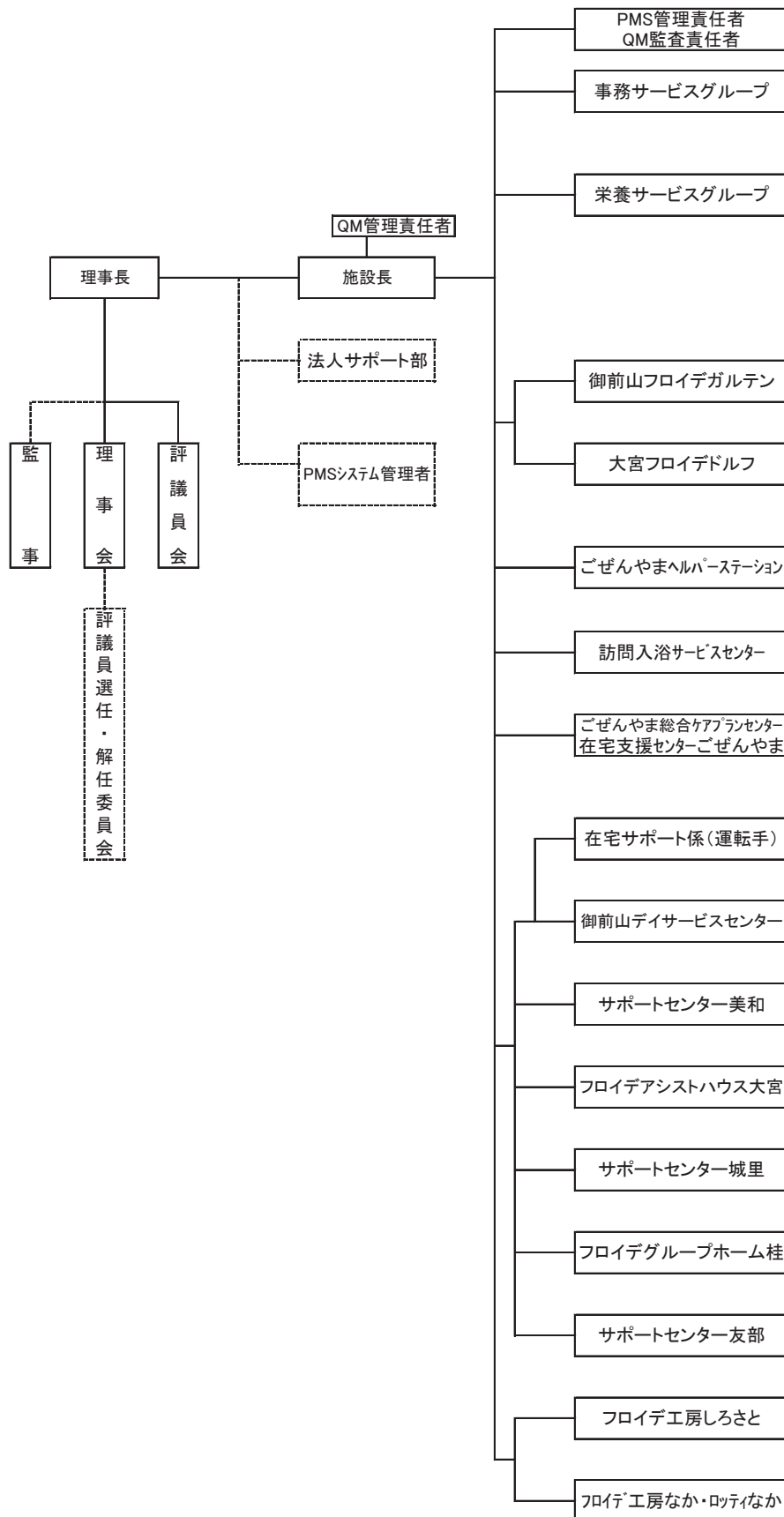
理事長・院長	鈴木 邦彦
所在地	〒 319 - 2261 茨城県常陸大宮市上町 313 番地 T E L 0295 - 53 - 1111 F A X 0295 - 52 - 2705
診療科目	内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・神経内科・心療内科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・婦人科・小児科・眼科・リハビリテーション科・放射線科・歯科口腔外科・精神科・糖尿病外来・人間ドック・企業健診
医療設備	全身ヘリカルマルチスライスCT、MRI、PSGシステム、 超音波診断装置（腹部・心臓・泌尿器科・婦人科）、 内視鏡装置（上部・下部消化管・十二指腸・気管支・咽頭・膀胱）、 デジタルX線テレビ装置、その他リハビリテーション装置
病床数	許可病床数 178 床 地域包括医療病棟 48 床 地域包括ケア病床 12 床 緩和ケア病床 20 床 回復期リハビリテーション病棟 50 床 医療療養病棟 48 床
看護体制	一般病棟 看護 10：1 緩和ケア病棟 看護 7：1 回復期リハビリテーション病棟 看護 13：1 医療療養病棟 看護 20：1 介護 20：1
指定医療機関	在宅療養支援病院 救急告示医療機関 認知症疾患医療センター 高次脳機能障害地域支援拠点病院 茨城県地域リハビリテーション研修支援センター 茨城県地域リハビリテーション広域支援センター 茨城県地域リハ・ステーション 労災保険指定医療機関 指定自立支援医療機関（精神通院医療） 生活保護法指定医療機関 難病指定医療機関 在宅難病患者一時入院事業 委託契約医療機関 訪日外国人旅行者受入れ医療機関 肺がん検診 登録精密検査医療機関（連携型） 胃がん検診 登録検診実施機関・登録精密検査医療機関 大腸がん検診 登録精密検査医療機関 子宮頸がん検診 登録検査実施機関 日本医療機能評価機構 主たる機能：一般病院 1 高度・専門機能：リハビリテーション（回復期） 副機能：緩和ケア病院 副機能：リハビリテーション病院 ISO9001（品質マネジメントシステム）：2015 認証取得 プライバシーマーク登録 日本リハビリテーション医学会認定研修施設

■ 第一 部 ■

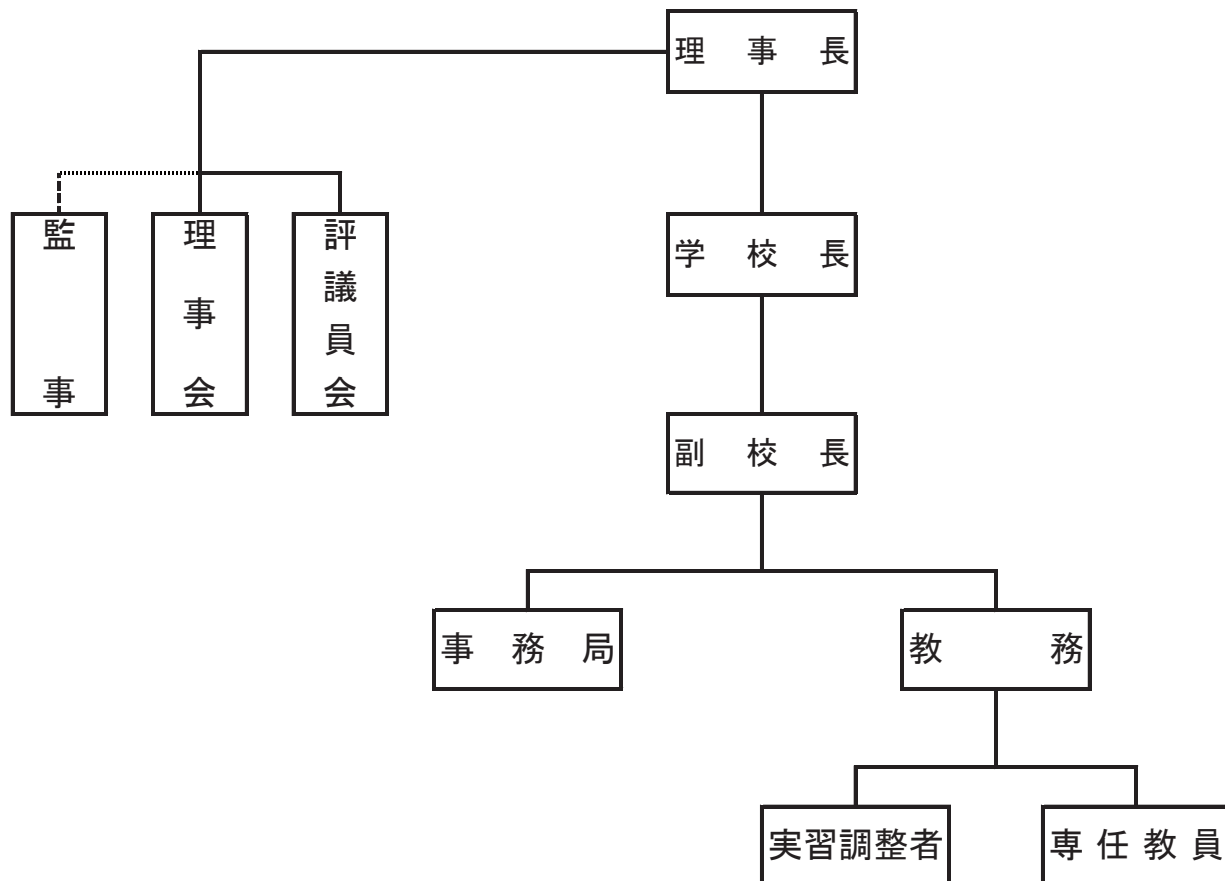




## 2. 博友会 組織図



### 3. 志村学園 組織図



## 4. 委員会一覧（博仁会）

委員会	委員長	計	開催日	役割
医局会	鈴木 邦彦	27名	第4月曜	医師、コメディカルのコミュニケーションを取り、情報を共有する場
医療介護安全推進委員会	鈴木 邦彦	24名	第4火曜	医療介護事故の分析及び再発防止などの検討。委員会によって立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び見直し。医療介護安全管理のための啓発、教育、広報。
院内感染対策委員会	鈴木 邦彦	54名	第4火曜	院内感染に対して、院内感染の予防と感染症発生時に適切かつ迅速な対応を行う。
接遇向上委員会	鈴木 邦彦	87名	第3月曜	職員がプロ意識を持ちご利用者に「心から満足していただけるサービスの提供」を行うため、接遇マナー向上・教育活動とご利用者のニーズを収集し、更には接遇向上のための企画立案活動を行う。
看護部教育委員会	加藤 令子	17名	第3水曜	職員に対して法人内外における教育の機会を設け、資質の向上ならびに研究の推進をはかる。
安全衛生委員会	大仲 功一	24名	第4木曜	労働災害の防止、責任体制の明確化、職員の安全と健康を確保、快適な作業環境の形成促進。
医療ガス安全委員会	鈴木 邦彦	7名	1回/年	保守点検実施責任者に点検を行わせる。新築、増築、改修工事、及び修理等実施の際の安全確保。院内各部門への、医療ガスに関する知識の普及、啓発。
NST	鈴木 邦彦	11名	毎週月曜	ご利用者様のよりよい栄養管理を迫及する。
褥瘡対策委員会	西村 雅美	36名	第3木曜	院内における褥瘡発生を予防し、褥瘡に対し発症早期より適切なケア・治療を行えるような体制を整える。

## 4. 委員会一覧 (博友会)

委員会	主幹	計	開催日	役割
運営委員会	鈴木 邦彦	25名	第3金曜	各管理者が集い実績報告ならび運営に必要な検討事項を協議し決定する。
感染・褥瘡予防委員会	宮路 満智子	35名	第1火曜	各事業所での感染予防・褥瘡予防のために必要な情報伝達や職員教育を行う。
地域広報委員会	森 達也	14名	不定期	地域共生社会を実現する為に地域に参画し交流を図る。また地域のニーズや課題の解決に目を向け施設の役割や連携を図り情報発信を行う。
食事委員会	鈴木 真弓	19名	第3水曜	安全で美味しい食事の提供のために嗜好調査・アンケート結果等を分析し、食事の質の向上や顧客にニーズに応える為の活動を行う。
教育委員会	小藺 靖範	15名	第4木曜	職員に対して法人内外における教育の機会を設け、資質の向上ならびに研究の推進を図る。
防災管理委員会	佐藤 信也	25名	年4回	消防訓練や職員の防災教育を図り、災害時適切な行動ができるように備える。
サービス向上委員会	清水 良則	22名	第2火曜	職員がプロ意識を持ちご利用者に「心からの満足していただけるサービス提供」を行うため、接遇マナー向上・教育活動とご利用者のニーズを収集し、更には接遇向上のための企画立案活動を行う。
リスクマネジメント委員会	藤田 章宏	5	第3月曜	各事業所で発生したヒヤリハット及び事故の集計・分析を行う。重大な事故が発生しない為の予防活動、指導を行う。
権利擁護委員会	岩間 武寿	17名	年4回	介護施設として必要な権利擁護等の活動に対し、体制や環境の整備・職員教育を行う。
業務改善委員会	室井 英雄	26名	不定期	サービスの質の向上及び顧客満足度の向上を目的に業務改善を推進し、職場環境や業務効率の改善を図る環境づくりを行う。
車両安全管理委員会	宮田 匠	13名	第3月曜	職員の車両運用と交通安全教育を図り、安全運転・車両管理の意識を高め、車両事故ゼロを推進する。

## 5. 年間行事（博仁会）

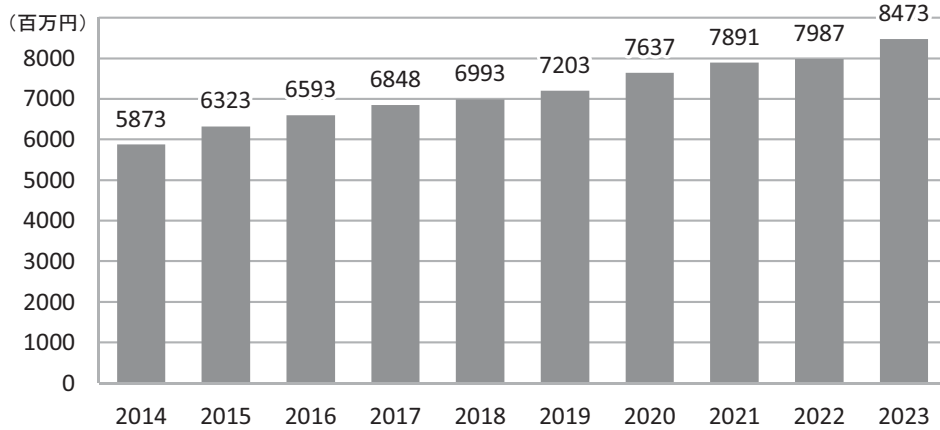
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医局会	24	22	7/3	24	9/4	25	23	12/11	11	22	3/4	4/8
全体朝礼	3	1	12	3	7	4	2	6	4	15	5	4
地域清掃活動	3	1	12	3	7	4	2	6	4	15	5	4
サービス改善ミーティング	14	9	16	10	8	5	10	7	12	15	14	11
医療介護安全管理ミーティング・感染対策委員会	14	9	16	10	9/5	5	10	7	12	15	14	11
各部門連絡ミーティング	14	9	16	10	9/5	5	10	7	12	15	14	11
地域包括ケアミーティング	13	16	20	18	9	13	12	8	21	16	21	13
経営戦略会議	12	10	19	8/17	17	19	11/8	8	12	10	3/13	13
食事改善推進プロジェクト	10	8	12	10	14	11	16	13	11	15	19	11
PST ミーティング	24	22	7/3	24	9/4	25	12/11	12/11	12/11	22	3/4	4
薬剤・医事・検査ミーティング	24	22	19	24	9/12	12	23	9	1/15	15	20	12
コア6 ミーティング	11	9	13	11	8	12	10	14	12	9	13	12
待遇向上委員会	11	9	13	11	8	12	10	14	12	9	13	12
茨城北西総合リハビリテーションセンター運営ミーティング	25	16	20	18	9/19	19	17	16	12	16	20	12
褥瘡対策委員会	20	18	15	20	17	21	19	16	21	18	15	21
事務ミーティング	12	10	20	12	9	13	17	8	12	10	21	13
タウンマネジメントミーティング	13	10	20	12	9	13	17	8	21	16	21	13
フロイデ水戸メディカルプラザ運営ミーティング	21	23	22	19	29	25	6	15	29	26	3/29	29
フロイデケアタウンひたちなか運営ミーティング	17	17	27	21	18	20	18	24	26	23	27	28
感染対策小委員会	26	24	28	26	23	27	25	22	27	24	28	27
呼吸器センターミーティング	17	15	19	8/7	9/11	11	11/6	12/25	25	2/19	19	12
認知症連携ミーティング	17	23	19	8/7	9/11	11	11/6	12/25	25	16	20	12
経営会議	28	6/13	7/4	8/2	30	10/3	11/2	12/12	1/10	2/1	3/6	4/2
安全衛生委員会	27	25	22	27	24	28	26	30	28	25	22	28

## 5. 年間行事（博友会）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体朝礼	4	9	6	4	1	5	3	7	5	9	6	5
地域清掃活動	4	9	6	4	1	5	3	7	5	9	6	5
運営ミーティング	11	16	30	20	9/4	25	24	16	11	22		26
事務サービスグループ ミーティング	26	24	28	26	23	27	25	22	27	24	28	26
栄養サービスグループ ミーティング	6	10	6	7	3	6	17	6	5	18	2	1
御前山フロイデガルテン ミーティング	13	12	7	12	17	15	20	20	26	25	12	15
御前山デイサービス ミーティング	16	28	25	16	27	24	29	26	24	28	25	24
ごぜんやま訪問入浴サービス ミーティング	27	25	22	27	24	21	26	23	21	25	29	20
ごぜんやま総合ケアプランセ ンターミーティング	26	24	28	28	30	27	25	29	27	24	21	27
グループホーム桂 ミーティング	12	15	15	13	16	21	13	21	14	23		14
サポートセンター美和 ミーティング	8	6	3	1	5	9	7	4	2	6	3	2
サポートセンター城里 ミーティング	12	9	13	14	24	14	17	16	14	12	13	19
大宮フロイデドルフ ミーティング	26	24		27	24	21	19	24	21	25	22	
サポートセンター友部 ミーティング	10	8	12	10	7	11	9	13	11	8	12	11
ウェルビーイングチーム ミーティング	14	12	9	27	18	8	12	17	15	19	2	8
接遇向上委員会	11	9	13	11	8	12	10	14	12	9	13	12
車両安全管理委員会	17	15	19	24	22	25	16	20	18	15	19	18

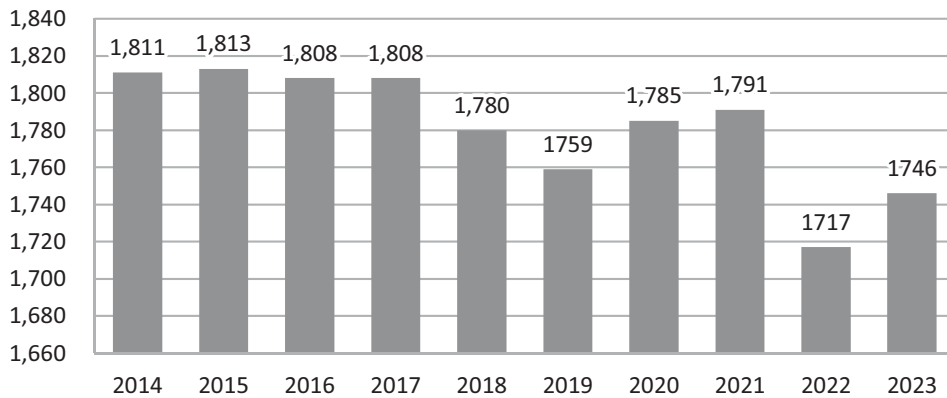
## 6. 事業実績 (博仁会)

### ◎全体実績推移



### ◎一般病棟科患者数推移

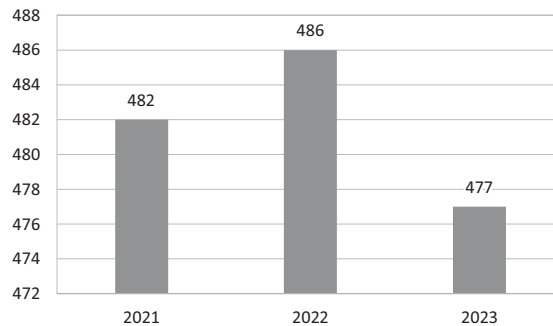
患者数推移



項目	目標	実績
当日収入患者数	59名/月	57.2名/月
平均在院日数 DPC 効率係数 1.04 の維持	19.0 日以下 1.04 以上	20.1 日 1.03
栄養サポートチーム加算	52.0 件	16.3 件
摂食機能療法算定	15 件/月	14.7 件/月
認知症ケア加算 1	200 件/月	211 件/月
せん妄ハイリスクケア加算	36 件/月	51.5 件/月
退院前・後訪問指導料	3 件/月	0.3 件/月
地域包括ケア病床在宅復帰率 70%以上の確保	70%	87.7%
病院内デイケアの実施	週 5 回 60 人参加	13.5 回/月 36.5 人/月
排尿自立支援加算	1 件/年	0.4 件/年
重症度、医療看護必要度 I	18.0%以上	22.6%/月

◎緩和ケア病棟の実績

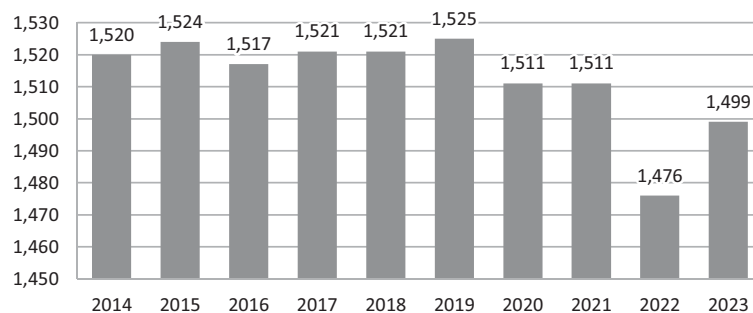
患者数推移



項目	目標	実績
緩和ケア対象患者の確保 病床利用率	18床/月	15.7床/月
緩和ケア入院基本料1 在宅復帰率 待機期間	16%/年 平均10日	14.9%/年 平均5.8日

◎回復期リハビリ病棟の実績

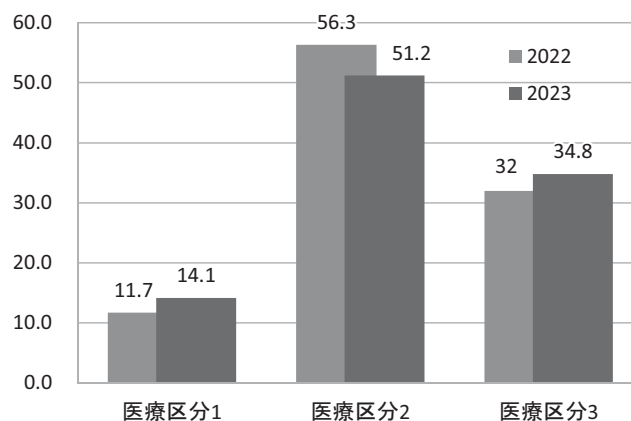
患者数推移



項目	目標	実績
回復期リハビリテーション病棟入院料1の算定 重症患者比率 重症患者回復比率 在宅復帰率 リハビリ実績指数	40.0%以上 30%以上 80%以上 43以上	46.3% 68.9% 84.3% 44.4
病床利用率	100.0%	98.0%
摂食機能療法		56.6回/月
排尿自立加算		3.3件/月
認知症ケア加算		109.3件/月
退院後の患者様の生活状況の確認をする体制構築 (3.8名/月)		

◎療養病棟の実績

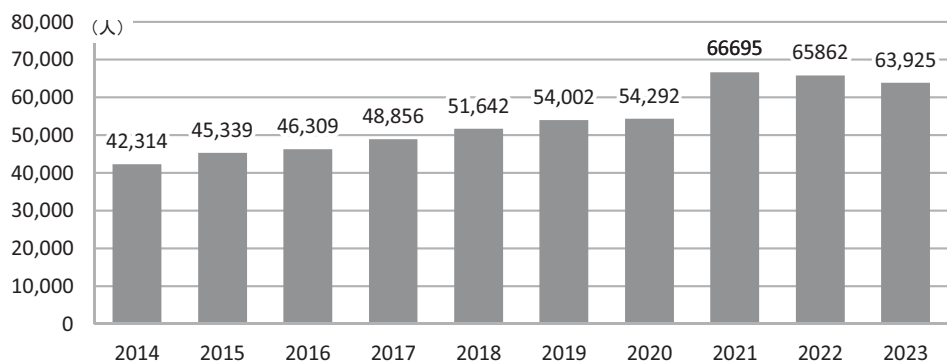
患者数推移



項目	目標	実績
病床利用率	100.0%	98.5%
医療区分2・3割合	85%以上	101%
在宅復帰率向上	50%	16.5%
認知症ケア加算	2,400件	2,126件
栄養サポートチーム加算	60件	32件
褥瘡対策加算	600件	1,447件
ケアの質の向上	SAT- M eSSAGE モニター管理の充実 リハビリ個別見学再開 患者・家族の満足度向上（四季に応じたイベント）3回開催/年 看護・看護補助者教育 勉強会実施 看護学校実習受け入れ 看護師：看護師国家試験1名合格 介護技能実習生：専門級試験（2名）初級試験（1名）介護福祉士（1名）合格	

### ◎外来科の実績

患者数推移（月平均）



項目	実績	達成率
外来実人数増加	48,875名	119.8%
救急車受け入れ件数 看護師処遇改善	219件	98.6%
外来患者延べ数増加	63,925名	109.1%
外来患者単価増収	89.619	87.9%
訪問診療件数の増加	1,490名	82.8%
泌尿器科訪問診療	75名	104.2%
呼吸器センター件数の増加		
患者数増加	2,660名	184.7%
がん患者指導管理料1算定	10件	83.3%
地域包括診療料1	10件	33.3%
オンライン診療算定	1名	
安全な医療サービスの提供：インシデント・アクシデント報告書レベル3以上 2件		
一般病棟在院患者数の増加 外来からの入院患者数 589名 94.8%		
糖尿病カードシステム開始 10名		

◎志村地域医療連携センター

項目	目標	実績
紹介件数	1,920 件	1,803 件
一般病棟 1 日当たりの在院患者数の安定	57 名	56.0 名
一般病棟 稼働率の安定	98%	95.5%
入退院支援加算 1 の増加	420 件	443 件
介護支援連携指導料	168 件	114 件

◎老健入所科の実績

平均在所月数と在宅復帰率推移

項目	目標	実績
平均在所人数の安定確保	80 名以上	78.6 名
超強化型老健の維持 在宅復帰率・在宅療養等指標 短期集中リハビリ	85 点以上 560 件	82.3 点 555 件
品質目標 ・季節に応じたイベント 6 回開催 ・グループケア ターミナルケア利用者 3 名実施	・認定介護福祉士 1 名受講 ・看護・介護の質向上 年 12 回の勉強会	

◎認知症疾患医療センター実績

項目	目標	実績
総相談件数	1,824 件	1,388 件
外来新患者数	120 件	152 件
医療機関からの紹介件数	60 件	68 件
認知症専門診断管理料 1 算定数	48 件	51 件
医療・専門機関との連携数	336 件	259 件
認知機能検査実施数	324 件	340 件
・患者様満足度アンケート実施 ・常陸大宮市認知症初期集中支援チーム活性化	・フロイデブレインクラブの活性化 ・市の認知症支援事業との連携強化	

◎画像検査科

項目	目標	実績
一般撮影件数	11,770 件	12,179 件
CT 撮影	2,520 件	2,846 件
MRI 撮影	1,020 件	988 件
MDL (胃部バリウム)	930 件	978 件
夜間・休日オンコール 3 件 対応率 100%		
CT・MRI 共同利用への取り組み 検査依頼 実績 66 件		
STAT 画像報告 (緊急画像所見報告) 医師への進言 35 件 問い合わせ 111 件		
CT・MRI 読影レポート 既読管理 既読率 96.3%		

◎ホームヘルパーステーションの実績（おおみや・ごぜんやま）

項目	目標	実績
訪問件数	27,305 件	28,199 件

◎おおみや訪問看護ステーションの実績

項目	目標	実績
訪問件数	5,587 件	5,730 件

◎ケアプランセンターのケアプラン作成実績

項目	目標	実績
ケアプランセンター（5事業所）	12,466 件	11,491 件

◎地域包括支援センターの介護予防プランの作成実績

項目	目標	実績
常陸大宮市南部地域包括支援センター	1,110 件	1,564 件
ひたちなか市北部地域包括支援センター	960 件	875 件

◎在宅介護支援センターおおみやの実績

項目	目標	実績
高齢者見守り安否確認事業	83.2 件／月	86.7 件／月

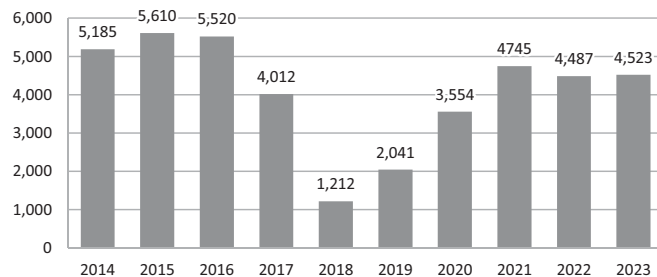
◎コミュニティケアサービス部の利用者数実績

項目	目標	実績
ケアタウン大宮		
大宮デイケアセンター	23,853 人	23,391 人
フロイデ総合在宅サポートセンター大宮 通所 小多機	10,700 人 10,614 人	10,815 人 10,345 人
志村デイサービスセンター	3,443 人	3,068 人
フロイデ総合在宅サポートセンター緒川	9,582 人	9,192 人
フロイデ総合在宅サポートセンター山方 通所 小多機	10,000 人 6,954 人	10,226 人 6,944 人
御前山デイサービスセンター	10,657 人	10,337 人
フロイデ総合在宅サポートセンター美和 通所介護 グループホーム	10,383 人 3,285 人	9,093 人 3,215 人
アシストハウス大宮（サ高住）	7,300 人	7,320 人
ケアタウン水戸		
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台 通所 小多機	10,383 人 10,238 人	9,694 人 9,927 人

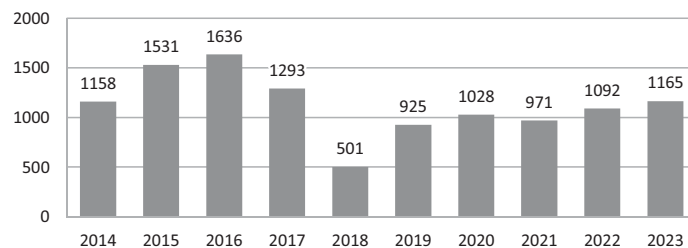
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸けやき台 つどいの家	2,817 人	2,736 人
フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田 通所 小多機	10,383 人 10,614 人	10,475 人 10,318 人
フロイデ水戸メディカルプラザ 通所 看多機 住宅型有料 訪問介護 訪問看護 訪問リハビリ 診療所 カフェ来店客数 フィットネス登録者数 定期巡回 就労支援	17,937 人 10,614 人 7,320 人 3,844 人 5,673 人 5,447 人 3,839 人 19,991 人 1,072 人 7,320 人 3,442 人	17,326 人 9,961 人 7,074 人 4,042 人 6,318 人 5,060 人 3,816 人 19,158 人 993 人 5,325 人 2,360 人
ケアタウンひたちなか		
フロイデ総合在宅サポートセンターひたちなか 通所介護 認知症対応型通所 小多機多機能 グループホーム 共用型認知症デイ フロイデひたちなかメディカルプラザ クリニック 病棟 入院リハ 看護小規模 住宅型有料 定期巡回 訪問介護 訪問看護 フィットネス カフェ 就労支援	10,717 人 3,421 人 10,614 人 6,588 人 1,555 人 7,534 人 6,560 人 12,816 人 9,734 人 4,944 人 6,684 人 4,301 人 7,869 人 810 人 11,892,000 円 1,856 人	10,645 人 2,857 人 10,276 人 6,560 人 955 人 9,937 人 6,560 人 12,241 人 7,420 人 4,292 人 3,875 人 2,183 人 10,660 人 823 人 12,071,681 円 684 人

### ◎薬剤科の実績

薬剤管理指導料推移



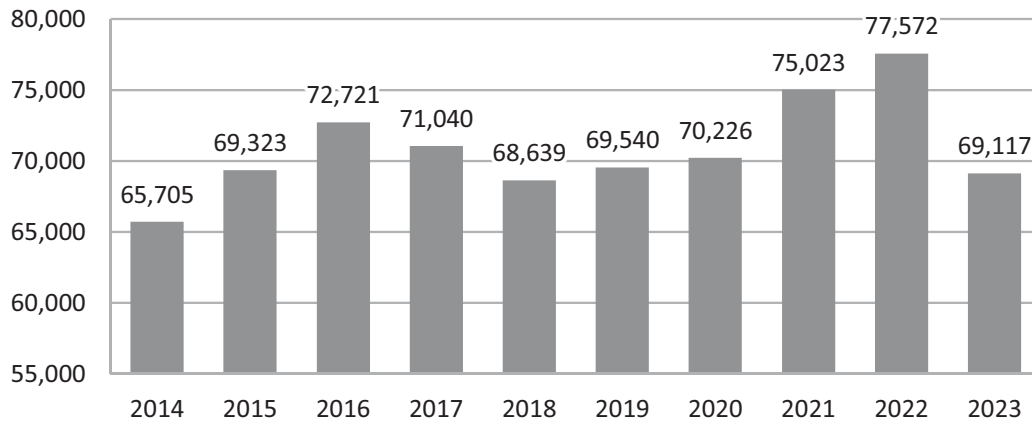
訪問薬剤管理指導回数推移



項目	目標	実績
病棟薬剤管理指導	4,200 件	4,523 件
訪問薬剤指導	1,080 件	1,165 件
薬剤師病棟配置加算	3,000 件	3,447 件
院内後発品割合	90%	95.36%

### ◎栄養科の実績

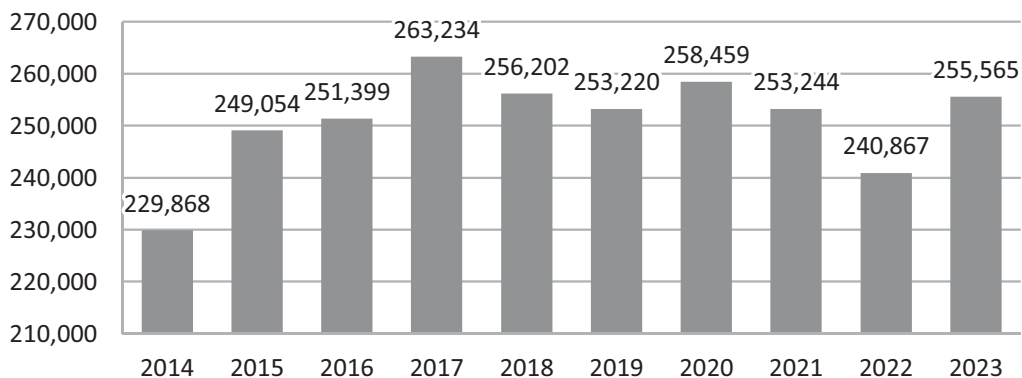
配食件数実績推移



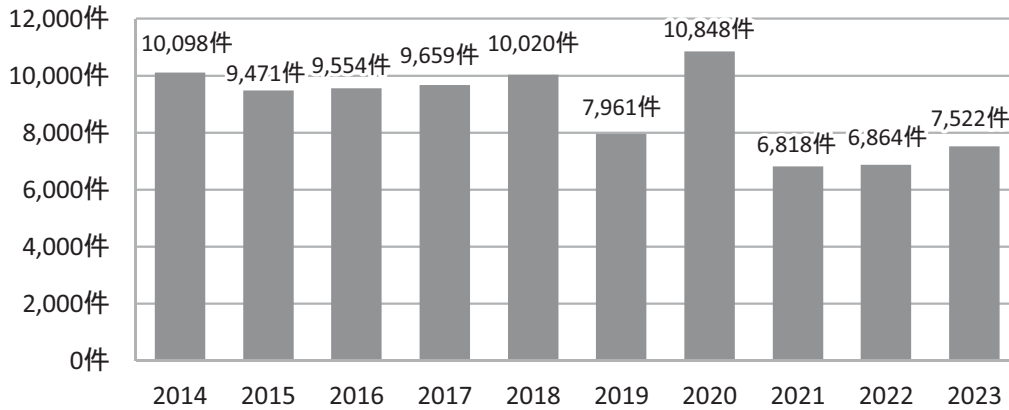
項目	目標	実績
配食件数	108,391 食	107,379 食
居宅栄養管理指導	施設 個人	902 件 10 件
栄養指導（個人）	840 件	174 件
食事推進プロジェクト バイキング月 1 回の実施・新メニュー・改善活動 24 品目		
食材費高騰への対応：数社見積比較、価格交渉、備品の見直し		
認定栄養ケア・ステーション おおみや、水戸 MP、ひたちなか MP の 3 拠点での活動		
チーム医療の推進：各病棟、施設ミーティング参加		
人員の確保：ミャンマーより技能生の受入れ 3 施設各 2 名配置		

### ◎リハビリテーション事業部の実績

リハビリ訓練単位推移「年間訓練単位」



訪問リハビリ単位推移



項目	目標	実績
訪問リハビリ延べ利用者数		
大宮エリア	7,341 件	7,522 件
水戸エリア	5,447 件	5,064 件
ひたちなかエリア	1,201 件	1,544 件

◎人事課の実績

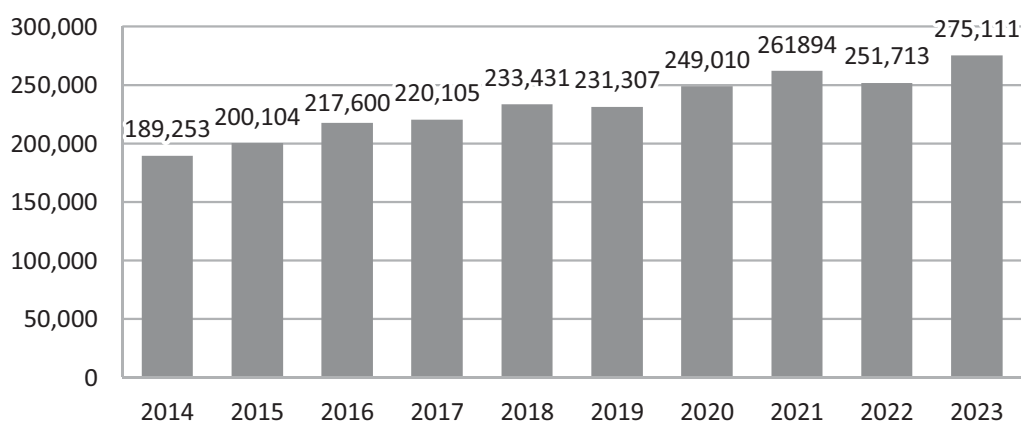
フロイデひたちなかメディカルプラザ開設後の人員把握 ・必要人員確保の為に中途採用活動。中途入職者 73 名
ウェルビーイング推進室による不調者の抑止・復帰支援 ・産業医及び公認心理師と調整連携を図り、随時面談等フォロー実施。
外国人人材支援 ・ミャンマー特定技能 調理 6 名 ・ベトナム技能実習生 介護 4 名 ・技能実習生から特定技能へ 介護 2 名 ・生活環境準備等随時支援

◎診療サービス課の実績

DPC の収益維持	DPC 期間内の早期退院調整（入院期間 I ・ II）55%以上 50.7% 在院日数管理と入院期間 I ・ II 退院管理、効率性係数 1.04 以上の維持
検査・健診センター受診者数増加	特殊健診・OP 検査の拡充、各企業業種別の簡易健診の開始 目標 3,360 件、実績 3,090 件（職員を除く）
新型コロナウイルス感染症対応	ワクチン予約管理、接種実績、各補助金及び接種協力金申請
無料送迎バス利用者増と維持・確保	目標 年間 12,000 名→ 実績 10,081 名 84.0%
みんなの内科外科クリニック	新規開設対応 医療機関届出 各システム稼働準備（電子カルテ、医事システム）

◎営業課の実績

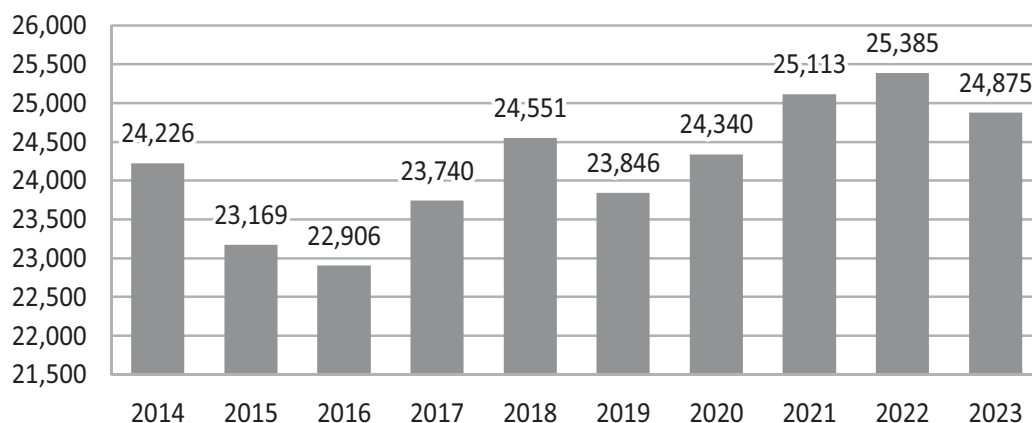
いばらき総合介護サービス収入推移



項目	目標	実績
いばらき総合介護サービス売上高	264,400 千円	275,111 千円
いばらき総合介護サービス収益	12,900 千円	15,254 千円
介護事業部売上高	189,799 千円	198,720 千円
カフェ事業部売上高	28,198 千円	28,762 千円
不動産賃貸事業部売上高	8,043 千円	6,941 千円
売店事業部売上高	38,384 千円	40,687 千円
住宅改修件数	72 件	45 件
レンタル利用者数	8,700 人	9,626 人
レンタル新規利用者数	215 人	227 人
各事業のKPI管理の徹底 病院を中心としたまちづくりの推進 人事課、栄養科とミーティング実施		

◎管理部の実績

年間コスト削減実績



コスト低減の強化

- ・目標：25,000 千円/年間 実績：24,875 千円/年間 99.5%
- ・SPD 物流管理システム運用によるコスト削減率 6.6%削減
- ・空調制御システムの導入による電気料金の削減 16.7%削減
- ・クリアエコによる水道料金の削減・事故の低減による修理費の削減
- ・エレベータ保守点検業務委託の見直しによる保守料の削減 19.8%

<p>情報システムの整備・情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子カルテ、医事会計システムリプレイス</li> <li>・ドイツ館無線 LAN 増強工事</li> <li>・Wi-Fi 利用増加に伴う院内 NW 見直し</li> <li>・サイバーリスク保険加入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PACKS サーバー更新</li> <li>・ P マーク認証取得</li> <li>・ 広報誌「おげんきですか」発行</li> <li>・ HP コンテンツの充実</li> </ul>
<p>施設整備推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スイス館エアコン設備修理</li> <li>・ スイス館ナースコールシステム更新</li> <li>・ ドイツ館エアコンの解体洗浄</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車両の入れ替え実施</li> </ul>
<p>院内保育所「フロイデキンダーガルテン」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども子育て支援事業費補助金申請（病児保育対象補助金）</li> <li>・ 保育料の無償化（職員）</li> <li>・ 保育士の確保</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 熱中症対策</li> <li>・ 保育所 ICT 化推進による保育士の負担軽減</li> <li>・ HP 作成</li> <li>・ パンフレット更新</li> </ul>	
<p>感染症 BCP 作成</p>	
<p>保健所立入検査</p>	
<p>健康経営優良法人認定</p>	

### ◎経理部の実績

<p>管理会計を継続し、各セグメントの利益率向上により、法人全体の経営安定化を進めていく。</p>
<p>ひたちなか MP 開業等で支出増加するため、資金繰りにより注力していく。</p>
<p>当貸の借入金が増加しないよう負債勘定残高を管理していく。</p>

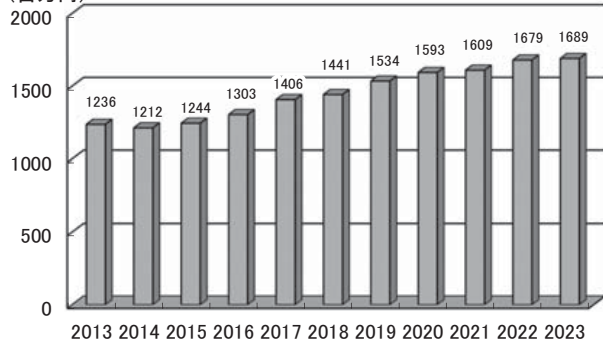
### ◎法人サポート部の実績

<p>日本地域包括ケア学会 第 5 回大会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2023 年 12 月 17 日 ハイブリッド開催 1,209 名参加</li> </ul>
<p>日本在宅療養支援病院連絡協議会運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勉強会年 3 回開催（松田晋哉先生・織田正道先生・近藤敬太先生）</li> <li>・ 在宅療養支援病院に関する全国調査の実施</li> <li>・ 診療報酬改定要望書を厚生労働省へ提出</li> <li>・ 理事会・定時社員総会の開催</li> </ul>
<p>病院を中心としたまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茨城北西まちづくり研究会 日南市津商店街</li> </ul>
<p>病院団体の運営支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 茨城県医療法人協会 経営勉強会 運営勉強会 理事会等</li> </ul>
<p>地域包括ケアシステムの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 9 期介護保険事業計画、介護サービス運営協議会への参画</li> <li>・ 常陸大宮市在宅医療・介護連携支援協議会への参画</li> <li>・ 厚生労働省 適切なケアマネジメント手法 パイロット事業への参画</li> </ul>

## 6. 事業実績 (博友会)

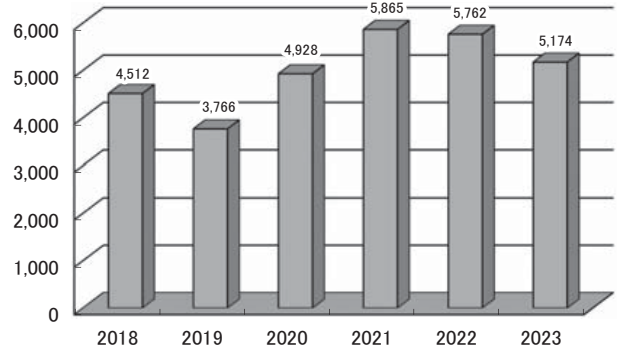
### ◎全体実績

(百万円)



### ◎育成・就労支援グループの実績

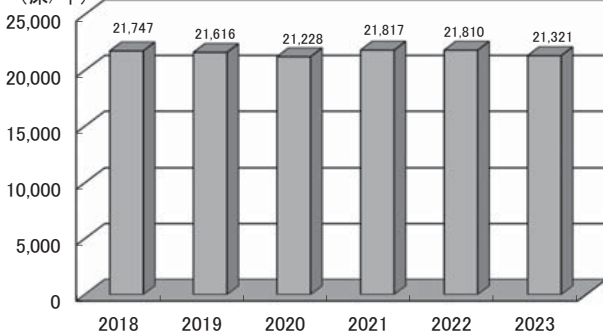
フロイデ工房しろさと 利用件数推移



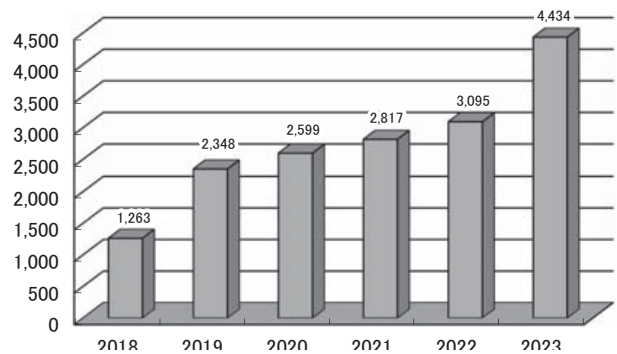
### ◎御前山フロイデガルテンの実績

利用者推移

(床/年)



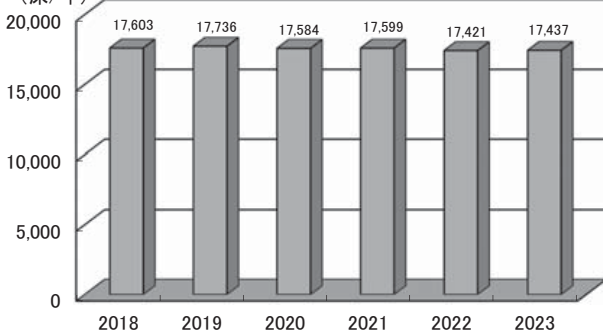
フロイデ工房なか 利用件数推移



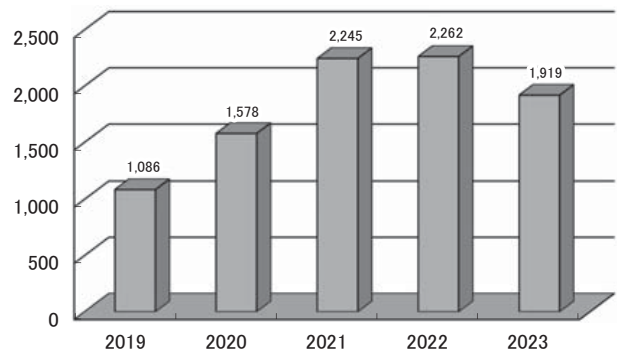
### ◎大宮フロイデドルフの実績

利用者推移

(床/年)



ロッティなか 利用件数推移



◎コミュニティケアサービス部 利用者数実績

項目	目標	実績
御前山デイサービスセンター	10,657 名/年	10,237 名/年
美和デイサービスセンター	10,383 名/年	9,093 名/年
フロイデグループホーム美和	3,285 名/年	3,215 名/年
フロイデアシストハウス大宮	7,320 名/年	7,320 名/年
フロイデグループホーム桂	6,588 名/年	6,477 名/年
フロイデ城里デイサービスセンター	10,383 名/年	10,320 名/年
小規模多機能ホーム城里	10,614 名/年	10,474 名/年
フロイデ友部デイサービスセンター	10,383 名/年	10,938 名/年
フロイデともべ訪問看護ステーション	6,222 名/年	6,935 名/年
看護小規模多機能ホーム友部	10,614 名/年	9,846 名/年
フロイデともべ定期巡回サービス	4,574 名/年	2,441 名/年
フロイデアシストハウス友部	7,320 名/年	7,320 名/年

◎ごぜんやまホームヘルパーステーション 利用者数実績

項目	目標	実績
ごぜんやまホームヘルパーステーション	7,115 名/年	7,374 名/年

◎ごぜんやまケアプランセンター 利用者数実績

項目	目標	実績
ごぜんやま総合ケアプランセンター	2,810 名/年	2,161 名/年

◎ごぜんやま訪問入浴サービスセンター 利用者数実績

項目	目標	実績
ごぜんやま訪問入浴サービスセンター	1,400 名/年	1,343 名/年

◎栄養サービスグループ 利用者数実績

項目	目標	実績
ごぜんやま配食サービスセンター	33,210 名/年	33,695 名/年
しろさと配食サービスセンター	4,020 名/年	4,589 名/年

◎事務サービスグループ 実績

項目	実績
新規事業計画策定	補助金申請・決定
働きやすい職場環境	離職率8.98% 23名/年(65歳以下 6.26% 16名)
	各種規程類改定・施行
	ストレスチェック受検率100%達成・集団分析実施
外部評価	ISO/Pマーク 更新審査対応
外国人材受入	10名/年(ミャンマー、ベトナム)技能実習生・特定技能
介護留学生確保	留学生奨学金貸与規程完成

# 7. 部門別実績報告 博仁会

## SFG 看護グループ 病院・老健部

部長 加藤 令子

2025年問題を目前とし、医療・介護ニーズの増大と人材不足の影響から「病院完結型」から「地域完結型」の医療・介護体制が求められています。在宅療養支援病院の看護部として●在宅部門との連携を強化し24時間体制を整備すること●看護実践能力の向上●ICT対応●予防医療に対応できる看護師の育成が重要と考え目標設定をいたしました。

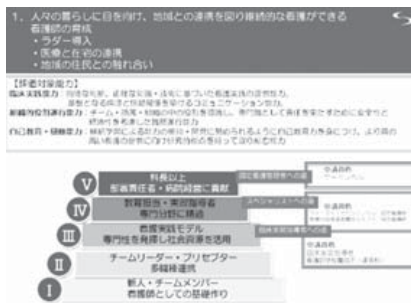
### 【目標】

1. 人々の暮らしに目を向け、地域との連携を図り継続的な看護が出来る
2. 各看護単位での専門性を発揮した看護実践能力の向上
3. 病院経営の参画
4. 健康で安全な職場づくり
5. 2024年度診療報酬改定対策

### 【実際】

#### 《教育》

2024年の診療報酬改定のテーマ「治し、支える医療」は、病院看護師も「生活者の視点」をとり入れた介護との連携や調整が求められています。生活視点の強化を目的に、医療と在宅の連携、地域住民との触れ合う機会を作りました。また、係長・主任が運営する看護部教育委員会を発足し、既存の看護師にe-ラーニングを用いた月1回の勉強会やアンケート等を実施いたしました。



#### 《看護専門性の強化》

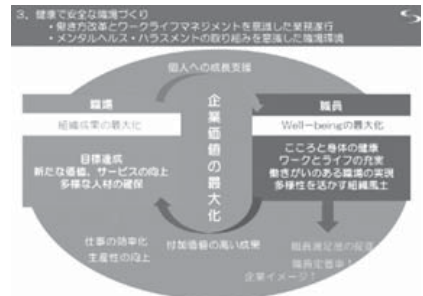
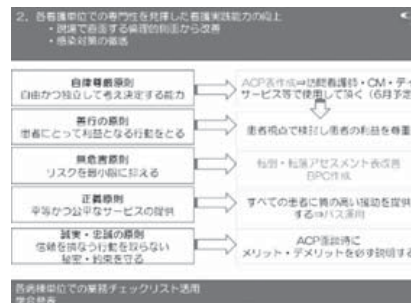
看護の質の向上を目指し、人事考課と連動させたラダーを導入しました。ラダー導入にあたり、既存の看護師のラダーを基準に基づく判定をしたところ2～3の割合が多い事が明確になりました。今後、地域で看護の専門性を発揮するためには看護師特定行為研修受講者を増やす必要があります。ラダーを活用しながら、経験や学ぶ機会を作り看護全体のレベルアップに努めます。

#### 《職場づくり》

看護師一人一人のこころと身体が健康で、患者様とご家族様に寄り添う支援に繋がると考えています。ウェルビーイング推進室と連携を図り、ワークマネジメントを意識した業務遂行できる環境づくりに力を入れました。結果、超過勤務は、一人当たり平均5.8時間(前年度より-6.9時間)になりました。離職率は、看護部のみで6.93% 看護部、介護部で5.93%と減少しています。

### 【2024年に向けて】

地域の皆様が安心して住み慣れた場所で過ごせるように、専門性を持ちながら温もりある支援ができるように看護部一丸となり成長していきたいと考えています。



## 7. 部門別実績報告 博仁会

## 一般病棟科

科長 小林 雅美



多職種（医師、看護師、薬剤師、リハビリ、栄養士、MSW）カンファレンスの様子



院内デイサービスの様子

## 【目標】

- ①医療安全・感染対策・褥瘡予防等への意識を向上させ、安全で安心なケアサービスを提供する。
- ②地域包括ケアシステムの中での、病院の役割を果たすため、施設や在宅サービスとの連携をはかる。
- ③研修へ積極的に参加し、知識の習得、ケアの質の向上に努める。

## 【取り組みと実績】

ケアの質向上においては医療安全や感染対策、褥瘡対策等の各委員会や栄養、認知症、排尿自立等の各サポートチームの活動と、それらに関する職員教育の取り組みを継続しました。認知症ケア加算1を取得しており、増加傾向にある認知症患者様に対してより良いケアができるよう対応しております。私達は入院されると同時に退院に向けてのプラン作成やアドバンスケアプランニングについての説明をさせていただいており、地域包括ケアシステムの中でシームレスなケアを提供することに努めました。一般病棟は地域包括ケア病床を12床設置しており、地域で求められる在宅医療を支える体制作りに励んでいます。入院時には施設や在宅スタッフから情報を取得し、入院前の生活をなるべく続けられるような体制を整えています。退院時にはケアマネジャーをはじめ訪問看護や訪問介護、デイサービス等の在宅サービスのスタッフと連携を図り、状態に合わせたサービスを検討しています。

また、呼吸器内科の専門医が常勤勤務しており、呼吸器センターを病棟内に併設しています。呼吸器疾患（肺炎や慢性閉塞性肺疾患、肺がんなど）の患者様に対し質の高い医療の提供をしています。また、脳血管疾患（脳梗塞や脳出血など）や整形外科（骨折などの手術後）など急性期病院からのリハビリ目

的の患者様の受け入れを行い、回復期リハビリ病棟へと繋げています。皮膚科の常勤医、非常勤医がおり皮膚科疾患（带状疱疹、蜂窩織炎、褥瘡など）の入院も受け入れています。

また、コロナ感染症の患者様用の病床を1床確保し、主に軽症から中等症で在宅療養が難しい方を中心に受け入れています。感染対策を徹底しながら、安心・安全な医療を提供していきます。

2023年度は月平均で平均在院日数20.1日、看護必要度I対象者22.6%、年間での病床利用率97.3%でした。アンケートでは多くのご協力をいただき、様々なご意見と励ましや温かい言葉をいただきました。ご意見は真摯に受けとめ改善対応させていただきました。

今後も、地域住民の方々が安心して暮らしていただくための地域包括システムの構築に貢献できるよう、質の高いケアを提供してまいります。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 緩和ケア病棟科

科長補佐 鈴木 初美



お花見の様子 ご家族も一緒に



クリスマス会の様子

### 【概要・特徴】

緩和ケア病棟は、がんに対する積極的治療を希望しない・または断念した方、中止している方を対象とした「つらさ」に対するケアを専門に行う病棟です。がんによる痛み、不快な症状、患者様やご家族様が感じる精神的な苦痛、社会的な困難を含めた全人的苦の軽減を目指して日々ケアにあたっています。「一度入院したら退院できない」というイメージのある終末期医療ですが、当病棟では症状が強い時期は入院による緩和ケアを行い、症状コントロール後に在宅復帰できるよう地域やの在宅部門と連携しています。

今後は在宅で最期を迎えるためのレスパイトとしての入院や、治療と治療の間の副作用で苦しんでいる方の症状緩和を目的とした入院も受け入れていきたいと考えています。

### 【目標】

1. 意思決定支援に沿ったケアの充実で患者と家族のQOLの向上に努めます
2. 患者様とご家族様が抱えている全人的苦痛を理解し、苦痛緩和に努めます
3. 地域と連携を図り地域で暮らせるように調整します

### 【活動実績】

1. 患者様・ご家族様に担当看護師による意思決定支援面談を行いました。内容は病棟カンファレンスや多職種カンファレンスで共有され、患者様・ご家族の思いに沿ったケアを行うための計画を立て、嗜好に合った食事提供を行い、理学療法や作業療法を通して患者様の意欲や楽しみを支援しました。患者様だけでなくご家族様の思いも傾聴し、常にコミュニケーションを図るよう努めました。

面会について、患者様の状態や精神的なつらさに応じて個別に制限の緩和を行いました。季節のイベントや患者様の誕生日会にご家族を招待し、思い出作りの支援を行いました。

2. 患者様ひとりひとりに適切な疼痛評価と疼痛緩和を行うため、苦痛な症状の理解や薬物療法、アロママッサージなどの知識と技術を深めるための病棟勉強会を実施しました。

看護計画の評価の際は緩和ケアの成果と質を客観的に評価するために開発された「STAS-J」を用いて、患者様だけでなくご家族様の苦痛の緩和も含めた評価を実施しました。

3. 症状が緩和された患者様が自宅で生活するために必要な環境を共に考え、必要な連携や指導を行いました。自信のない患者様・ご家族様にはまず外出泊を勧めて足掛かりとしていきました。また、在宅で生活する患者様について緊急時に受け入れができるよう、訪問看護部門と定期的な情報共有を行いました。

今後も患者様・ご家族様の思いに耳を傾け、地域に根ざした緩和ケア病棟としてその方らしい生活を実現できるよう職員一同努めてまいります。

## 7. 部門別実績報告 博仁会

### 外来科

科長 小倉 十三子



#### 【概要】

地域に根ざした病院として患者・家族様に寄り添い、診察の介助、検査説明・処置（採血、点滴、注射、バイタルチェック）、診察後の説明・指導、病棟・地域との連携等、代弁者の役割を外来看護師は担っております。外来科職員は、看護師3名、准看護師8名、（1名育休）さらに2名の看護師が配属されました。診療部と協力し外来科の目標でもある内視鏡、気管支鏡検査介助、訪問診療同行、救急車受け入れ処置、外来肺がん化学療法治療、新型コロナワクチン接種、インフルエンザワクチン接種（企業同行含め）発熱・検査外来維持、職員教育、顧客満足度調査と、良い看護サービスが提供できるように職員は日々奮闘しております。

#### 【目標・実績】

1. 外来患者延べ数	109.1%
2. 外来実人数	119.8%
3. 外来患者単価増収	87.9%
4. 健康診断センター件数の増加	170.7%
5. 訪問診療件数	82.8%
6. 泌尿器科訪問診療	107.9%
7. 外来科呼吸器内科患者数	184.7%
8. 救急車受け入れ件数	98.6%
9. 地域包括診療料1	33.3%
10. 新型コロナワクチン接種	3,099名
11. インフルエンザワクチン接種	3,883名
	(企業：901名)
12. オンライン診療	9.1%
13. 外来がん化学療法	83.3%
14. 発熱・検査外来継続	2,381名

#### 1日平均外来患者数



#### 【トピックス】

##### ① 新しい治療法や診療技術の導入

呼吸器センターは、呼吸器専門医・指導医が在籍し常勤医師は3名です。呼吸器に関する専門的な医療を提供します。肺がん診療は、気管支鏡検査を経て診断されます。現状のマニュアルを医師・薬剤師と検討し見直しをおこない、気管支鏡検査が安全に苦痛なく確実に実施できるように超音波気管支鏡の導入（ガイドシース併用気管支内超音波断層法・超音波気管支鏡ガイド下針生検）、医療機器の説明、使用方法、洗浄方法等、検査介助者へ繰り返し指導を受けました。

結果、10月からの気管支鏡検査の件数が前年度の倍に増え、併せてがん外来化学療法の件数も増えていきました。

近隣や常陸大宮地区の検査や肺がんの化学療法は、遠距離通院をしなければなりません。当院で行うことで通院時間の短縮で患者さんの利便性、経済性と生活の質を高められるようサポートしていきます。

## ②疾患の予防・管理に関する取り組み

糖尿病専門外来医師から次年度より、日本糖尿病協会推薦の糖尿病カードシステムの運用を進められる。療養指導カードは一人一人異なる糖尿病患者の病状や生活環境など、患者の特徴を考えながら、約 100 種類のカードを使用して指導項目を組み合わせ、最も適した指導プランを作ることができる新しい療養指導ツールです。知識の伝達をスリム化し、療養指導カードを利用することによりスタッフ間で指導実施項目が明確化し共有されるため指導水準の均一化が図れます。

看護師は前年度から糖尿病専門外来への研修を何回か経て、基本パスと腎パス作成・準備し外来科看護師への周知をおこないました。

カードシステムチームのカンファレンス(月 1 回)を開催し、問題点の整理・今後の介入の検討等を行っている。チームで連携を図り、個々の患者に合わせた対応が、今後の生活習慣病対応に必須と考えます。

## ③地域との連携

外来科では、地域の他の医療機関や福祉施設との連携も重要な課題とされています。「治す医療」中心の機能から「治し支える医療」へ役割が求められます。住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていただけるように、患者の生活の視点で支える。

日々の業務の中、患者家族とコミュニケーションを通して情報共有しサポートしていきます。(近隣病院との連携会議、消防署への挨拶、地域医療連携意見交換会、企業訪問、ふれあい広場出店、行政の地域ケア会議、美化コンクール審査による地域民生委員審査等に参加)

## 7. 部門別実績報告 博仁会 回復期リハビリテーション病棟科

科長 森嶋 仁



病棟スタッフ



申し送りの様子



多職種カンファレンス

### 【目標】

1. 個人のニーズに合わせたリハビリ看護・介護ケアの提供 ～効率的な質の高い業務遂行と回復期リハビリ病棟入院料1の維持～
2. 多職種連携による ADL の拡大 ～住み慣れた地域へ退院できるよう多職種での関わりの強化～
3. 感染予防対策と適切な人員確保による安定的なサービスの質の向上と時間外労働の継続的削減

### 【活動実績】

回復期リハビリ病棟は、多職種連携のもと、効率的な質の高い業務遂行を目指し、患者様が住み慣れた地域での生活に戻るための支援をしております。しかし、発症前からの独居生活、同居御家族が有職であり介護に携わることが困難な場合が増加しております。そのような状況であっても実績を残すことができたのは、当グループの幅広いきめ細やかなサービスと多職種連携の賜物です。また、選んでいただいた患者様、ご家族様そしてご紹介いただいた急性期病院の方に感謝いたします。

### 回復期リハビリテーション入院料1算定要件と実績

	算定要件	実績	達成率
重症患者比率	40%以上	46%	115%
重症患者回復比率	30%以上	51%	170%
在宅復帰率	70%以上	83%	120%
リハビリ実績指数	40以上	44%	110%

患者様一人一人の ADL の拡大に繋げるために、リハビリでセラピストと行っている「できる ADL」を安全に「している ADL」にするためには日常生活での繰り返し練習が不可欠です。今年度も SSP

(Swiss Self-determined Program) 等を通じ、患者様の希望に寄り添い病棟スタッフと共に練習を行いました。また高いリハビリ実績指数の維持にもつながりました。

質の高いサービスを提供し続けるにはスタッフの教育は必須です。今年度は手順にもなる細やかな業務チェックリストを見直し、すべてのスタッフの習熟度の把握に努めました。横並びの業務分担を到達レベルに応じた分担に変更後は、「自分のすべきこと」の見える化につながりました。また、リハビリ科と共同での FIM チームでは勉強会や毎月の確認テストを実施しています。

また、学会発表では、回復期リハビリテーション病棟協会 第 41 回研究大会 IN 岡山と日本慢性期医療学会 大阪国際議場で、全国に 2 演題を発表させていただきました。

今年度は、病院機能評価（高度・専門機能）リハビリテーション（回復期）に特化した項目について、高い水準の機能を担う病院に認定されました。

安定した実績と患者様ご家族様に寄り添い満足していただける看護・介護の実践、質の向上を求めて進化し続ける探究心により今後も選ばれる病棟であり続けるよう研鑽を積んでまいります。



## 7. 部門別実績報告 博仁会 医療療養病棟科

科長 加藤 紀和子

技能実習生の  
ON と OFF



地域のイベントに参加した様子



レクリエーションの様子



入浴介助の様子

### 【目 標】

1. 安全・安心な医療療養環境と、患者ニーズをふまえたケア・支援を実践する
2. 根拠に基づいた治療・看護の提供ができるよう、質の高い学習を行い、役割を担った行動実践をする

### 【実 績】

療養病棟では、入院基本料1を維持するため、医療区分Ⅱ、Ⅲの割合85%の目標に対し月平均85.8%と達成、維持しています。

医療区分にて、医療依存度が高い患者様を8割受け入れることが年間目標となります。2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類となり、感染対策が大幅に緩和されました。クラスター発生なし、コロナ禍より病棟における感染対策を強化、業務の流れから面会方法に至るまで見直し、病棟職員間での周知が良い結果につながったと分析しています。感染のリンクナースを中心に病棟の感染に対する意識向上につながっていると評価しています。

医療依存度が高い区分は、中心静脈栄養管理、気管切開・吸引酸素療法などの呼吸管理、褥瘡ケア、難病（ALS、パーキンソン等）の受け入れです。毎日区分を見直し、よりよい入棟の判定に心がけています。

### 【病棟トピックス】

2022年より介護技能実習生を受け入れし、技能実習指導員資格を有する職員を中心に、病棟全体で環境・教育設定をしながらサポートしております。今年度は、実習し知識・技術を学んだ実習生が専門級試験をクリアし、2名のうち1名は介護福祉士試験に合格し特定技能生として、法人グループの施設にさらなる技術習得のため異動となりました。もう

1名は病棟で学んだスキル・技術を活かし、法人外他施設に異動となりました。病棟では、重症度が高い患者様のケアを通して、実のある研修、ケア習得に繋がっていると評価しています。慣れない日本の環境・日本語習得に苦戦をしいられておりますが、生活・教育担当支援のサポートのもと充実した実習となっているようです。地域貢献では、北富田のイベント参加、博仁会レク等にも積極的に参加しています。

病棟内は、係長・主任を中心に病棟内実践モデルとして業務体制をつくり教育へつなげた1年でした。今年度は新卒者の病棟配属がなかったため、教育・業務環境を柔軟に考え対応しました。病棟の業務整理につなげ、各自が、専門職としての意識を高めることができ、役割に担った行動ができました。

来年度は、引き続き医療療養としての役割を再認識し、新たな業務や業務改善に取り組み、急性期からの治療継続、リハビリ、長期療養と幅広いニーズの方の入院に対応できるようにしていきます。また、常に患者様の立場を考え意思決定支援を遂行し、質の高い看護・介護ケア提供ができるように学習課題を明確にし、職員一同従事していきたいと考えます。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 志村地域医療連携センター

センター長 川崎 真弓

### 【概要】

地域医療連携センターは7名体制で前方連携・後方連携・退院支援・総合相談の業務を行っています。看護師、社会福祉士、介護支援専門員が様々な相談に対応し、支援を行っております。

### 【業務内容】

- ① 病院・診療所からの紹介患者の受け入れ（入院・外来）
- ② 他病院及び診療所からの患者紹介
- ③ 紹介元病院・診療所への紹介患者報告
- ④ 退院支援・退院調整・ベッドコントロール
- ⑤ 地域医療連携機関、介護・福祉機関への広報活動
- ⑥ 紹介患者様の統計と実績報告

### 【活動目標】

- ① 紹介患者の増加（営業の強化）
- ② 法人内・法人外の連携の強化
- ③ 医療・介護の連携強化

### 【実績】

- 1) 紹介患者推移（全体）  
 総数 1,803 件 月平均 150 件  
 紹介内訳  
 外来⇒ 618 件 一般病棟⇒ 163 件  
 回復期リハビリ病棟⇒ 371 件  
 緩和ケア病棟⇒ 131 件 逆紹介 520 件

- 2) 第18回 地域医療連携意見交換会・懇親会  
 開催（2024年2月16日）  
 15病院 63名の参加をいただきました。

#### 内容

#### 講演

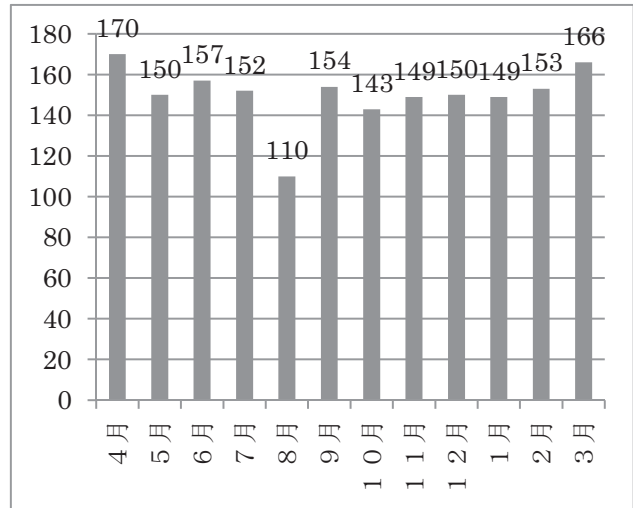
- ① 呼吸器センターについて  
 呼吸器センター長 関山 忠孝
- ② 緩和ケア病棟エーデルワイス8年を振り返って  
 緩和ケア病棟専任医師 診療部長 新堀 耕基
- ③ 高次脳機能障害に対する取り組み  
 副院長兼茨城北西リハビリテーションセンター長  
 大仲 功一
- ④ みんなの内科外科クリニックについて  
 みんなの内科外科クリニック院長 生天目 信之  
 意見交換会・懇親会

### 【研修参加】

- ① 医療と福祉の懇談会
- ② 西岡病院「とよひら・りんく」
- ③ 医療連携実務者研修会
- ④ 全国連携実務者ネットワーク
- ⑤ 茨城県地域包括ケア学会
- ⑥ 日本アドバンス・ケア・プランニング研究会

### 【まとめ】

医療機関との連携はもとより、介護施設との連携を強化しました。医療機関との連携として、早期に当院へ受け入れができるよう、ベッドコントロールを充実させました。介護施設との連携は、高齢者の方が、入院後、ADL低下、家庭環境の変化などにより、自宅退院ではなく、施設入所を希望された場合、速やかに入所できるような空床情報を共有しました。今後ますます介護施設・在宅系施設との連携が重要となります。各関係機関と連携し、本人・家族が望む支援をおこなっていきたいとおもいます。



## 【方針】

- ①地域におけるリハビリテーション関連職種の育成に貢献できる教育支援体制の整備に努める
- ②対象者へのリハビリテーション提供機会の損失がないよう、安全管理と感染予防に努める
- ③病期間のシームレスな移行を図り、リハビリテーション全体としてのアウトカムの向上に努める
- ④多能工化を意識した組織体制づくりに努める

## 【事業内容】

## 1) リハビリテーションの提供について

疾患別リハビリテーションの提供実績は、出来高算定とはならない地域包括ケア病棟および緩和ケア病棟での提供を含めると年間で255,565単位であった。出来高算定可能であった個別リハビリテーションにおける疾患別の内訳は表1の通りであった。個別リハビリテーションにおけるPT/OT/ST別の内訳は表2の通りであった。

理学療法及び作業療法においては、昨年度に引き続いて摂食機能療法を実施する体制を継続した。また、上肢用ロボット型運動訓練装置(ReoGo-J)、機能的電気刺激装置(ウォークエイド)、ロボットスーツHALといった機器を積極的に取り入れたリハビリテーションを実施した。言語聴覚療法においては、昨年度整備した摂食嚥下障害看護認定看護師との協働体制に加え、新卒3名が加わったことで、言語聴覚士も摂食機能療法に積極的に参加することが可能となった。

## 2) 業務内容について

2023年度は病院機能評価の更新審査があり、特に回復期リハビリテーション病棟は『高度・専門機能くりハビリテーション(回復期)』の審査を受け、茨城県内第1号(全国32番目)の認定病院となった。

また、新型コロナウイルス(以下、COVID-19)が5類に移行されたが、感染拡大防止策を継続し、COVID-19陽性患者に対してもリハビリテーションを提供できる体制を継続した。

一般病棟においては、医師・看護師・介護士と協力して病棟における離床強化体制の構築を行った。8月から延べ776名に積極的な離床を行い、離床実施者は非実施者に比べて「入院前の生活の

場」へ退院できる割合が高い、という結果を得ることができた。

回復期リハビリテーション病棟においては、患者の退院後の生活状況を調査することで入院中のリハビリテーションやケアの見直しを行う体制を構築することができ、PDCAサイクルが働く仕組みを作ることができた。

また、療養病棟では、COVID-19のため中止となっていたリハビリ見学の再会に向け、体制の見直しを行い、年間15件実施することができた。

## 3) 人材育成について

## ①認定資格等取得者

臨床実習指導者資格取得 3名(PT:3名)

## ②学術活動

リハビリテーション・ケア合同研究大会広島2023 3演題発表

日本作業療法学会 1演題発表

回復期リハビリテーション病棟協会第42回研究大会 in 熊本 1演題発表

第4回学校保健・特別支援教育理学療法研究大会 1演題発表

茨城県理学療法士学会 フレッシュマンセッション 2演題、症例検討会 1演題発表

茨城県作業療法学会 3演題発表

茨城県総合リハビリテーションケア学会 4演題発表

茨城県言語聴覚士会症例検討会 3演題発表  
研究論文投稿 1稿

## 【次年度に向けて】

2024年度は診療報酬・介護報酬同時改定の年である。多くの改定がある中で、病院リハビリテーション科に深く関わる内容としては「回復期リハビリテーション病棟における運動器リハビリテーション料算定患者の1日当たりの提供可能単位数が最大9単位から6単位へ減少」となるため、運動器リハビリテーション料を算定する患者に対しては、リハビリテーションの実施量が減少してもアウトカムを維持・向上させることができるよう対策を検討する必要がある。また、「急性期リハビリテーション加算」や「リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算」が新設されるなど、発症早期から効果的・効率的なリハビリテーションを行う体制整備が求めら

れる。医師や看護師、管理栄養士と協力し体制整備を進めていきたい。

最後に今年度は病院内だけでなく、老健における新人指導者の役割マニュアルを完成させることができ、リハビリテーション事業部全体としての教育体

制の強化を1歩進めることができたと思う。しかし、新卒採用が全体で2名と少なく、必要な人員を確保することができなかったため、人材採用の体制を見直し、採用数を増加させることができるように具体的な対策を実行していきたい。

【表 1】疾患別の個別リハ提供単位数（出来高算定分）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
脳血管疾患等リハ	11,870	13,000	11,925	11,086	11,449	11,525	10,142	9,284	10,332	10,089	12,207	12,336	135,245
廃用症候群リハ	3,032	3,637	3,430	3,661	3,920	3,700	4,105	3,347	3,119	2,390	2,206	2,682	39,229
運動器リハ	4,185	3,056	3,842	4,797	4,196	3,952	5,821	6,424	5,483	4,274	3,083	3,563	52,676
呼吸器リハ	754	954	873	1,325	1,061	1,100	925	1,068	1,234	1,681	1,478	1,472	13,925
がんリハ	0	25	33	5	0	0	0	0	0	0	0	0	63
計	19,841	20,672	20,103	20,874	20,626	20,277	20,993	20,123	20,123	18,434	18,974	20,053	241,138

【表 2】PT/OT/ST 別の提供単位数（出来高算定分）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
PT	10,636	10,436	9,771	10,240	9,912	9,874	10,268	10,128	10,062	9,348	9,536	9,945	120,156
OT	8,297	9,224	9,256	9,337	9,407	8,887	9,218	8,692	8,728	7,674	8,132	8,572	105,424
ST	2,034	2,378	2,411	2,447	2,724	2,568	2,489	2,441	2,706	2,492	2,487	2,808	29,985
計	20,967	22,038	21,438	22,024	22,043	21,329	21,975	21,261	21,496	19,514	20,155	21,325	255,565

## 7. 部門別実績報告 博仁会 機能訓練センター フリューゲル

管理者 寺門 貴

### 1. 部門方針

- ①安定的な事業継続を可能にするために黒字を維持する
- ②社会リハビリテーションの普及啓発とニーズの発掘
- ③サービスの質向上のために自己研鑽に努める

### 2. 事業内容

2023年度の収支について、年間収入は30,252千円（前年度比118.5%）となり収益も4,932千円（前年度比317.1%）と大幅に収益が改善できた。年間を通して広報・営業を強化したことにより、年間での登録者は一月平均24名、年間延べ利用者数は2,775名、利用者数も一月平均231.2名、一日平均10.1名と年間を通して損益分岐ラインを超えることができた。

年間の新規契約は12件で修了者は14名であった。修了者14名の移行先の内訳は、①復職3名、②再就職1名、③就労継続A型1名、④就労継続B型3名、⑤グループホーム1名、⑥生活介護1名、⑦訪問リハ1名、⑧自宅生活1名であった。一般就労への移行が多く存在した。利用者層は例年通り脳内出血、脳梗塞の利用者が多い傾向にある。紹介元は障害者相談支援事業所から相談されるケースが多かったが、回復期リハビリ病棟退院後の移行者もあり医療の中にも少しずつ浸透してきた。それに伴い居宅介護支援事業所からの相談も多く、中途障害者が介護保険サービスだけでなく障害福祉サービスを活用し就労移行を希望するケースが増えている印象がある。そのような特徴から利用者の年齢層は40歳代、50歳代が多い。また、活動量が増えてきて対人関係技能の向上が必要になることからリスクマネジメントをより強化する必要性がでてきた。就労に向けたニーズが増えてきたので就労に向けた新たなプログラム開発として、情報処理課題の改定を行った。また、対人関係技能の向上に向けて集団プログラム（社会生活力プログラム）を3回実施して、就労に向けた自己意思表示、対人コミュニケーション能力など実践的な内容を実施した。

利用者が安全に訓練に集中できる環境も重要であり、今年度のインシデント・アクシデント件数は、レベル0：0件、レベル1：5件、レベル2：5件、レベル3a：1件であった。インシデントから重大事故を防止するためにレベル0、1を多く報告でき

る体制構築が必要になる。新型コロナ感染拡大防止として、実働に合わせながら感染症BCPの更新を行った。また、自然災害BCPの更新も行った。

最後に2024年度診療・介護・障害福祉サービス報酬改定（トリプル改定）に向けて運営規定等、帳票関係の見直しを行い改定に対応する形で業務全体の見直しを行った。

## 7. 部門別実績報告 博仁会

### リハビリテーション事業部 訪問リハビリテーション科

科長 佐野 桂太郎

#### 【概要・特徴】

訪問リハビリテーション科は、住み慣れた地域で安心して、その人らしい生活を営むため、ご利用者様・ご家族様の想いにより添いリハビリテーションを提供しています。また、主に志村大宮病院を拠点とした県北地区の在宅リハを支援しつつ、水戸メディカルプラザ・ひたちなかメディカルプラザを拠点とした県央地区へ事業拡大を図りながら、病院退院から切れ目のないリハビリテーションの実施を目指しています。

#### 【部門方針】

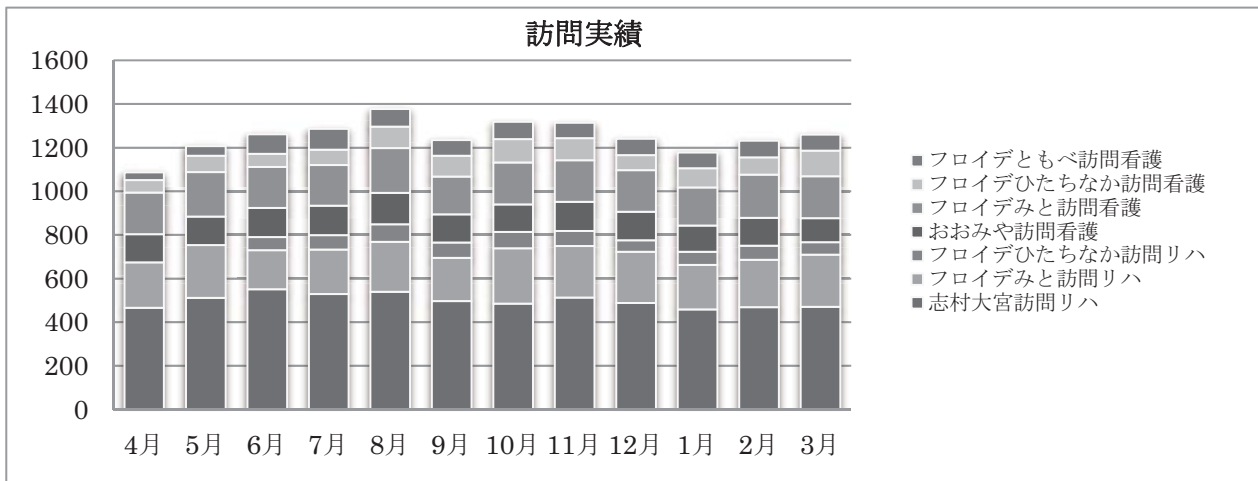
- ①介護報酬改定を見据え、「リハビリテーションマネジメント」を主体に地域の医師との連携にも重点を置き、多職種連携の充実を図る。
- ②大宮地区・水戸地区・ひたちなか地区の訪問リハ体制を再構築し、訪問リハ提供数の増加を図る。
- ③訪問リハビリテーション科の教育体制を充実させ人材育成に努める。

#### 【事業内容】

訪問リハビリテーション提供件数において2023年度の訪問リハ提供件数は、訪問看護からのリハビリテーション提供を含め、年間14,990件でした。2022年度12,397件に対し、前年度比率121%と前年度実績を上回ることができました。

6月よりフロイデひたちなか訪問リハビリテーションセンターを開設し、フロイデひたちなか訪問看護ステーションと併せてサービスの拡充を図り、早期より目標を達成することができました。

2024年診療報酬・介護報酬改定を見据え、リハビリテーションマネジメント加算算定を強化し、年間1,327件から1,354件へ増加し前年度比102%となりました。また今後は、医療介護連携を強化するため、病院への訪問、退院前カンファレンスへの参加も強化していきます。



## 7. 部門別実績報告 博仁会 画像検査科

係長 浅見 公一



法人部門表彰 志村大宮病院 画像検査科 臨床検査室

### 【概要】

志村大宮病院画像検査科は現在、診療放射線技師 5 名、放射線助手 1 名、臨床検査技師 6 名で構成されています。

画像検査科は診療放射線技師が業務を担う「画像検査センター」と臨床検査技師の業務分野の「臨床検査室」にわかれそれぞれの分野を担当しています。

画像検査センターでは、一般撮影（レントゲン）、CT 検査、MRI 検査、X 線透視検査が施行され、臨床検査室では、生理検査分野である心電図、超音波検査、肺機能検査、骨密度検査、聴力検査、ABI 等の多岐にわたる検査が施行されています。2023 年度からは新たに検体検査室が稼働しています。

### 【実績】

- ・画像検査センター
  - 一般撮影：11,127 件（前年度比 102.7%）
  - CT 検査：1,990 件（前年度比 96.5%）
  - MRI 検査：988 件（前年度比 101.6%）
  - MDL（胃バリウム）：978 件（前年度比 109.5%）
- ・臨床検査室
  - 生理検査 -
    - 心電図：5,855 件（前年度比 100.0%）
    - 聴力検査：3,275 件（前年度比 106.7%）
    - 肺機能検査：314 件（前年度比 413.2%）
    - 超音波検査：297 件（前年度比 157.1%）
    - 骨密度検査：261 件（前年度比 94.6%）
  - 検体検査 -
    - 検体検査：20,268 件（2023 年度新規）

### 【トピックス】

#### ○臨床検査「検体検査室」の稼働

2022 年度まで検体検査は外部委託のプランチラボでの対応となっていたのですが、2023 年度に切り

替わるタイミングで電子カルテの大規模な更新があり、それに合わせ院内解析へと移行しました。

検体解析の全装置の入れ替えとなり、まったくのゼロスタートの状態から検体検査経験者、未経験者の臨床検査技師が一丸となり深夜に及ぶまで習得に邁進しました。また、当院の検体検査業務の立ち上げを行いながら、フロイデひたちなかメディカルプラザ「みんなの内科外科クリニック」が 2023 年 4 月に開院するにあたり、クリニックの検体検査も同時に立上げをし、一元管理する体制を整えました。

検体検査は患者様の状態を顕著に数値として把握できるため、各科の診療に欠かせない重要な業務です。そのため夜間休日にも必要性が生じるため臨床検査技師が 365 日対応できるようオンコール体制を整え運用を開始しました。

#### ○外部精度管理調査への参加

検体検査は検体解析と同時に精度管理が大きな業務となります。自院で行う「内部精度管理」での正確性と再現性、第三者機関が行う「外部精度管理」での普遍性と施設間差の把握と標準化が重要です。

初代日本総合健診医学会会長 樫田先生は「健診施設は一度に大量のデータ処理を行うので、ひとたび精度管理が狂うと擬陽性のために大量の健康人を病気と判断し、偽陰性のために管理すべき患者を健康人にする危険が付きまとう。このことを皆無にすることは難しいが、たとえあってもできる限り少なくするように平常努力を重ねる事が総合健診医学会の信頼と権威向上につながるものであり、サーベイ成績が悪いことは社会的に許されない。」と明言しており、その重要性をしっかりと受け止め当院も外部精度管理年間計画を立て、参加させていただきました。

結果として、217 項目中 206 項目が精度 A 判定

となり A 判定率 94.9%、「精度管理良好施設」となりました。

日本総合健診医学会

検体検査 精度管理調査 結果 -

サーベイ月	検査項目	評価点	評価点割合
4月	Aランク評価 件数・割合	70/74	94.59%
7月		66/69	95.65%
9月		70/74	94.59%
総合		206/217	<b>94.93%</b>

※項目評価 [A 判定率 :60% 以上 ] →良好施設

### 【展望】

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に移行しました。前年度までの検査フロアの時間的分離を伴うメディカルチェックの廃止や、感染防護方法などに大きな変化が生じました。これに伴い画像検査科の業務では検体検査以外にも肺機能検査の実績が大きく飛躍しました。5類移行前には控えざるを得なかった検査が、再度、必要な検査として呼吸器内科の先生方を中心にご依頼いただけることに身の引き締まる思いです。今後も様々な検査を柔軟に対応できるよう各科、各部署と連携をとらせていただきながら邁進いたします。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 志村大宮病院認知症疾患医療センター

係長 大和 雄太



認知症予防カフェ



認知症月間のイベント



### 【概要】

本部門は、当院が2017年に茨城県より認知症疾患医療センターの指定を受けるのにあわせ開設された、認知症支援を専門とする部門です。常陸太田・ひたちなか医療圏における認知症診療の拠点の1つとしての役割を果たすとともに、地域における認知症啓発や認知症予防における取り組みを行っております。

### 【業務内容】

- 専門医療相談
- 鑑別とそれに基づく初期対応
- 認知症の行動・心理症状への対応と身体合併症への急性期対応
- 認知症疾患医療連携協議会の運営・研修会の開催や情報発信
- 診断後等の認知症の人や家族に対する相談支援など

### 【2023年度部門方針】

- ① 認知症診療・支援の質の向上
- ② 常陸大宮市内の認知症支援連携の強化
- ③ MCI 支援事業の質の向上

### 【2023年度実績】

年間受診相談件数 1389 件  
年間新規受診患者数 152 名

### 【本年度の主な取り組み】

- ・ 常陸大宮市認知症初期集中支援チームの活動活性化に向けた取り組み  
当部門は、2018年度より常陸大宮市からの委託を受け、常陸大宮市認知症初期集中支援チームの運営及び活動を行ってきました。本チームは、当院を含めた複数機関の職員で構成された多職種

チームであり、市内の認知症が疑われる方や、何らかの理由で医療機関受診や介護サービスの導入、利用継続が困難となっている認知症の方を支援対象としています。今年度も引き続き本活動の活性化のため、認知症に関する地域支援者への説明会を行いました。実績としては、市内地域包括支援センター全2か所、市内の全在宅介護支援センター職員、さらに市内全地域の民生委員を対象に実施致しました。

### ・ 常陸大宮市内の認知症支援連携の強化

現在常陸大宮市では、市の認知症予防事業『スマイル教室』が実施されています。

今年度より認知症疾患医療センターは上記事業への協力を開始しました。具体的にはカンファレンスへ参加し、事業利用期間を終えた方への支援に関する助言や、その方の状況に合わせた当センターの認知症予防事業の案内を行っております。また医療的な介入が必要な方には、認知症初期集中支援チームの介入を提案する等もしております。当センターが市の事業に協力することにより、認知症予防に関する市との連携を強めております。

このような連携が契機となり、来年度からは市からの事業委託を受け、『スマイル教室フォローアップ事業』を開始予定です。これは市からの助成を受けたスマイル教室終了者が、当センターの認知症予防事業に参加し、認知症予防プログラムへの参加を継続できるというものです。

### 【次年度の活動方針】

常陸大宮市の認知症予防事業のさらなる連携強化に向け、『スマイル教室フォローアップ事業』の円滑な運営に努めます。また、アルツハイマー病の新薬である抗アミロイドβ抗体薬の登場で生じる、診療や地域支援における新たなニーズに柔軟に対応していきます。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 老健入所科

科長 鈴木 三智子



技能実習生のスキー体験

### 【特徴・主な業務内容】

常陸大宮市には介護老人保健施設が2つありますがそのうちのひとつが大宮フロイデハイムです。多職種で連携しながら在宅復帰・在宅支援を担っている超強化型の老健です。

当施設は併設病院と同敷地内に隣接しているため、医療が必要になった方は、スムーズに外来受診あるいは入院対応が可能となっています。医師が常在しているため、夜間・休日等の緊急対応も可能です。

### 【部門方針】

- ① 法人全体としての老健の役割を認識し情報の共有を図り、質の向上に努める。
- ② 多職種協働し、自立支援・重症化防止を図る。
- ③ リハビリテーションマネジメントを充実させ、在宅復帰・在宅支援につなげていく。

### 【実績】

平均在所人数	月平均 78,6 名
在宅復帰・在宅療養支援等指標	月平均 82,3 点
前6ヶ月在宅復帰率	月平均 56,3%
短期集中リハビリ実施加算	月平均 555,1 件
認知症短期集リハビリ実施加算	月平均 100,4 件
ショートステイ個別リハビリ実施加算	月平均 143,8 件

毎朝の情報共有会議にて法人内病棟や施設の空き状況や利用者情報を把握でき、移動もスムーズに行なうことができます。

コロナ禍で十分な面会もできずにご利用者様・ご家族様にはご迷惑やご不便をおかけしておりますが、職員一同これからも感染対策に従事してまいります。

### 【トピックス】

近年の温暖化により、常陸大宮地区でも雪を見ることが少なくなっています。老健入所科には、ベトナムからの技能実習生が2名おります。ベトナムでは雪を見たことがなく、スキーの体験もしてみたいとのことで、法人内の技能実習生5名と職員9名で栃木県那須塩原市のスキー場に行ってきました。最初は戸惑っていた実習生たちも、徐々に滑れるようになり、とても楽しかったと大好評でした。来年以降も計画をたて、実習生同士や職員との交流の場になれば良いと思っております。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 おおみやホームヘルパーステーション

係長 皆川 あゆみ

### 【概要】

要介護者等の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、自立した日常生活が営めるよう、入浴、排せつ、食事の介護その他の生活全般にわたる援助を行う。また事業所は自らその提供する指定訪問介護の質の評価を行い、常にその改善を図るものとする。

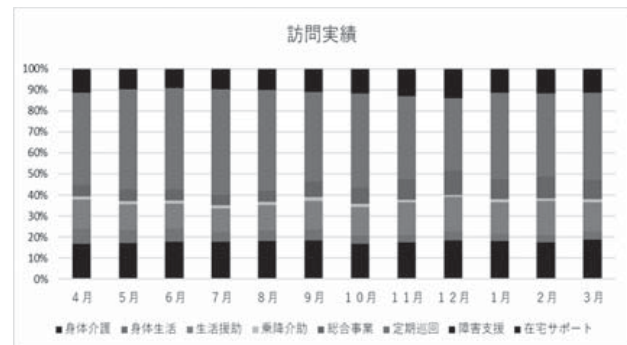
またその利用者が可能な限りその居宅において要支援状態の維持、もしくは改善を図り、または要介護の状態となることを予防し自立した日常生活を営むことができるよう支援を行うことにより、利用者の心身機能の維持回復を図る。

関係市町村、地域の保健、医療、福祉サービスと綿密な連携を図り総合的なサービスの提供に努める。

2023年度は一人暮らしの認知症高齢者や、悪性腫瘍などの重度の疾患を抱えている利用者が目立った。しかし、介護力の不足や高い医療ニーズにより、施設入所や入院することで支援が終了するケースが多かった。このような高齢者が少しでも長く在宅生活を継続するためには、日常生活における健康面、精神面を安定させることや、大事に至る前の小さな変化に気付くことが大切であり、関係機関と連携しながらサービス提供に努めた。在宅生活を継続するためには、利用者個々の状況を踏まえた自立支援が必要になるが、自立支援に対する専門知識が不足していると感じる場面も見られた。買い物や服薬管理、電話対応などの「手段的日常生活動作（IADL）」の維持と残存機能を活用した援助が行えるよう知識を深め、援助の中で気づいた変化をケアマネジャーに情報提供し、多職種連携によるチームケアに繋げてきた。新規依頼が多かった援助内容は2022年度と同様に通院援助であったが、院内の援助もしてほしいとのことで自費のサービスが増加気味であった。通院援助から身体介護や生活援助の依頼につながるケースはほとんど無かった。理由としては、急性期の依頼が多く、入院・死亡のため短期間での援助終了となっているためである。援助内容における身体援助（身体介助）の依頼内容は、退院後の排泄介助等や自宅で介助を行う家族の不安があり、慣れてくると同時に減っていく状態であった。また、ターミナルケアに伴うものもあったが、最後はやはり病院にといったケースが多く短期

間で終結することが多かった。生活援助（家事等の生活介護）や介護予防・日常生活支援総合事業については、認知症の進行に伴い、生活環境を整える内容の援助が多くあった。

### 援助支援実績



### 【目標】

- 1、「自立支援」に向けた視点を学び、援助提供に活かす
  - ・「見守り援助」の視点を学び、利用者様の状況を踏まえた自立支援や身体的機能の低下予防にどのようなつながっているのかを理解した上で、自立支援に向けた援助を提供する。
- 2、関係機関との連携強化による在宅生活継続の維持
  - ・少しでも長く在宅生活を継続する為に、日常生活における健康面、精神面を安定させることや、小さな変化に気づき、関係機関へ情報提供し連携を強化していく。
- 3、変化する利用者ニーズに対応する個別ケアの充実
  - ・こまめなカンファレンスを行い、個々人に合わせた計画書を作成し、計画に沿ったサービスの提供に努める。

最後に、訪問介護は在宅介護の最前線に位置する重要なサービスであり、様々な生活スタイルで暮らす地域の高齢者に寄り添いながら、その人らしい生活を支えていくことに誇りを持ち業務に取り組んでいきたいと思っております。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 おおみや訪問看護ステーション

管理者 福地 佑佳



北富田地区での活動



健康相談会

### 【概要】

訪問看護は、何らかの疾病をかかえながらも、住み慣れた地域・自宅で自分らしく暮らしていきたいという、ご利用者様・ご家族様の想いに少しでも寄り添えるようなサービスを提供しています。

医療依存度の高いご利用者様が増加しています。自宅で生活されているご利用者様・ご家族様に安心して在宅での療養生活を続けていただける様、24時間365日連絡のとれる体制・他職種との協働・連携をとりながらフットワークの良いステーションをモットーに業務に取り組んでいます。地域包括ケアセンターによるワンストップサービスの強みをいかす事で新規獲得にも繋がっています。

### 【目標】

- ① ご利用者様、ご家族様が自宅で安心して療養生活ができるよう質の高いサービスの提供。
- ② 訪問件数増での収益の確保。
- ③ 法人内・各医機関・関係事業所との連携強化

### 【実績】

訪問実績は5,430件で、年間目標の5,587件を達成することができず97.2%となりました。医療保険割合の実績値は455%で目標の480%を達成できませんでした。また看取り患者数は15件となりました。

指示書を頂いている医療機関は30か所以上あり、母体病院はもとより、さまざまな病院、クリニックより紹介を受ける事が出来ました。依頼を断らないという事も訪問件数増に繋がったと考えます。

ご自宅での看取りを希望されるご利用者様、ご家族様への支援の結果、在宅で多数の方の看取りをさせていただきました。ご家族様の満足度の高いケアを提供できたのではないかと考えます。又、紹介し

て頂いた病院へご利用者の経過を報告し、連携室の方との関係作りも円滑に行っております。

当ステーションは、精神疾患を有する利用者が現在3名以上おり、年々増加傾向にあります。精神科訪問看護基本療養費算定要件の研修へ参加し精神科訪問看護の質の高いケアの提供を目指します。

高齢化が進んでいる、北富田地区へコミュニティナーズとして健康相談会の実施、イベントを開催し訪問看護を知っていただく機会をもちました。

今後も、積極的に看護学生や看護協会主催の潜在看護師の研修受け入れを行い、訪問看護の魅力を知っていただき、訪問看護スタッフの増加に繋がりたいと考えます。今後更に訪問看護に対する期待は大きい為、スタッフの更なるスキルアップを目指し、質の高いケアの提供が出来るよう努力致します。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 フロイデひたちなか訪問看護ステーション

福地 佑佳

### 【概要・特長】

「病気や障がいがあっても住み慣れた家で暮らしたい」「人生の最期を自宅で迎えたい」「点滴や吸引等医療的ケアが必要だけど自宅に戻りたい」感染症での入院による面会制限が続く中、このような思いを抱く方が増加しております。

私たち訪問看護ステーションは、医師の指示書のもと関係職種と協力し、住み慣れた地域で自分らしく安心して暮らしていただくために365日24時間支援を行っております。

### 【業務内容】

かかりつけ医が看護サービスを必要と判断した在宅のご利用者を対象に医療保険、介護保険等を用い主に下記のサービスを行います。

病状の観察

食事、排泄、清潔などの日常生活援助

輸液、麻薬管理などの医療的処置、管理

リハビリテーション

介護職への指導、相談、健康管理

かかりつけ医への報告、指示受け

他サービス事業者との連携

病状の急性増悪時の対応

終末期の看護（ターミナルケア）

### 【実績】

訪問件数	年間	5,490件
	月平均	457件
達成率		98.8%

### 【トピックス】

本年度は業務の効率化、マニュアル化を図りより多くのニーズに応えることを目標として参りました。

スタッフ一人ひとりが担当のご利用者とそのご家族にしっかりと向き合い看護の提供に努めました。その結果、訪問件数の増加につながりご紹介やご依頼も増えております。ご家族の安心と満足に寄り添えたことは評価に値すると考えます。

2025年4月にはフロイデウェルビーイングプレイスひたちなががオープンします。新たな施設が増え、より大きな規模になるため、職員研修に力を入れチーム一丸となって励んでまいります。

専門性の高いケア、ご利用者のご家族への質の高い心身のケアを確実に実施できるよう、また他職種との密な連携と相互理解が進むようステーション全体で研鑽を積んでまいります。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 志村フロイデ地域包括ケアセンター

センター長 木戸田 真

2023年度のケアプランセンターは、①ご利用者の状態に応じたサービスの提供②ICT活用による利用者情報の共有とケアの実践③地域活動への参加の3つを部門方針として取り組んでまいりました。

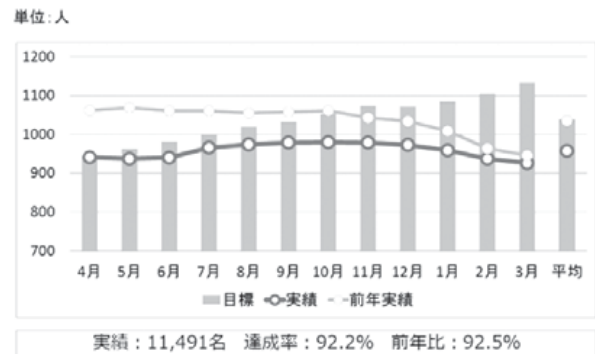
- ① ご利用者の状態に応じたサービスの提供  
法人内サービスの連携を強化し、病院、在宅、施設、サ高住等、状態に合わせた柔軟なサービスが提供できる体制づくり。  
SFG 情報共有会議の運営。
- ② ICT活用による利用者情報の共有とケアの実践。  
タブレット導入による在宅サービス間の連携強化。  
医療⇔介護の情報連携体制の整備
- ③ 地域活動への参加  
ACP 普及啓発、自費サービス拡大、インフォーマルサービスの活用。



ケアプラン作成件数は、おおみや総合ケアプランセンターが月平均目標262件のところ、実績は234件、やまがた総合ケアプランセンターは目標131件のところ、実績は129件、みと総合ケアプランセンターは目標237件のところ実績は242件、ひたちなか総合ケアプランセンターは目標174件のところ、実績は171件、ごぜんやま総合ケアプランセンターは目標234件のところ、実績は180件でした。全事

業所合計で92.2%の目標達成率でした。

### 令和5年度 ケアプラン実績（全体）



### ■特定事業所加算の算定・集中減算回避

おおみや総合 ケアプランセンター	加算Ⅰの算定継続、 集中減算回避
やまがた総合 ケアプランセンター	加算Ⅲの算定継続、 集中減算回避
みと総合 ケアプランセンター	加算Ⅱの算定変更、 集中減算回避
ひたちなか総合 ケアプランセンター	加算Ⅱの算定継続、 集中減算回避
ごぜんやま総合 ケアプランセンター	加算Ⅱの算定継続、 集中減算回避

2024年度には、医療保険の診療報酬、介護保険の介護報酬、障害福祉サービスの報酬の3つが改定されるため、「トリプル改定」の年になります。団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を図るという方向性に進んでいます。今後の最新情報を収集しながら、地域包括ケアシステムの推進に向けて医療・介護・福祉の要として期待されている職能をしっかりと果たしていきたいと思います。

またケアマネジャー不足が全国的に進んでいますので、今後はケアマネジャーの雇用確保と離職対策を実施していきます。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 常陸大宮市南部地域包括支援センター

管理者 鈴木 俊三



### 【概要】

地域包括支援センターは、介護保険法に基づき、全国の市町村が実施する地域支援事業のうち包括的支援事業を実施する公的機関です。常陸大宮市では、南北2か所に設置されており、南部は旧大宮町を担当圏域とし、当法人が業務委託を受託しています。2024年3月31日現在、市全体の人口38,589人、高齢化率39.2%、うち南部は、人口24,293人、高齢化率34.0%となっています。

昨今、水害やパンデミックなど不測の事態を見据え、地域の団結と創意工夫がより一層求められる時代となり、包括が果たすべき役割はますます多様化しています。専門職としての技量だけでなく、住民のニーズに寄り添う熱意と柔軟な発想力を持ち、住民主体の地域づくりに貢献できる機関を目指したいと思います。

人員配置（2024年3月31日現在）

主任介護支援専門員	3名
保健師等	2名
社会福祉士	1名
介護支援専門員	1名
認知症地域支援推進員	1名
合計	8名

### 【業務内容】

業務内容は、市が策定した委託仕様書に基づき、①介護予防ケアマネジメント、②総合相談支援業務、③権利擁護業務、④包括的・継続的ケアマネジメン

ト支援業務、⑤支援ネットワークの構築、⑥地域ケア会議の実施、⑦認知症施策等があり、複合的な課題を抱えた地域の高齢者のワンストップ相談窓口として活動しています。

当法人では、医療機関、介護保険施設、在宅サービス事業所、認知症疾患医療センター、在宅介護支援センター等があり、それぞれの機関の特徴を生かした連携がはかりやすく、利用者様にとって大きな利点となっています。

### 【目標】

- (1) 全世代・全対象型の総合相談拠点として、地域住民や関係機関に広く認知され活用されるとともに、医療介護連携など必要なネットワークを構築することができる。
- (2) 地域のニーズに応じた住民主体の活動・参加の拠点づくりを推進することができる。
- (3) 認知症の人と家族が安心して暮らせるまちづくりをめざし、認知症に関する知識の普及・啓発だけでなく、住民主体の活動・参加の仕組みを構築することができる。

総数	398
介護保険	317
高齢福祉	17
認知症	78
権利擁護	18
子育て	1
障害者	8
生活困難	7
独居	71

介護力不足	58
全世代全対象	7
入退院支援	82
ケアマネ支援	20
情報入手	98
クレーム	6
その他	24

困難事例ケース検討会議	42回
地域ケア会議	11回
ケアマネ地区会	9回
虐待対応	16回
成年後見・身元保証支援	8回
出前講座（元気アップミニ講座）	13回
第二層協議体	23回

### 【トピックス】

- (1) 全世代・全対象型総合相談拠点として、難病・障害・生活困窮・孤立など重層的課題を抱えるケースの相談支援に取り組み、在宅医療介護連携の強化、障がい・就労・教育など制度の狭間を超えるネットワークの構築、地域の見守り・フードバンクなどインフォーマル資源の活用をはかりました。
- (2) 一般介護予防では、出前講座「元気アップミニ講座」を各地で開催。介護予防・介護保険制度・権利擁護など、高齢者の健康・生活に欠かせないテーマについて普及啓発を行い、自主的なサロン活動が継続できるよう働きかけを行いました。
- (3) 認知症施策では、認知症の診断や治療を受けていない段階で認知機能の低下が気になるかたを対象とした、予防教室「スマイル教室」を年3クール実施。実施後のフォローアップにより、認知症専門外来や軽度認知症予防教室「ブレインクラブ」、介護保険サービスの利用等につなげました。また、地域の交流スペースを利用して、認知症に関する書籍や情報を提供できる図書コーナーを設置したり、認知症の家族や関係者がつどい、お互いの悩みや思いを共有できる交流会を開催しました。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 ひたちなか市北部地域包括支援センター

センター長 大津 匡史



ひたちなか北部包括支援センターの外観

### 【概要・特徴】

ひたちなか市北部地域包括支援センターは、介護保険法に基づく地域支援事業を担い、ひたちなか市から当法人が受託しております。事業を担う中で、スマイルと似顔絵を活用しながら「地域住民がアクセスしやすく、いつも傍にいる地域の仲間」と感じてもらえるよう努めております。

### 【事業内容】

- ① 総合相談
- ② 権利擁護
- ③ 介護予防ケアマネジメント
- ④ 包括的・継続的ケアマネジメント
- ⑤ 認知症総合支援事業

市役所から委託された5つの業務内容を担い、地域の相談窓口として活動しております。主に高齢者の相談窓口となりますが、近年複雑化するケースに対応出来る様、地域の各相談窓口と連携を図りながら、課題の解決に努めております。

### 【重点課題・TOPICS】

#### ○質の向上

ケアタウンひたちなかにおいて当センターは地域住民や地域の医療・福祉・保健事業所、そのほか行政など様々な機関とつながっている法人の顔役です。その意識を高く保つ為、①接遇の向上 ②ケース対応力の向上 ③チームワークの向上といった面で研修やコーチングを行い質の向上を図りました。

#### ○業務内容の見直し

ケアマネ不足の深刻化に伴い、包括の業務にも支障をきたすようになってきています。この課題に対応する為、総合相談の対応方法や地域活動への出席方法、介護予防ケアマネジメントの業務委

託方針の見直しを行いました。地域や各事業所との「つながり」という財産を大事にしつつ、職員の業務過多とならないよう対応を協議し、実施しております。

#### ○認知症総合支援事業

認知症サポーター養成講座の受講に若年層を取り入れられるよう、企業へのプロモート、生産世代が参加しやすい日時の工夫などを行い、40代・50代が参加する講座を複数回開催する事ができました。

認知症地域推進員が5月より変わりましたが、包括メンバーも協力しながら、良い地域づくりができるよう努めております。

### 【実績】

- ・総合相談延べ件数：2,437件
- ・介護予防ケアマネジメント件数：4,291件  
(内、委託件数 2,849件)
- ・地域ケア会議(小地域ケア会議含む)：8回
- ・地域活動実践延べ回数：79回

## 7. 部門別実績報告 博仁会

### コミュニティケアサービス部

部長 宮川 直彦

#### 1. 概要

2023年度より、部門の拡大に伴い、部門方針を大きな目標と、4つのフロイデタウンごとにさらに細かい目標設定を立てた。分けることにより、地域に密着した形で目標設定を行い、地域包括ケアシステムに向けて具体的な目標を遂行することが可能になると考え実行した。

また、部門内での組織改革も行い、ケアタウンごとに組織マネジメントができる仕組みを目指した。特に力を入れることとして、フロイデひたちなかメディカルプラザの立ち上げである。有床診療所を中心に、看護小規模多機能、住宅型有料老人ホームの新規立ち上げとなる。診療所としては、機能強化型在宅支援診療所（連携型）を水戸クリニックと取得するための実績づくりを進めていくこと。医療・介護が一体となってまわる仕組みづくりを重要視した。

その他として、2024年改定のトリプル改定に向けた情報収集と準備が重要とした。さらに、メディカルフィットネスの「医療法42条」を取得することや順次「健康増進施設」「指定運動療法施設」の取得を目指した。

#### 2. 実績報告

CCS部マネジメントリーダー育成研修では、第2期の8名が受講しており、9月で1年間の研修を修了した。次期からは、入所部門も入り学んでいくことになる。内容もリニューアルに向けて、内容の刷新を行った。

フロイデケアタウン大宮での、小さな小さな拠点づくりは、92地区中54地区(58.6%)まで広がった。また、多様な活用をしている、運動動画も31タイトルと増加できた。

フロイデケアタウン水戸では、歯科衛生士と管理栄養士の取組が活発化した。

管理栄養士は、栄養ケアステーションを活用し、地域への活動が昨年よりも増加していた。特に就労支援と連携し、生活支援車両とともに管理栄養士や歯科衛生士が同行し、その場で栄養や口腔の相談が行われ、講習会とは異なる形で地域の方とのさりげない相談会になっている。

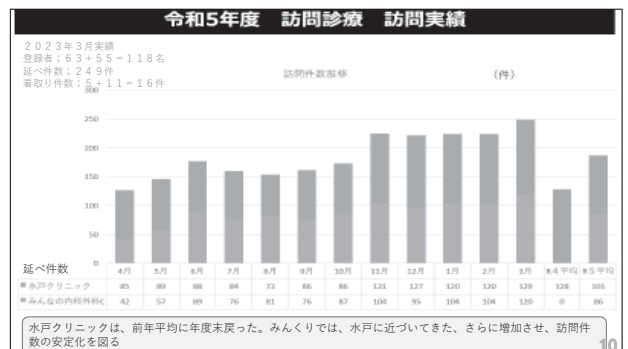
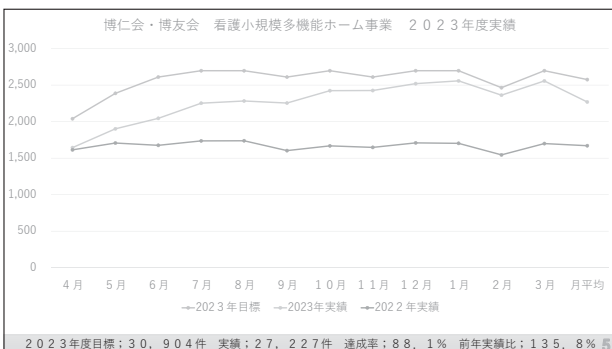
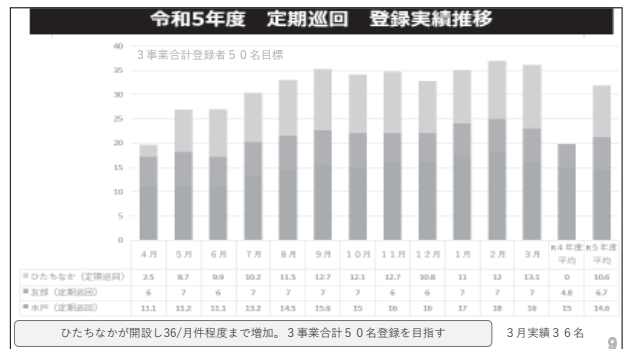
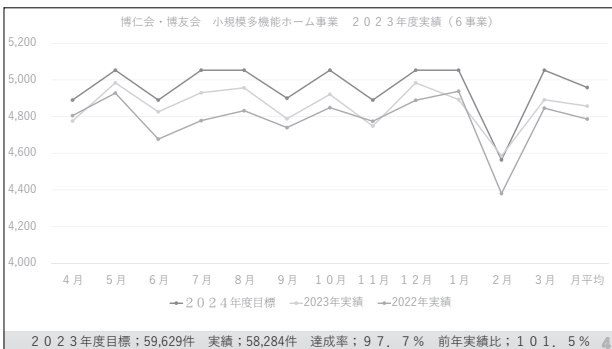
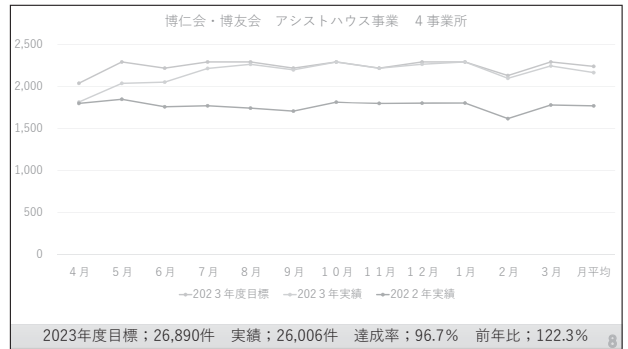
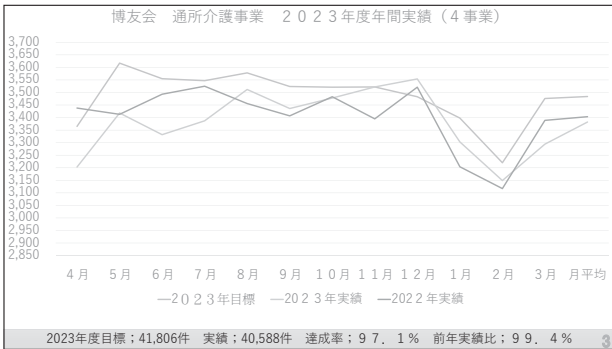
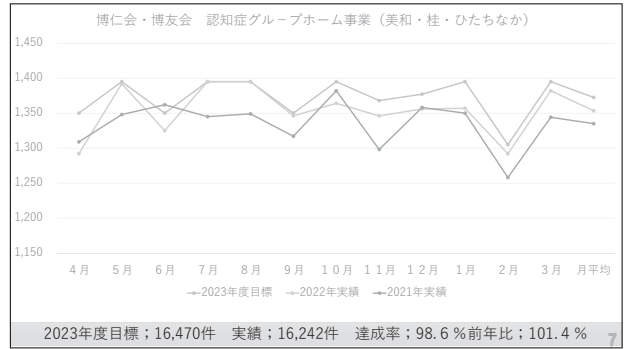
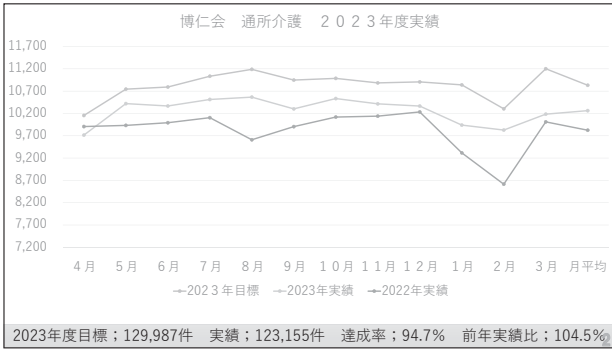
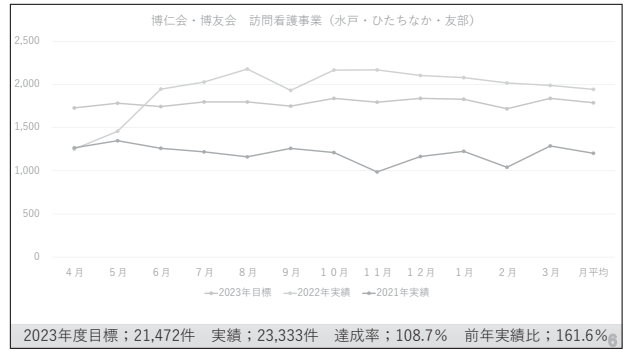
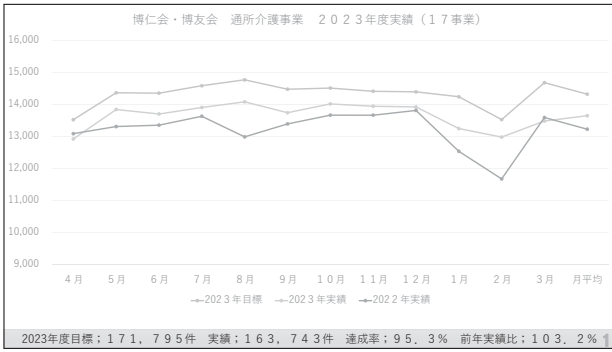
歯科衛生士は、水戸エリアを横断的に関わり、水戸地区の小規模多機能ホームの利用者に対して実施

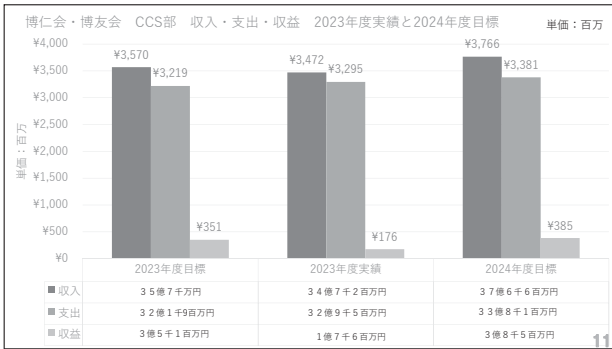
を定期的に行い、入院頻度も軽減した実績も出ている。歯科衛生士の活躍は、結果食欲増進にもつながり栄養改善にもつながっている。今後も、歯科衛生士を増員し、「運動、栄養、口腔」を一体的に提供していきたいと感じている。

フロイデケアタウンひたちなかでは、組織体制を強化。志村大宮病院と連携し質の向上を行い、ISO取得に向けて取り組んできた。また、みんなの内科外科クリニックを地域に知っていただくために営業活動や前方連携から後方連携とケアタウン内での、連携に力を入れ一体的運営を目指し、ミーティング行ってきた。

フロイデケアタウン友部では、県立医療病院様及び市民病院様そして地域の診療所と連携を強化し、住まいと看護小規模多機能及び訪問看護等を活用いただけるように情報交換を密に行っていた。

2024年度は、フロイデケアタウンひたちなかの第3期工事がスタートし、2025年4月開設を目指します。行う事業は、新たにサービス付き高齢者住宅、小規模多機能ホーム、就労継続支援B型、児童発達支援、放課後等デイサービス、認可外小規模保育、病児保育です。これらが完成することで、フロイデケアタウンひたちなかは、一定の完成を迎えることになる。子供からお年寄りまでが、地域の中で集える場としていつまでも安心して住み続けられるように、地域の各病院様や老健・特養など各資源と連携をしながら、フロイデケアタウンを作り上げていきたいと考えている。





## 2023年3月末→上期 運動動画 28→31 タイトル (前年比+3)

### 2023年度 部門方針 1/2

- フロイデヒたちなかメディカルプラザの早期立上げ(曇)とISO取得に向けた質の担保(質)
  - 有床診療所入院基本料の施設基準を基本科6→1へ
  - 3期プロジェクトの実行
  - 生活支援の移動販売車の導入(ケアタウンひたちなか導入)
  - 一歩進んだ生活支援(連携型)水戸・ひたちなか
  - 機能強化型在宅療養支援診療所(連携型)水戸・ひたちなか
- フロイデケアタウンごとの全世代、全対象型地域包括ケアシステムの推進
  - 〜こどもから高齢者まで生活を支える支援、持続的で多様なニーズの場づくりを専任・整備・実践〜
  - 引き続き実施
- ダイバーシティ&インクルージョンの実践
  - ・業務の細分化と人材育成、新たな取り組み
  - ・生活困窮者自立支援訓練の場
  - ・多様な人材活用
  - ・人材教育(育成)
  - 引き続き実施
- 介護福祉学科学学生募集
  - ・介護部と連携し、各学校訪問を2か月に1回実施(営業戦略チームの発足(2023年1月結成済み))
  - ・ニーズに応じた、水戸駅・赤塚駅からのバス送迎の計画を学校法人と連携して準備を行う(運転手と車両の準備)
  - ・外国人特別留学生の確保 →ミャンマー、社会人募集、継続した学校訪問

### フロイデサポーター 大募集!!

西内の出稼の準備が完了のために募り募り!!

フロイデサポーターとは

1. フロイデサポーターに就任
2. 業務(主にケアタウン)に関する実務
3. スタッフと連携して、フレックスタイム勤務
4. フロイデケアタウンの運営(フレックスタイム勤務)
5. フロイデケアタウンの運営(フレックスタイム勤務)

活動する日

活動する時間帯

この方も活動をぜひお願いいたします

【応募条件】

- ・大卒以上(短大生、専修生)
- ・年齢不問
- ・【経験者優待】
- ・【経験者優待】
- ・【経験者優待】

応募方法

電話: 0295-53-1000 総機・総機・総機

応募: フロイデサポーター 募集(書類提出)

7/25(日)まで受付(書類提出) 郵送も可(郵送)

### 2023年度 部門方針 2/2

- トリプル改定に向けた準備
  - ・改定の情報収集・対策準備を行う
  - ・通所・訪問など、地域密着事業は各市町村との情報交換も行って
  - ・医療介護連携・医療福祉連携
- その他
  - ・メディカルフィットネス
  - ・大宮メディカルフィットネスの水戸・ひたちなかの標準化に向けた取り組み
  - ・疾病予防運動施設(医療法42条施設)、厚生労働大臣認定「健康増進施設」3つの認定をめざす
  - ・健康運動実践者チーム; 有料配座サービスへの準備・計画・作成・実施
  - プロジェクトリーダーとして関与PTを筆頭に定期的な打合せを実施
  - ・栄養ケア・ステーションとの連携
  - ・人材確保と育成
  - ・訪問看護の確保(24時間2交代制をめざす)
  - ・介護職員の確保(定期巡回の巡回コースを増加させ登録定員の増加と在宅介護の強化)
  - ・介護支援専門員資格取得支援
  - 質の向上と確保を行う

### CCS部マネジメントリーダー育成研修 2022年度から開始

次期管理者育成

日時: 2022年9月20日(火)～2023年8月末日  
15:00～18:00(月1回)  
全13回(最終回は、発表会とする)

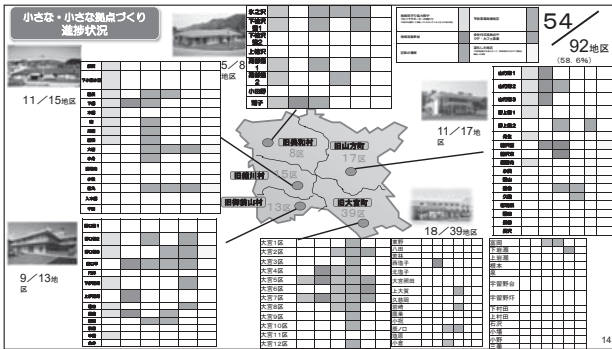
【受講職員】

立候補制・決意表明の提出 計8名受講中

毎回レポート提出あり  
学んだことを言語化するトレーニング

2022年度1期生8名修了  
2023年9月より第2期生開始  
今季8名受講

入所部門も含めて実施していく



### 専科フロイデグループ フロイデケアタウン水戸での栄養ケア・ステーション

クリニック患者様・サービス利用者様へ 栄養相談

血液データをもとに医師と連携を 図り面談を実施

地域活動への参加 移動販売とのコラボレーション等

管理栄養士が身近に感じられる研修所、気軽に相談できる空間を提供

配食サービス提供者への訪問(アセスメント)

食生活や体調を管理栄養士が訪問アセスメントを実施

敬福園とのコラボレーション

常盤大学栄養学部の学生とカフェメニュー開発を通して実践的な教育を行う

地域活動への参加 朝市とのコラボレーション

管理栄養士からの栄養講座を開設し、食生活の見直しができる場を提供

## 7. 部門別実績報告 博仁会 在宅介護支援センターおおみや

小野瀬 美幸



5区運動教室あつまーれー



健康運動実践指導者による体操



健康運動実践指導者による体操

### 【概要】

在宅介護支援センターは、常陸大宮市の長寿福祉課と生活環境課からの業務委託を受託しており、担当地域は（若林・小野・三美を除く）大宮中学校区になります。

### 【業務内容】

#### 長寿福祉課

- ・高齢者福祉総合相談（高齢者福祉事業の代行申請）
- ・緊急通報システム事業（設置立ち合い・安否確認の訪問）
- ・介護予防把握事業・高齢者見守り安否確認事業（独居・高齢者世帯の訪問）
- ・地域介護予防活動支援事業
- ・介護予防普及啓発事業
- ・認知症総合支援事業
- ・配食サービス事業
- ・生活支援体制整備事業

#### 生活環境課

- ・ふれあい収集事業

### 【目標】

- ・地域高齢者の実態把握と独居高齢者の支援
- ・地域サロン活動を支援する
- ・常陸大宮市・地域包括支援センター等の関係機関と協力し合い、民生委員を含めた地域住民との連携強化に努める

### 【実績】

- ・高齢者福祉総合相談件数 67 件
- ・緊急通報システム設置世帯数 63 件
- ・高齢者実態把握年間延べ件数 843 件
- ・サロンの活動支援 3 回

- ・介護予防普及啓発の資料の配布（熱中症予防のリーフレット・アイスノンの配布、特殊詐欺対策のリーフレット・特殊詐欺対策のメモの配布、ヒートショック予防のリーフレットの配布）
- ・生活支援体制整備事業茶話会 11 回
- ・ふれあい収集事業 6 件

### 【トピックス】

- ・地域の高齢者の方から様々な相談があり、関係機関と連携を図りながら、必要なサービスに繋ぐ事ができました。
- ・介護予防教室「運動教室あつまーれー」の開催に繋げる事ができました。
- ・緊急通報システムでは、年度初めに試験通報を実施し、全てのボタンを押して消防署へ繋げ、台帳の更新を行いました。



抽ヶ台サロン管理栄養士講話

## 7. 部門別実績報告 博仁会 常陸大宮市在宅医療・介護連携推進センター

川崎 真弓、矢口 志乃ぶ

在宅医療・介護連携支援センターは、常陸大宮市より在宅医療・介護連携推進事業の「在宅医療・介護連携に関する相談支援」業務の委託を受け、2022年4月1日より活動を開始いたしました。

### 【業務概要】

#### (1) 目的

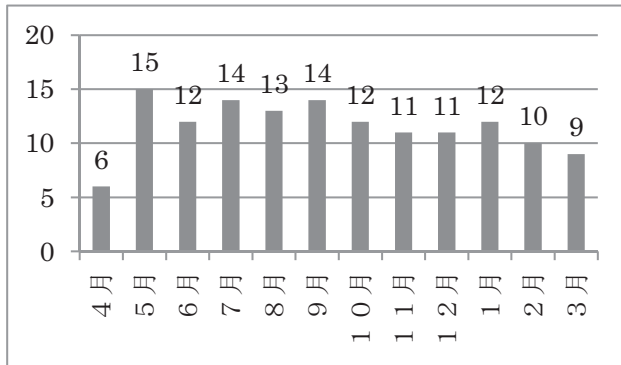
在宅医療・介護連携を支援する相談窓口として、地域の医療・介護関係者や地域包括支援センターから、在宅医療・介護連携に関する相談等を受け連携調整、情報提供により、その対応を支援する。

#### (2) 実施内容

- ① 医療機関や介護事業所等から寄せられる相談の受付とその支援
- ② 医療・介護関係者の情報共有の支援
- ③ 在宅医療についての理解促進に向けた普及啓発

### 【活動報告】

① 相談件数 139件 月平均 11.5件



### 相談者内訳

相談者	件数
認知症疾患センター	1件
ご本人	3件
病院	3件
行政	3件
訪問看護	4件
地域包括支援センター	6件
クリニック	6件
サ高住・GH	9件
家族	19件
居宅ケアマネジャー	38件
施設相談員	47件

### 相談・支援内容

相談・支援内容	件数
入院等支援	93件
退院等支援	14件
医療保険・介護保険	9件
外来受診支援	23件

### 【視察研修】

札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会

「とよひら・りんく」

### 【市民フォーラム開催】

11月11日（土）ピサーロ多目的ホール 115名参加

テーマ：「住み慣れた自宅で最期まで」～人生を支える医療 30年の実績から～

講師：医療法人アスミス理事長 太田 秀樹先生

### 【まとめ】

活動も2年目となり、相談件数も増えてきました。行政や地域包括支援センター各医療機関、施設と連絡調整を行い相談に対応してきました。相談内容としては、入院できる医療機関はないか、施設へ入所させたいがどうすればよいかなどが多くありました。

地域の医療機関、介護施設との連携、また、在宅医療・介護への支援が今後も重要になっていくと考えます。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 栄養科

科長 並木 道子



栄養ケア・ステーション

移動販売会場で栄養相談会



芋の栄養と免疫力をあげる食事

### 【目標】

- ① 科内の人員を適正に配置し、外国人技能生を含めスタッフ間で協力し安定した食事提供を行う。
- ② 多職種と連携し、個人の栄養状態に合わせた栄養ケアの計画と実施（病院、施設、在宅）
- ③ 病院、メディカルプラザ、介護施設の連携により栄養ケアに関わる栄養士の取り組みを強化する。

### 【実績・取り組み】

2023年度、栄養科では上記のような目標を掲げ、取り組んで参りました。

今年度は、ミャンマーより6名の技能生が入職し、病院やサテライト施設の厨房で食事に関わる業務に就いています。入職当初は、お互いにごう対応していくか戸惑いもありましたが、日常会話にも慣れ、業務も着実に行うことができています。今後も、栄養科の一員として活躍できるよう共に学びながら取り組んでいきたいと思ひます。

病院、施設では、管理栄養士が担当制をとり、栄養アセスメントを行い定期的に介入することにより、ひとりひとりの状態に合わせた栄養ケアと食事の提供を行っています。栄養サポートチームや多職種でのカンファレンスを通して、他職種との連携をとりながらより良いケアに努めていきたいと思ひます。

管理栄養士、栄養士が地域住民の日常生活の場で栄養ケアを実施、提供する拠点として、「認定栄養ケア・ステーション」があります。2020年4月より、「おおみや認定栄養ケア・ステーション」を開設し、2023年4月には、「フロイデ水戸メディカルプラザ認定栄養ケア・ステーション」10月には「フロイデひたちなかメディカルプラザ認定栄養ケア・

ステーション」の2拠点で開設することができました。こちらの2拠点は、地域のコミュニティの場であるカフェを併設しており、より地域に密着した取り組みを展開することができます。朝市や移動販売先に栄養相談ブースを設けたり、地域の高齢者への栄養講話や高校野球部の栄養支援を行うなど、活動の場を広げています。

栄養科は、おいしくて安心安全な食事の提供と、個人の特徴に合わせた栄養ケアの2つの重要な役割があります。昨今は食材費の高騰や人員確保の問題など様々な困難もありますが、職員一同協力し、他部門と連携をとりながら、患者様、ご利用者様、地域の皆様に喜んでいただけるサービスの提供を心がけて参ります。

### 【栄養ケア・ステーションの活動】

サロン：大宮アシストハウス

9月25日 18名「柿の栄養について」

10月30日 19名「芋の栄養と免疫力をあげる食事」

水戸：移動販売会場で栄養相談の実施

10月11日・10月25日

ひたちなか：ときめき元気塾西原

講習会「食中毒について」

## 【概要】

志村大宮病院薬剤科は薬剤師5名、助手3名で構成されております。病院内の調剤と薬品管理を行っています。内服・注射調剤、製剤業務、医薬品管理、外来化学療法、医薬品情報管理、病棟業務、服薬管理指導、チーム医療への参画、訪問薬剤指導、薬学実習生受け入れ、看護学校教育など業務は多岐にわたっており、薬剤に関することは全て関与し薬が安全に使用できるよう業務を行っています。

## 【実績】

病棟薬剤管理指導	4,351 件
訪問薬剤指導	1,164 件
薬剤師病棟配置加算	3,447 件
無菌製剤処理料	4,597 件
薬剤総合調整加算	11 件
薬剤情報連携加算	161 件

## 【業務内容】

当院の薬剤科では薬の適切な管理を強化し、安全かつ効率的な薬剤使用を推進しています。調剤業務や薬剤情報提供、医療安全対策などの様々な活動を行っています。病院では珍しく在宅への訪問薬剤指導も行っております。地域包括ケア支える病院として在宅への関与は今後も積極的に行ってまいります。

調剤業務に関しては注射や内服の個人別セットを行い、薬剤師が一貫して薬に関わる体制を整えております。入院時の薬剤説明に関しても行っており、転院時に処方された薬剤の説明を受けていないことが多い本人やご家族へ今後の方針なども交えてお話ししています。抗がん剤治療に関しては安心かつ安全に行えるようにクラスⅢのアイソレーター、調剤ミスを起こさないための監査システムも導入しています。こちらに関しては運用に慣れてきたこともあり、より正確な調製作業を行っています。今後としては投与時、看護師の被ばくを防ぐ閉鎖器具の導入を検討しています。

膨れ上がる国の医療費を抑えるために積極的なジェネリック薬の採用も進めていますが、昨今の医薬品の供給不足には当院も影響を受けています。薬剤師が代替薬を提案することで患者さんにいつもと変わらぬ治療を受けていただいています。

## 【トピック】

国際医療福祉大学より今年も薬学生を受け入れ実習を行いました。実習期間は二か月半と長いですが、指導薬剤師の監督のもとに調剤や服薬指導、抗がん剤調製を行っていただきました。患者さんの病態を全体的に把握して納得できる治療の選択ができるような手助けができる薬剤師になっていただけることを期待しつつ実習を終えることができました。来年度以降も引き続き実習生の受け入れと教育を行っていきたいと考えております。

【目標】

- ① DPC の収益維持  
在院日数管理と入院期間 I・II 退院管理  
効率性係数 1.04 以上の維持
- ② カルテの質の向上  
退院サマリー（退院後 14 日以内）90%以上、  
量的点検業務の効率化・実施率 90%以上  
質的 point 検業務の実施（年間 90 症例以上）
- ③ 外来患者数、収益の増加  
外来単価増に伴う分析（年 2 回の定期検査実施）  
検査・健診センター利用者・人間ドック利用者数の増加
- ④ 返戻・査定減少に伴う質の高い診療報酬請求業務
- ⑤ 診療報酬改定に伴う算定・届出及び施設基準要件の点検
- ⑥ 人材育成（志村大宮病院、フロイデクリニック水戸、みんなの内科外科クリニック）
- ⑦ みんなの内科外科クリニック 新規個別指導対策準備

【来年度へ向けて】

- ・DPC の収益維持  
在院日数管理と入院期間 I・II 退院管理  
効率性係数 1.04 以上の維持
- ・地域包括医療病棟 48 床への変更準備（10 月届出予定）  
施設基準に基づいたシミュレーションの実施、実績管理  
在宅復帰率 80%以上（6 ヶ月平均）、平均在院日数 21 日以内  
重症度、医療・看護必要度 1 16%以上（3 ヶ月平均）等
- ・カルテの質の向上  
退院サマリー（退院後 14 日以内）90%以上、量的点検業務の  
効率化・実施率 90%以上  
質的 point 検業務の実施（年間 90 症例以上）
- ・返戻・査定減少に伴う診療報酬請求業務の質の向上
- ・人材育成（志村大宮病院、フロイデクリニック水戸、みんなの内科外科クリニック）
- ・みんなの内科外科クリニック 新規個別指導対応

【主な実績】

- ・DPC 収益維持  
DPC 期間内の早期退院調整（入院期間 I・II）  
55%以上→50.7%  
在院日数管理と入院期間 I・II 退院管理、効率性係数 1.0 以上の維持
- ・検査・健診センター受診者数増加  
特殊健診・OP 検査の拡充、各企業業種別の簡易健診の開始 2023 年度 3,360 件→3,090 件（職員を除く）
- ・無料送迎バス利用者増と維持・確保  
目標 年間 12,000 名→実績 10,081 名 84.0%  
病院送迎バスの充実の一環として、「ナースカー」の運行。「ナースカー」は、入院患者さんの送迎と、外来で通院困難な患者さんの送迎を行う専用の車両。
- ・新型コロナウイルス感染症対応  
ワクチン予約管理、接種実績、各補助金及び接種協力金申請
- ・みんなの内科外科クリニック 新規開設対応  
医療機関届出、各システム稼働準備（電子カルテ、医事システム）
- ・診療報酬改定に伴うシミュレーションの実施

【グループ全体の3カ年目標達成のための活動の推進】

- ① 利益率向上に向けたコスト削減の強化
- ② 施設整備の推進
- ③ 情報発信の強化
- ④ 介護システム・PACS サーバー更新
- ⑤ 院内物品管理システム（SPD）の運用開始
- ⑥ 院内保育所フロイデキンダーガルテンへのICTを活用した業務効率化システム導入
- ⑦ 健康経営優良法人2024年度（大規模法人部門）取得に向けた取組み

【実績】

① コスト削減強化

コスト削減強化では、2022年12月以降、LNGなどの輸入価格の高騰をうけ電力会社料金が値上がりしました。当院では、令和5年度の年間電力使用量は、ひたちなかメディカルプラザの開設をうけて前年と比較して、12%増加しました。電力料金は、約30%増加し、現在も増加傾向が続いています。これをうけ、当院では電気料金削減のため、節電行動アクションによる電気料金の削減に取り組みました。また、電気料金の削減に有効な、施設照明のLED化を促進、AIを活用した節電管理システムを導入し、使用電力量の削減を行いました。

その他、コスト削減を目的とした、院内物流管理システムのSPDの導入を開始いたしました。



LED 照明への変更

② 施設整備の推進

ドイツ館・スイス館・フロイデハイム屋上リハビリ庭園の春・秋2度の植え替えを行いました。一年を通じて花と緑の絶えないリハビリ庭園をご利用者の皆様に提供致します。ドイツ館の開設に合わせ、中庭のライトアップを現在も行っていきます。



病院中庭のライトアップ



スイス館屋上リハビリ庭園



フロイデハイム屋上リハビリ庭園



エーデルワイス病棟屋上庭園



院内保育所フロイデキンダーガルテン

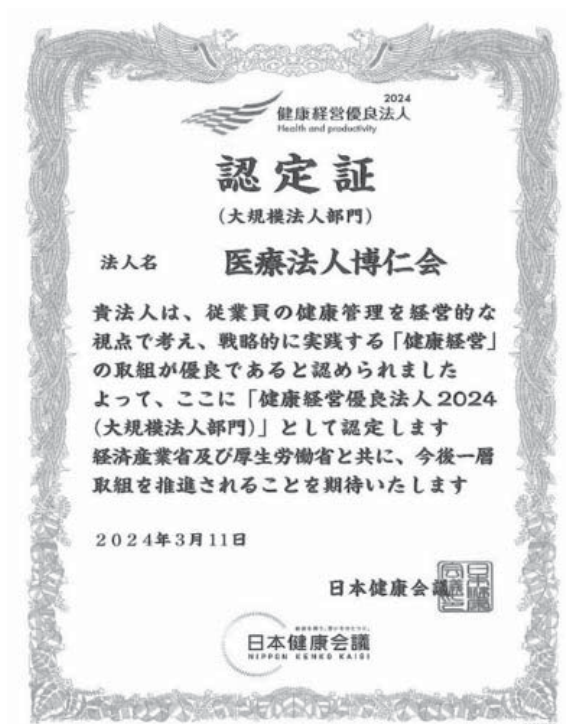
- ③ 情報の配信では広報誌『お元気ですか』の発行、情報システムの整備による効率化と情報の共有化を図るため、グループウェアサイボウズによる情報の共有化を引き続き進めています。医療と介護の連携ルールとしてグループウェアサイボウズは、拠点数の増加、職員の増加により巨大化・広域化したSFG（志村フロイデグループ）の情報共有・意思伝達手段として非常に有効なツールとなっています。

- ④ 2023年度は、電子カルテの入れ替えを実施に続き、介護システムの入れ替えと、医療画像システム（PACS）のサーバーの入れ替えをおこない、データ量の増大に対応致しました。
- ⑤ フロイデキンダーガルテンでは、ICTを活用による業務高利化をはかり、保育士が子供と向き合う時間を増やす目的で保育業務効率化システムを導入いたしました
- ⑥ 健康経営有料法人 2024 取得

志村フロイデグループでは、健康経営に取り組む企業として経済産業省「健康経営優良法人ホワイト500」の取得に向けた取組を平成30年度より行っています。

「健康経営」とは、従業員の健康管理を経営的な視点でとらえ、戦略的に実践することです。企業理念に基づき、従業員への健康投資を行うことは、従業員の活力向上や生産性の向上等の組織活性化をもたらし、結果的に業績向上につながるとされています。

2024年度は、健康経営優良法人（大規模法人部門）に再度認定されました。



2023年度決算では、医業収益が63億6,689万円（前期比3億9,686万円増、6.6%増）と増収になりました。新型コロナウイルス感染症が5類移行したことにより外来患者数が減少し収入が減少しましたが、2023年4月開業のひたちなかメディカルプラザ新規事業により大幅に増収となりました。ひたちなかメディカルプラザでは、有床診（19床）・看護小規模多機能型居宅介護・住宅型有料老人ホーム・工房ひたちなか等新規事業開設で、約5億円収入得られたため、増収になりました。

対して医業費用では64億7,180万円（前期比6億4,882万円増、11.1%増）となりました。主にはひたちなか開業による初期投資分で費用が大幅に増加しました。具体的には、①ひたちなか開業で職員増加（前年比+約86名）による人件費増加（前年比+3億5,801万円）、②ひたちなか建物設備等で減価償却費増（前年比+5,763万円）、③志村大宮病院の電子カルテほか入替、および、ひたちなか医療機器・電子カルテ等新規設備導入もありリース料増加（前年比+9,863万円）、④ひたちなか初期投資である消耗品・診療材料・給食材料等増加、⑤電気代上昇による水道光熱費3,062万円増加、などが要因で医業費用が増加しました。

そのため医業利益は、初期投資分が大きかったため医業費用が医業収益を上回り、△1億490万円と赤字計上となりました。

補助金収入は新型コロナが5類移行したこともあり前期比減少しましたが、出向料等営業外収益で2億2,126万円計上し、経常利益は6,113万円、当期純利益は4,280万円と黒字計上は出来ました。

次に貸借対照表で資産・負債状況をご説明します。

流動資産では、ひたちなか等業容拡大により2か月後入金となる医療保険・介護保険収入が増えたため未収金が増加したこと、支払いに備え現預金残高を増やしたことにより、28億7,223万円となりました。

固定資産では、前期末にひたちなかメディカルプラザの建物・備品等計上し、今期はその資産を活用し順調に減価償却しましたので、固定資産全体で前期比7,384万円減少し、53億435万円となりました。

資産全体では、流動資産増加分が大きかったため、総資産は81億7,858万円と前期比+3455万円、0.4%増加しました。

対して負債勘定では、資金繰り安定化のため短期借入金で1億円調達しましたが、長期借入金1億9,045万円順調に返済したため、負債残高が48億6,258万円と前期比825万円減少しました。

当期純利益4,280万円分で純資産が増えましたので、負債・純資産合計で81億7,858万円と前期比+3,455万円増えました。自己資本比率は前期同様40%を確保出来ました。

#### 【今後の活動予定】

2023年度開業したフロイデひたちなかメディカルプラザで稼働率を上げて収益向上を目指し、軌道に乗せてまいります。その後、博友会で3期工事として3棟フロイデウェルビーイングプレイスを建築し2025年4月開業し、フロイデケアタウンひたちなかを完成させます。

2024年4月以降の診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス報酬のトリプル改定で、プラス改定にはなりましたが、主な上昇分は処遇改善にて、経営上は厳しい改定となりました。

今後、職員への賃上げによる処遇改善、物価高騰による経費増加、など支払増加が予想され、経営上の対策課題が増えてきております。課題を解決しつつ、資金繰りに留意しながら収支を安定化させていき、地域に選ばれる法人を目指してまいります。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 人事課

課長補佐 立原 一茂



入社式



入社前研修

### 【概要】

人事課は6名（2024年3月末時点）の職員で構成しております。

業務は「職員」に関する業務全般となり、月例業務から季節的業務など多岐にわたります。

### 【主な業務】

- ・新規学卒採用 中途採用
- ・就業規則管理
- ・勤怠管理
- ・職員の健康管理
- ・給与計算
- ・社会保険
- ・職員研修
- ・外国人人材の受入れ

### 【トピックス・実績】

#### 1. ウェルビーイング推進室の活動

産業医の丸岡医師と、公認心理師が中心となり、心身に不調が見られる職員の支援を行ってきました。

一定期間以上の休みとなった職員に対しては、復帰前に主治医の意見書をもとに面談を実施することで、早期再療養防止及び円滑な職場復帰に繋がっております。

- ・産業医面談数 87件
- ・公認心理師面談数 172件

#### 2. 新規学卒採用 中途採用

2023年4月にフロイデひたちなかメディカルプラザ新規事業所を開設しました。円滑な業務運営のために人員状況を随時確認し、欠員が出た場合には早急に対応してきました。

中途採用全体としては、各部門と協力し121名の入職者確保へと至っております。

新規学卒採用においても各職種と連携し、学校訪問10校・就職説明会21回・見学者対応を実施し39名の採用となりました。

#### 3. 外国人人材の受入れ

2023年度は志村フロイデグループにおいて、新たにミャンマーから調理員の特定技能6名を含む9名の外国人人材の受入れを行い、グループ全体では20名が在籍しております。（2024年3月末時点）

日本で安心して業務を行いながら生活できるように生活面でのサポートや、技能実習評価試験及び日本語能力検定試験等の事務的サポートを継続していきます。

2023年4月にフロイデひたちなかメディカルプラザ新規事業所を開設し、医療法人博仁会の総職員数も1,000人を超えました。職員一人一人にとって働きやすい職場環境となるよう、人事課職員一丸となり業務へ取組んで参ります。

## 7. 部門別実績報告 博仁会 法人サポート部

部長 小野 健悦

### I. 目標

2023年度は日本在宅療養支援病院連絡協議会の円滑な運営及び会員増、各種学会等の開催を目的とし事業運営をいたしました。

### II. 日本看護学校協議会学会

2023年8月3・4日には水戸市民会館を会場として「第35回日本看護学校協議会学会」を開催いたしました。「共にあゆみ共に生きる」をテーマとした学会には看護教員、看護学生などが全国より集い、看護の魅力を発信する学会とすることができました。

### III. 日本在宅療養支援病院連絡協議会研究会

2023年12月9日には第1回日本在宅療養支援病院連絡協議会研究会を開催いたしました。本研究会では「2024年度診療報酬改定」について（当時）厚生労働省保険局医療課長の眞鍋馨氏、「第8次医療計画」について（当時）厚生労働省医政局地域医

療計画課長の佐々木孝治氏にご登壇をいただき、全国より700名以上の医療・行政関係者に視聴をいただくことができました。

### IV. 日本地域包括ケア学会

2023年12月17日には日本医師会館を会場として日本地域包括ケア学会第5回大会を開催いたしました。2024年同時改定とその後の地域包括ケアシステム構築と題した学会には会場参加・オンライン参加併せて1,200名以上が参加し「介護側が期待する医療」「リハビリ・口腔・栄養の一体的提供」の重要性について学ぶ機会を提供することができました。

### V. 終わりに

法人サポート部では、今後も病院団体・学会の運営等を担うことで、志村フロイデグループのさらなる発展に寄与できるよう、今後も務めてまいります。

## 7. 部門別実績報告 学校法人志村学園 茨城北西看護専門学校

校長 吉原 ます子



北富田地区の住民と協働した北富田カレー

2023年度は、看護学科は1年生が34名、2年生34名、3年生が41名、介護福祉学科は1年生8名、2年生17名、全学年134名、教職員16名でスタートしました。

### 部門方針

- 受験生の増加による優秀学生の確保を図る
- 教育活動を充実し、国家試験『全員合格!』を達成する
- 新型コロナウイルス感染症の5類移行後も感染対策を徹底する
- 学校運営の安定を図る
- 教育の質向上に向けた取り組みをする

### 実績

#### 1. 「受験生の増加による優秀学生の確保を図る」

前年度の学生確保の反省から、広報活動の充実に力を入れました。法人サポート部の力もお借りし、5月より高校50校を訪問していただきました。また、学校として、11～12月に40校訪問しました。

看護学科はオープンキャンパス参加者120名の目標を立てました。参加者は60名であり、前年度と同数でした。受験者数は34名にとどまり、令和6年度の入学者数は31名であり、定員割れをしてしまいました。

介護福祉学科は5月より週1回オープンキャンパスを実施し、参加者は16名でした。入試においてもAO、指定校推薦、公募推薦、一般入試を実施しました。結果、令和6年度の入学生は11名となりました。

#### 2. 「国家試験『全員合格!』を達成する」

看護学科は今年度も国家試験の合格100%をめざし、学生を指導してまいりました。入学当初より、

学生の自己学習能力の向上を目指し、学生自身で問題解決していけるように、ゼミナール学習を組み入れてきました。3年生になり、学内実習が多くなる中で、様々な工夫をしてまいりました。最後の実習統合実習は臨地で実施することができました。実習が終了した12月より本格的に国家試験対策に取り組みました。今年度も寸暇を惜しみ集中しました。結果86.8%でした。

介護福祉学科は2回目の国家試験に挑戦しました。100%の合格を目指し、2年生の第4段階の介護実習が終了すると、夏季休暇以後はひたすら国家試験対策に取り組みました。結果1名の不合格者を出してしまいました。

#### 3. 「新型コロナウイルス感染症の5類移行後も感染対策を徹底する」

学生の登校時のアルコール手指消毒、サーモカメラによる体温チェックと学生証アプリによる健康状態登録により、健康状態の確認に努めました。

#### 4. 「学校運営の安定を図る」

学校運営の安定を図るため、まず、入学者の確保と学生を減らさないという目標の下、学年担任制をとり早めに対応し、必要に応じ本人・保護者との面談を実施することやカウンセラーにてメンタルヘルスサポートの実施をしてまいりました。

看護学科においては、単位未修得科目が多く原級留置が予測された学生に、休学するケースが見られました。

介護福祉学科においては北富田地区の事業に積極的に参加し、地域住民の暮らしを守ることの意義等を学びました。

## 5. 「教育の質向上に向けた取り組みをする」

他校の良い方法はどんどん取り入れるために看護学科は日本看護学校協議会・茨城県看護教員連絡会、介護福祉学科は日本介護福祉士養成施設協会にも加入し、教員の連携も図り質の高い教育に努めています。

当校は、第35回日本看護学校協議会学会の開催校として、法人の皆様の全面的なバックアップのもと、2023年8月3・4日水戸市民会館にて開催いたしました。テーマ「共にあゆみ、共に生きる～看護の知の力で、持続可能な社会を目指す～」のもと、テーマに沿った講演・シンポジウムを組むことができました。参加者は1,060名（会場参加 863名 オンライン参加 197名）であり、「どの講演も素晴らしかった。予想以上の魅力あふれる内容であった。」のご意見をいただきました。

### 最後に

開学して看護学科は15年目、介護福祉学科は5年目、2023年度は、134名の学生の指導をしてまいりました。年々入学生の学力のなさを痛感しながら、教員一同どう教育したらいいのかと悩む毎日でした。しかし、卒業時の学生は周りの方々に助けられ、一回りも二回りも大きくなって巣立っていきます。

入学を許可したからには卒業まで学校の責任と考えています。さらに国家資格取得までが学校の責任と考えています。「国家試験全員合格!」を目指し、教職員一丸となって支援してまいります。

## 7. 部門別実績報告 博友会 事務サービスグループ

部長 江幡 和子



事務サービスグループメンバー

### 【部門方針及び主な業務内容】

- ① 同時改定への事務部門としての準備と現状の見直し
- ② 働き方改革に対する活動の定着と向上
- ③ 新規事業(第3期ケアタウンひたちなか事業)開始に向けた準備

2023年度、事務サービスグループは、総勢12名で、上記部門方針のもと活動してまいりました。

今年度は、介護保険改定に向けての情報収集と対応の準備、職員勉強会を数回開催しました。また、新人事考課制度をブラッシュアップし、更なる働き方改革に取り組みました。また、ひたちなかケアタウンランドオープンを目指し、博仁会のひたちなか第2期工事に続き博友会第3期工事を着工しています。

### 【実績】

収入実績（内部取引消去後）

経常収益	1,673,809 千円
経常費用	1,561,297 千円
経常増減差額	112,512 千円
特別増減差額	▲ 694 千円
当期活動増減差額	111,818 千円

### 【2023年度のトピックス】

- ケアタウンひたちなか第3期事業について、2023年12月21日一般競争入札の結果、鈴縫工業株式会社に施工業者が決定し、2024年2月9日地鎮祭を執り行い、工事着工いたしました。2025年4月事業開始に向けて、資金計画及び銀行への融資折衝、補助金の申請業務等を行っております。
- パパママミーティングからの要望事項である、時間有給制度を創設しました。新たな手当（早番手当・ケアプラン作成割増手当）の創設や、物価高騰に合わせた、職員旅費規程宿泊費の見直し、実態にあわせて働き方改革の問題点の改善として定年後継続雇用内規等、就業規則の改定を実施しました。
- 採用が厳しかった調理員を、外食特定技能で採用することとし、SFGとして初めてミャンマーからの給食人材を受け入れました。2024年3月31日現在、SFG全体で20名の外国人材を採用しています。ベトナム12名、モンゴル2名、ミャンマー6名、うち介護14名、調理6名が活躍しています。

離職率	8.98%	23名
転籍・65歳以上除く 離職率	6.26%	7名
上記外国及び人材除く 離職率	5.16%	2名

## 7. 部門別実績報告 博友会 栄養サービスグループ

係長 鈴木 真弓



ミャンマーからの技能実習生



栄養講話の様子



健康支援型配食サービス

### 【部門方針】

- ① 各関係機関との連携により新規利用者確保による収入・利益の安定を図る
- ② 365日3食、個人対応での食事の提供およびご利用者様ご家族様との信頼関係を構築し、自立支援への対応を図る
- ③ ひとり一人の生産性向上のために職員の資質の向上に努めながら、職員ひとり一人が自身の未来図を描くことができるよう応援する

### 【トピックス】

今年度は、大宮フロイデドルフ栄養科に、ミャンマーからの技能生が2名入職しました。慣れない環境ではありますが、日本語の勉強をしながら一生懸命調理技術を習得してくれています。今後も、ご利用者様においしい食事を提供できるよう、栄養科職員の一員として、共に調理技術の向上に取り組んでいきたいと思ひます。

また、法人や地域のイベント等にも積極的に参加して頂き、他職種や地域との関りを大切にしていきたいと思ひます。

### 【実績】

2023年度の博友会全体の食事提供数は、272,749食で1日平均745食でした。

また、おおみや認定栄養ケア・ステーションと連携し、栄養ケア・ステーションにお弁当を教材とした栄養講話を実施していただき、ごぜんやま配食サービスセンターから、健康支援型配食を提供することができました。健康支援型配食サービスでは、お弁当を提供するだけでなく、共食の場を設けることで、人と人との交流の中から笑顔が生まれ、心も体も健康になることを目指しています。さらに、

引きこもりやフレイルといった問題解決にも取り組み、一人でも多くのかたに、生きがいをみつけてほしいと考えております。

お一人暮らしのかたでも、ご家族様が安心して暮らしていけるよう、地域の方々の栄養サポートとして治療食にも力を入れ、QOLの向上、安否確認につとめ、今後も多職種連携により、多くの方に配食サービスを利用して頂きたいと考えております。

今後も姉妹法人である医療法人博仁会と情報交換・連携を強化していきながら、ご利用者様一人ひとりに合った美味しい食事を提供できるよう努めていきたいと思ひます。

### バイキング献立

4月	お花見	筍・山菜ごはん、鶏肉のハニーマスタード焼き、卵の花、ガドガド、じゃがいもたまねぎのお味噌汁、白菜の中華風浅漬け、いちごパバロア
5月	中華	中華丼、中華サラダ、餃子、たまごスープ、フルーツ杏仁豆腐
6月	ガルテンリクエスト	ちらし寿司、天ぷらもりあわせ、ポテトサラダ、大根とがんもの煮物、具沢山汁、フルーツポンチ
7月	七夕	七夕ちらし、豚肉となすのみそ炒め、夏野菜のサラダ、すまし汁、ラムネゼリー
8月	スタミナ強化	豚肉のネギ塩レモン丼、とろろとオクラとめかぶの和え物、揚げナスのピリ辛づけ、スンドゥップ風チゲスープ、水まんじゅう
9月	お月見	栗おこわ、鮭のみぞれ煮、ピーマンのさわやかサラダ、サトイモとなすの煮物、すいとんのキノコ汁、さつまいものおはぎ
10月	東南アジア	ガバオライス、青梗菜とカシューナッツの炒め、エビとアボカドのサラダ、フォー入りスープ、オーギョーチ
11月	城里	ちらし寿司、すき焼き風煮、さつまいものサラダ、けんちん汁、ミルクレープ
12月	クリスマス	きのこチキンのピラフ、クリスマスサラダ、サトイモとほうれん草のクリーム煮、ミネストローネ、チョコケーキ
1月	北海道	ほたて味噌ラーメン、白菜とじゃがいものミルクチーズ煮、サーモンのサラダ、キャラメルプリン
2月	節分	天ぷらそば、筑前煮、カラフル豆サラダ、豆乳チョコプリン（イチゴ添え）
3月	ひなまつり	彩りちらし寿司、春野菜のマリネ、アスパラといかのネギ塩炒め、はまぐりのすまし汁、ひなまつりゼリー

## 7. 部門別実績報告 博友会 御前山フロイデガルテン

主任 石川 和範

### 【特徴・主な業務内容】

博友会には入所施設が2施設ありますが、母体となるのが御前山フロイデガルテンです。多職種連携で連携しながら、住み慣れた地域での生活の継続と看取りケアまでの幅広いニーズにお応えするべく、奮闘させて頂いているところです。

当施設はショートステイも事業として実施しており、在宅生活継続のために、家族様のレスパイトなどのニーズのほか、緊急対応など、可能な限り必要なニーズにお応えできるよう、24時間365日体制で運営させて頂いています。

### 【部門方針】

- ① ニーズに即した終末期の対応を円滑に行い、ご利用者様、ご家族様に安心を提供する。
- ② 新しい技術を活用し、ご利用者様の体調管理、睡眠の質の向上、適切な排泄介助を提供する。
- ③ 個々の職員の目標に応じた教育・研修を実施するとともに、フォローアップ体制を構築する。

### 【方針に対する進捗】

- ① 終末期の対応⇒2023年度看取り利用者様4名
- ② 新しい技術の活用⇒見守りセンサー60床稼働、インカムを活用し生産性向上した。
- ③ ガルテン、ドルフで相互協力し、ユニットケアについての研修を始めた。

### 【実績】

特養入所	年間目標：18,300床
ショートステイ	年間目標：3,660床
	年間実績：17,315床
	年間実績：4,006床
	達成率：94.6%
	達成率：109.4%
特養・ショート合計	年間目標：21,960床
	年間実績：21,321床
	達成率：97.1%

### 【トピックス】

当施設では、2023年度は技能実習生が3名、勉強に来てくださっています。ベトナム1名、モンゴル2名の内訳となっています。そのうちベトナムの実習生は、特定技能生として日本で、もうしばらく働いてくださるのが決まっており、私たちも実習生に、少しでもこの施設にきて良かった、と思ってもらえるよう、これからも色々なイベントを企画し、良いチーム作りができるよう、頑張っていければと考えています。

## 7. 部門別実績報告 博友会 御前山デイサービスセンター

係長 森 達也

### 【概要】

2023年度はコロナ禍が明けたため、地域イベントの再開や様々なデイイベントの緩和がされました。しかしながら、感染対策は継続して行い感染症の発生や拡大防止に努めました。

### 【実績】

御前山デイサービスセンターでは、2023年度も昨年に引き続き「リハビリ機能強化型デイサービス」としての運営を行い、登録者約100名の方々の身体機能や生活機能の向上を行う事で、住み慣れた地域、在宅での生活を可能な限り長く続けて頂けるよう支援して参りました。また、「常陸大宮市 介護予防・日常生活支援総合事業」では、介護予防対象者の登録者約8名の方の介護予防を図り介護が必要にならない体づくりを目指し、これまでに蓄積したリハビリ機能強化型デイのノウハウを活かして常陸大宮市の介護予防事業運営への生きがいづくり・仕掛けづくり準備にも注力してまいりました。2023年度の部門目標は、10,657件で部門実績が、10,237件。達成率は、96.1%となっております。

### 【人材育成及び地域活動】

人材育成の部分では、資格取得者が1名おり、介護支援専門員資格の取得に成功しております。

地域活動では、第2層協議体の中で話の出ていた、「旧御前山中学校の活用方法の検討」に基づき、謎解きイベントを開催。「謎解き学園からの挑戦状」と題し、多くの家族連れが参加し大盛況にて終了しました。また、長倉七夕まつりでは、管理者である森が長倉七夕まつり協賛会の副会長に任命され、2023年4月より役員会に参加し企画より参画しました。ステージ上での企画も担当させていただき、伝統ある祭りの一役を担わせていただきました。引き続き、来年度も役員となる予定ですので、更なる地域貢献と地域交流を行い、開かれた施設を目指すとともに、地域課題を抽出し地域包括ケア拠点としての責務を果たしていきたいと考えております。

社会保障制度や社会情勢が変化しておりますので、正確な情報をいち早くキャッチし、適切な対策・情報を共有することで、ご利用者様・ご家族様・地域の皆様から選ばれるサービスと安心して暮らせる地域づくりを目標に今後も取り組んでまいります。

## 7. 部門別実績報告 博友会 ごぜんやまホームヘルプステーション

係長 皆川 あゆみ

### 【概要】

利用者が要介護・要支援状態となった場合でも、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴、排泄、食事、その他の日常生活上の介護を行うとともに緊急時対応等により安心した生活できるように日中・夜間を通じて援助を行う。事業の実施に当たっては、市町村、地域の保健・医療・福祉サービス、地域包括支援センター等との綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努める。

### 【2023年事業目標】

- (1) 多職種連携によるチームケアの構築
- (2) 多様なニーズに対応できる事業体制の継続
- (3) 職員の質の向上による利用者の獲得と統一されたサービスの提供

2023年度は、前記の目標を上げ少ない人員ながら、目標達成のため努めてまいりました。利用者が住み慣れた家で生活していくための、多職種によるチームケアが重要と考えてきました。高齢者の健康とQOLの向上、介護者の介護負担の軽減に寄与できることだけでなく、チームのメンバーと知識と技能の分かち合いを促進し、高齢者ケアに関わるメンバーの仕事を、より豊かで興味深いものにする、またそのことが継続的な効果を生み出していくことを行ってきました。利用者や家族が望まれた在宅での看取りも、医師も含めた多職種において実施することができました。

多様なニーズに対応できる事業体制の継続においては、利用者、利用者家族のニーズを正しく把握することが、適切なケアを提供する上で非常に重要と考え、コミュニケーションを欠かさず日々の会話や表情、行動などから、利用者の方が何を望んでいるのか、何に困っているのかを注意深く観察してきました。些細な変化も見逃さないように、耳を傾け、寄り添う姿勢でケアを行ってきました。

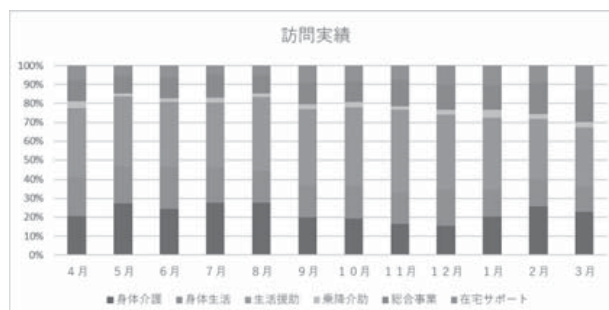
職員の質の向上による利用者の獲得と統一されたサービスの提供をするためには各種研修会や法人勉強会に積極的に参加し業務に対する知識、技能の向上に努めて参りました。おおみやホームヘルプステーションとの合同での勉強会は（利用者の個別に合わせたケア）はとても良い成果が上げられました。全員が同じケアが行えるステーションにしてい

きたいと思いながら、行ってきました。さらにICTの活用により情報共有による連携がさらに強化し、サービスの質の向上や、利用者様との信頼関係も深められました。

### 【2024年目標】

1. 「自立支援」に向けた視点を学び、援助提供に活かす
  - ・「見守り援助」の視点を学び、利用者様の状況を踏まえた自立支援や身体的機能の低下予防にどのようなつながっているのかを理解した上で、自立支援に向けた援助を提供する。
2. 関係機関との連携強化による在宅生活継続の維持
  - ・少しでも長く在宅生活を継続する為に、日常生活における健康面、精神面を安定させることや、小さな変化に気付き、関係機関へ情報提供し連携を強化していく。
3. 変化する利用者ニーズに対応する個別ケアの充実
  - ・「こまめなカンファレンスを行い、個々人に合わせた計画書を作成し、計画に沿ったサービスの提供に努める。

最後に、訪問介護は在宅介護の最前線に位置する重要なサービスであり、様々な生活スタイルで暮らす地域の高齢者に寄り添いながら、その人らしい生活を支えていくことに誇りを持ち業務に取り組んでいきたいと思っております。



## 7. 部門別実績報告 博友会 ごぜんやま訪問入浴サービスセンター

ごぜんやま訪問入浴サービスセンターでは、常陸大宮市を中心に在宅で生活される方に対し健康促進、清潔保持を目的とし安心して在宅生活が送れるよう支援して参りました。訪問時にはご利用者様お一人おひとりの身体状況確認を行い入浴支援、医療処置が必要な方には処置等の対応を行っております。また訪問入浴サービス提供にあたり地域の介護支援専門員や医療機関など関係機関との連携を強化し、『住み慣れた自宅で過ごしたい』と、ご本人様やご家族様の強いご希望であるターミナルケアのひとつとして『体のケア』だけでなく精神的負担の軽減が少しでも図れるよう『心のケア』も重視したサービスを提供して参りました。

市町村名	件数
常陸大宮市	850 件
城里町	249 件
水戸市	12 件
大子町	14 件
那須烏山市	155 件
那珂川町	63 件
合計	1,343 件

2023 年度の訪問利用者件数は 1,343 件で、目標達成比率は 95.9% という結果となりました。今後も 2023 年度以上にエリアを配慮した予定の管理を徹底し、ニーズのあるご利用者様の受入れを行って参ります。また、ご利用者様の介護度をみてみると、要介護 4、要介護 5 が 70% 近くになっており在宅生活者にとって訪問入浴の役割は重要な位置を占めています。(資料 1)

また地域別でみてみると県内は常陸大宮市を中心に、城里町、大子町、水戸市、栃木県は那須烏山市、那珂川町までとサービスエリアを展開し、地域別訪問予定調整を行い、効率よくサービスを提供出来るように努めてきました。(資料 2)

引き続きお一人おひとりにあった介護サービスを提供し、介護者される方の身体的・精神的負担の軽減が図れるように、また、身体の清潔保持、心身機能及び QOL の維持・向上を図るためにも、介護技術と質の向上を図ることにより、選ばれる事業所となるよう日々の業務に取り組んで参ります。

また今後も介護支援専門員を中心とした他職種間との連携を図り、ご利用者様やご家族様が引き続き

住み慣れた環境で安心して生活できるよう支援して参ります。

(資料 1) 要介護度別利用者数

介護度	件数
要介護 1	72 件
要介護 2	188 件
要介護 3	29 件
要介護 4	455 件
要介護 5	495 件
要支援	0 件
障害枠	104 件
合計	1,343 件

(資料 2) 地域別利用者数

市町村名	件数
常陸大宮市	850 件
城里町	249 件
水戸市	12 件
大子町	14 件
那須烏山市	155 件
那珂川町	63 件
合計	1,343 件

## 7. 部門別実績報告 博友会 在宅介護支援センターごぜんやま

係長 佐藤 信也



運動教室あつまーれー  
(長倉地区)



(上伊勢畑地区)



オレンジカフェごぜんやま



ひたまる先生の講師派遣  
(茶道教室)

### 【概要】

在宅介護支援センターごぜんやまは、常陸大宮市より委託を受けて、高齢者福祉の相談、介護予防事業を実施しています。担当地域は旧御前山中学校区です。

### 【業務内容】

- (1) 一般介護予防事業及び高齢者福祉事業
  - ① 介護予防把握事業(高齢者の実態を把握し、介護予防活動等へつなげる)
  - ② 介護予防普及啓発事業(リーフレット配布等)
  - ③ 地域介護予防活動支援事業(介護予防教「運動教室あつまーれー」開催支援、地域サロンの立ち上げ、開催支援)
  - ④ 緊急通報システム事業
  - ⑤ 高齢者見守り安否確認事業
- (2) 包括的支援事業
  - ① 総合相談
  - ② 緊急通報システム管理
  - ③ 申請代行手続き
  - ④ 生活支援体制整備事業(協議体活動への参加、情報交換)
- (3) 高齢者等世帯ごみ出し実態調査事業

### 【目標】

- ・市の委託事業契約に従い業務を遂行する
- ・地域の高齢者を含む対象者が安心して生活できるよう、行政や地域包括支援センター等の関係機関と協力し合い、包括的に支援を行う
- ・民生委員を含む地域住民と連携を図りながら、地域の相談窓口としての役割を果たす

### 【実績】

- ・介護予防把握事業(高齢者実態把握) 実人数 134名(延べ件数 152件)
- ・介護予防普及啓発事業(リーフレット配布等、普及啓発活動) 実施回数 13回
- ・介護予防普及啓発事業(脳トレプリント配布等、地域サロン支援) 実施回数 32回
- ・地域介護予防活動支援事業 地域サロン参加延べ人数 538名
- ・あつまーれー開催支援 2地域
- ・地域サロン開催支援 6地域
- ・高齢者見守り安否確認事業 実人数 99名(延べ件数 732件)
- ・総合相談 実件数 60件
- ・緊急通報システム管理 設置件数 61件
- ・申請代行手続き 実件数 27件
- ・生活支援体制整備事業(協議体への参加、広報誌配布) 実施回数 7回

### 【トピックス】

- ・緊急通報システム管理として、利用者宅を訪問した際に試験通報を実施し、正常に使用できることを確認しました。また、申請内容の確認を行い、台帳の更新をしました。
- ・地域介護予防活動支援事業では、介護予防教室あつまーれーの開催支援、地域サロンへの継続的な運営支援を行い、地域の通いの場づくりに努めました。
- ・認知症総合支援事業における認知症高齢者にやさしい地域づくりの一環として、認知症サポーター養成講座への協力やオレンジカフェの運営支援を行いました。

## 7. 部門別実績報告 博友会

### ごぜんやま総合ケアプランセンター

係長 佐藤 信也

#### 【居宅介護支援事業所とは】

在宅の要援護者が適切に介護サービスを利用できるよう、ケアマネージャー（介護支援専門員）が在籍し、要介護認定の申請のお手伝いや利用者（要支援、要介護認定者）の居宅サービス計画（ケアプラン）を利用者や家族の立場になって作成をお手伝いいたします。各相談手続は無料です。まずはご相談下さい。

#### 【ケアマネージャーの役割】

要支援、要介護認定を受けた方からの相談を受け、利用者様の心身の状況や置かれている環境に応じた居宅サービス計画（ケアプラン）を作成し、サービス事業者や関係機関との連絡調整等を取りまとめます。

#### 【ケアプランとは】

要支援、要介護に認定された方のご希望に沿った介護サービスを利用できるように、必要性和利用限度額や回数に基いて作成される介護サービスの計画です。自分でも作成できますが、依頼頂ければケアマネージャーが作成します。

#### 【サービスの流れ】

##### 1) 要介護認定

○介護保険を利用するために必要な認定です。申請のお手伝いをします。

##### 2) ニースの把握

要介護認定により介護度1～介護度5となった方を対象にケアマネージャーがご自宅を訪問し利用者様やご家族の状況、ご希望を把握いたします。

##### 3) ケアプランの作成

利用者様やご家族と相談しながらケアプランを作成します。

##### 4) サービス担当者会議

##### 5) サービス事業者との契約

利用者様は利用する各サービス事業者との契約が必要となります。

##### 6) サービス利用スタート

以下のような居宅サービスがご利用できます。  
訪問入浴、訪問介護、訪問看護、訪問リハビリ、通所介護（デイサービス）

通所リハビリテーション（デイケア）短期入所生活介護（ショートステイ）、福祉用具レンタルなど

#### 【今年度の事業実績と活動報告】

- ① 医療との連携強化
- ② ICTを活用したケアマネジメントの実践
- ③ 法人内サービスとの連携強化

#### 【実績】

新規利用者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
4	2	7	9	7	6	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2	4	4	4	5	2	56

年間実績

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
186	187	185	188	183	182	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
181	180	178	175	169	165	2,159

要介護度状況（年間総数）

総合事業	0	要支援1	72
要支援2	247	要介護1	772
要介護2	554	要介護3	217
要介護4	210	要介護5	87
合計	2,159		

#### 【活動報告】

- ① 医療と介護の連携強化に関しましては、入院先に対し速やかに情報提供書を作成し提出を行いました。
- ② スマートデバイスを活用し訪問後支援経過の入力実施して業務効率化を図る事ができました。
- ③ 法人内サービス連携に関しては居宅介護支援事業所で紹介率を毎月集計し、法人内大宮エリア事業所が情報共有し紹介率を増やすように努めてまいりました。
- ④ 研修に関してはオンライン研修へ積極的に参加し知識向上を図る事が出来ました。

## 7. 部門別実績報告 博友会 フロイデグループホーム桂

笹崎 圭太

2023年度のグループホーム桂は、開設20年目となり、地域住民の皆様や城里町行政、地域包括支援センター、関係各所の皆様のご協力を頂きながら、城里町唯一のグループホームとして運営して参りました。1年間安定した運営をできたのは、ひとえに地域の皆様のご理解とご助力のおかげであると思います。感謝申し上げます。

次に地域のニーズの把握として運営推進会議を開催し、城里町行政、地域包括支援センター、地域住民代表、ご家族様代表、小規模多機能ホーム城里と積極的に意見交換を予定しておりました。しかしながら、コロナの影響により緊急事態宣言の中、思うように開催実施できなかったのが現状です。

また、昨年同様に沢山小学校の運動会、11月に予定していた、しろさと町民まつりもコロナの影響により中止を余儀なくされてしまいました。事業所としてのイベントは毎月開催し、屋内での活動、も

しくは散歩など、外出の機会は減ってしまいました。2023年度も利用者様が楽しく喜んでいただけるようなイベントを計画・開催したいと考えております。

最後に地域における認知症介護の専門施設として役割を果たすために職員教育にも力を入れております。利用者様の緊急時備えるため特定行為従事者研修に2名が参加され資格取得。認知症実践者研修に1名参加資格取得しております。看取り介護についても、知識と役割りを学ぶため事業所内にて勉強会を開催しました。次年度は、看取り介護について体制構築と準備をすすめていきたいと考えております。実績としましては達成率98.3%となりました。来年度は目標達成できるように努力して参ります。

ご利用様がいつまでも住み慣れた地域で安心して暮らして頂くため、グループホーム桂全職員で認知症ケアの知識・技術の向上・質の向上を図っていきたくと考えております。

## 7. 部門別実績報告 博友会 フロイデ総合在宅サポートセンター美和

係長 森 達也

### 【概要】

フロイデ総合在宅サポートセンター美和は、2005年7月に開設し、日頃から地域の皆様に支えられながら無事19年目を迎えることができ、感謝しております。これからも鷺子地区において必要とされる施設そして地域の皆様に愛される施設を目指して今後も取り組んでいく所存であります。

### 【実績】

美和デイサービスセンターでは、令和5年度の目標として、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるようにをモットーに、ご利用者様一人一人のニーズに合わせたサービス内容を立案し、提供して参りました。職員の接遇、スキルアップに関しましては、法人主催の接遇研修への参加及び、部門内の疾患別勉強会などを他職種間で知識を共有し質の高いサービス提供に努めました。2023年度はコロナ禍が明けはしましたが、感染対策は継続して行うことで、クラスターの発生を未然に防ぐことができました。また、自立支援、自己決定能力の向上の為、様々なアクティビティー活動を提供し、地域の文化祭へ出展、成果を出し、道の駅北斗星には作品の展示販売を継続するなど、生きがい作りの一環として、ご利用者様の満足度に貢献致しました。今後も活動を継続し、発展させていく所存で御座います。

グループホーム美和では、地域密着型施設として地域住民の方や地域包括支援センター、常陸大宮市社会福祉協議会、居宅支援事業所との連携強化を図って参りました。運営推進会議も再開し、お互いの顔を見ながら施設運営について2か月に1回話し合っ

て参りました。地域の方々によるサポーター活動として施設外周の除草作業や、各地区における認知症に関する勉強会の開催など地域との交流の確立も図ってまいりました。また、グループホーム全国大会にも参加し、グループホーム美和で実施した事例を全国にて発表しております。

最後に、来年度は積極的に地域行事へ参加し、地域に開かれた施設を目指すとともに、安心して大切なご家族様を任せいただけるような施設を目指

し、地域に根差した施設運営をできるよう職員一同志していきたくと考えております。

## 7. 部門別実績報告 博友会 フロイデ総合在宅サポートセンター城里

宮田 匠



城里町認知症カフェ事業



地域住民向け健康教室

### 【概要】

2023年度フロイデ総合在宅サポートセンター城里は、『フロイデひたちなかメディカルプラザ早期立ち上げとISO取得に向けた質の確保』『フロイデケアタウンごとの全世代・全対象方地域包括ケアシステムの推進』『ダイバーシティ&インクルージョンへの実践』『介護福祉士学科学生募集』『トリプル改定に向けた準備』という部門方針のもと実践いたしました。

### 【取り組み】

地域包括ケアシステムの推進といたしましては、地域住民を対象とした「オレンジカフェ」（認知症カフェ）や「健康教室」「区でカフェ」の開催、地域高齢者クラブへの健康運動実践指導者派遣等を行い地域の方との関係構築に努めました。

人財育成・教育への取り組みとしまして、毎月の事業所内勉強会の他、各種研修会へ積極的に参加し専門職としての知識・技術の向上を図りました。

城里デイサービスセンターでは、感染予防対策の徹底により蔓延を未然に防止する対策を徹底し、発生を防ぐことが出来ております。サービス面においてリハビリ機能に特化し、理学療法士や健康運動実践指導者など専門スタッフを中心に、軽度者から中重度者まで、様々な運動をサービスに取り入れ、ご利用者様の在宅でのサポートに繋がる活動を行って参りました。年間利用者総数 10,332名（達成率 99.4%）の実績でした。

小規模多機能ホーム城里ではご利用者様の多彩なニーズに対応できるようご本人様だけではなくご家族の皆様とも連携を図り、一人ひとりに合ったサービスの提供を行いました。地域の医療機関や城里町の地域包括支援センターなどへ広報活動を行い、小規模多機能の通い・泊まり・訪問の3つを組み合わ

せた在宅復帰・在宅支援サービスについて改めてご理解をいただき、新規ご利用者様の獲得に努めました。年間利用者総数は 10,474名（達成率 98.7%）の実績でした。

しろさと配食センターの年間配食数は、4,589件（達成率 114.2%）でした。今後もご利用者様一人ひとりの食事形態に合わせた食事を提供し、ご自宅でもいつでも安心して過ごしていただけるように、おいしく栄養満点の食事を届けていけるよう努めて参ります。

今年度も感染症予防対策を徹底し、安心してご利用していただける事業所作りと職場内環境の見直しを行い働きやすい事業所作りに努め、目標達成に向けて職員一丸となって取り組んで参ります。

## 7. 部門別実績報告 博友会

### 大宮フロイデドルフ

入所課長 藤田 章宏

大宮フロイデドルフは開設から12年目を迎え、新たな転機に向かう一年になったと感じます。最初に新型コロナウイルスが確認されてから3年が経過して施設においても折々に施設内でのクラスター感染・対策に追われてきました。そのつど、施設として対応し成長してきたと感じております。新型コロナウイルスが5類移行へとなることが発表される中で、ご利用者様の施設内での生活の在り方や、今後の生活環境の作り方などを考察し取り組み下準備となる1年だったと考えます。

まず第一に、ご利用者様の施設生活に対するご本人及びご家族様への理解に対する対応です。ご利用者様の施設の様子を理解頂くために、日頃のご様子をご家族様へ送る取り組みを実施、また年に一度のご利用者様の状態をご報告するご家族様との意見交換の機会としてご家族面談を実施しております。現在施設ではICT環境の拡充により、介護記録や見守りセンサーの導入により睡眠時の様子などがデータとして記録することが可能となりました。その内容を基に、ご家族様へご報告する機会を設けております。言葉だけではなく、実際の記録やデータを基にお伝えすることでより鮮明で分かりやすく説明できたことが効果と考えます。

次に、面会環境の改善です。施設においては入所することでご家族様と接する機会が以前よりも失われたことは新型コロナウイルスが発生してから課題となった点であると考えています。施設ではオンライン面会や窓越し面会など様々な場面と環境を検討して日々改善して参りました。「少しでも気持ちよく家族との時間を持って頂きたい」という施設としての想いの中で環境を整えております。ご家族様との時間を推奨する中で、ご家族様と受け入れ環境についてご相談をして理解を頂く中で、希望に合わせて送迎の体制等を整え外出支援の機会を積極的に提供しております。

年度考察として、年間を通して新型コロナウイルスの発生を抑止し、クラスター発生ゼロで終える事が出来たことは職員間は基より、ご利用者様及びご家族様の施設環境や取り組みに対するご理解の上での成果と考えます。

最後に、新年度より新型コロナウイルスの位置づけが新たな局面になり、より一層介護施設での対応が当たり前に求められていく環境となります。今回の対応の実績と経験及び知識を次年度の運営に役立

てていきたいと考えております。今後とも当施設の運営に地域の皆様からのご助力をお願い致します。

## 7. 部門別実績報告 博友会

### フロイデアシストハウス大宮

井坂 直人

#### 【概要】

フロイデアシストハウス大宮はサービス付き高齢者向け住宅で60歳以上の高齢者もしくは60歳以下で介護保険申請した方が入居することができるバリアフリーの賃貸住宅です。全20室で入居者様が安心して過ごすことができる住まいの環境提供、生きがい、楽しみをもち生活できるよう支援して参ります。また、他職種、関係機関との連携を強化し必要に応じた介護、福祉サービス等を円滑に利用できるよう支援、社会的孤独感の解消、心身機能向上を図り生活して頂けるよう努めて参ります。

#### 【部門目標】

- ① フロイデひたちなかメディカルプラザ早期立上げとISO取得に向けた質の担保
- ② フロイデアケアタウンごとの全世代・全対象型地域包括ケアシステムの推進
- ③ ダイバーシティ&インクルージョンへの実践
- ④ 介護福祉学科学生募集
- ⑤ トリプル改定に向けた準備

#### 【実績・活動報告】

2022年度は、上記の部門目標を掲げ活動して参りました。事業実績は目標（満室）を目標に稼働率100%でした。

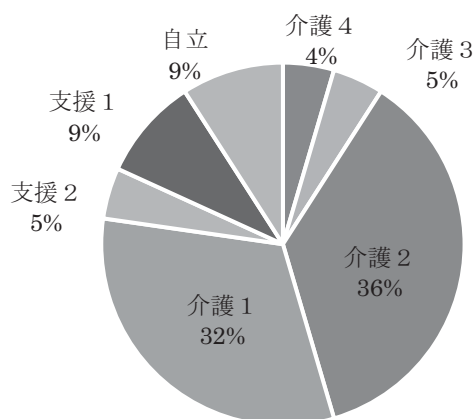
入居者様に関しては70歳代から100歳代と幅広い御年代、介護度別では自立から介護3の方が入居されております。（資料1）地域別では常陸大宮市内を中心に隣接市町村、県外からの入居者様が入居されており（資料2）、入居理由としては独居生活に不安がある方や病院などから退院の際、自宅での生活に不安のある方などでした。また、入居されている方の希望、状態に合わせたサービスの提案、関係機関との連携を強化し、介護保険サービスを利用することで安心して生活できるよう対応して参りました。また、在宅連携検討会議（月1回）による多職種と介護保険サービスの検討、提案に繋げて参りました。

その他、業務の見直し改善、人材育成としては年間教育計画をもとに計画的に事業所内研修会を行い、各職員のスキルアップを図って参りました。

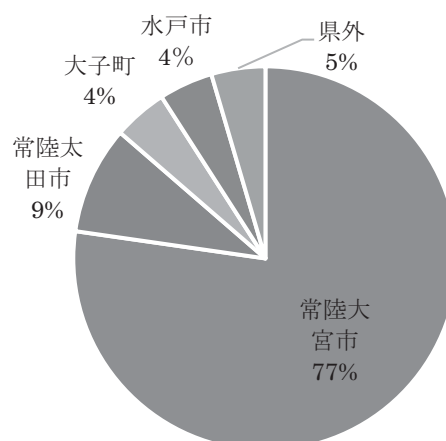
今後も入居者様が「安心」「快適」「楽しみをもって」生活が送れるよう関係機関との連携を強化しサービスの提供、支援して参ります。また個々に合わせた

サービスの提案、提供、職員の質の向上を図るとともに、より一層、地域との関りを大切にして地域との信頼関係の構築ができるよう努めて参ります。

資料1（介護度別）



資料2（入居前市町村別）



## 8. 各委員会活動報告 博仁会 接遇向上委員会

### 【活動報告】

SFG（志村フロイデグループ）全体活動として接遇向上委員会活動があります。

2021年度よりコロナウイルス感染対策もあり外部講師の直接リアルでの研修ができませんでしたが、今年度はハイブリット開催として行いました。コア6が中心で法人内の接遇インストラクターの養成や、サンクスカード委員会活動による職員へのサンクス表彰など、教育・環境・調査・広報・サンクスカード委員会が連携しながら活動を展開しています。

外部審査員の民生員の方にも参加していただいております環境美化コンクールも2回実施しました。ハード・ソフトの両面が重要と他部門による毎月の環境パトロールの継続実施をし、また、調査委員会では外部の患者様やご利用者様、また職員自身の自己チェックも兼ねたアンケートも継続して実施しています。

広報委員会は、毎月の教育委員会が考えた標語やロールプレイングを広報し、また接遇新聞には、各部署のマイスターの紹介や各部署でのロールプレイングの様子も掲載し、法人全体の取り組みを掲載しています。

『良いサービスは善い接遇から』の合言葉で接遇向上委員会活動を行なっています。

### 【教育委員】

#### 接遇向上大会開催

第46回 2023年5月6日

※コロナワクチン蔓延防止のため、各部署にて身だしなみのチェックシートを用いて実施

#### 接遇インストラクター養成講座

2023年年10月20日（火） 13～17時

会場：SC大宮 カフェ「エルマウ」

参加者：14名

#### 第47回 接遇全体研修

2024年年2月9日（金） 18:00～19:00

会場：SC大宮 カフェ「エルマウ」

※エルマウに全員は入れない為、現地又はZOOMを使用し各部署にてリモート参加。

講師：株式会社ライブリー 山下郁子先生

### 【広報委員】

#### 1. 接遇新聞発行

第29号（2023年6月1日）

第30号（2023年9月1日）

第31号（2023年12月1日）

第32号（2024年3月1日）

#### ① 私の部署の接遇マイスター担当部署

6月：一般病棟科 9月：人事課 12月：管理部 3月：水戸メディカルプラザ

#### ② 各部門の接遇ロールプレイの様子担当部署

6月発刊：ケアプランセンター 9月発刊：診療サービス課 12月発刊：療養病棟科 3月発刊：掲載なし

#### 2. 接遇標語ポスター作成担当部署

4月：地域医療連携センター

5月：フロイデドルフ

6月：栄養科

7月：療養病棟科

8月：リハビリ事業部

9月：博友会

10月：地域医療連携センター

11月：フロイデドルフ

12月：栄養科

1月：療養病棟科

2月：薬剤科

3月：博友会

#### 3. 接遇標語・ロールプレイ配信

No.248～260

### 【調査委員】

2023年7月 ご利用者様向けアンケート

2024年11月 職員向けアンケート

※接遇新聞 第31号 NO.1～3

### 【サンクスカード委員】

2023年度は601枚のサンクスカードが贈られており、いただいた枚数が多い方の表彰がありました。

※接遇新聞 第30号 NO.1

**第33回環境美化コンクール結果**

**最優秀賞：フロイデ総合在宅サポートセンター水戸河和田**



SC水戸河和田 管理者 山本 良さん

～事業所よりコメント～

玄関スペースにご利用者様と協働で「フラワースタンド」を製作し、来所されるご利用者様やお客様を気持ちよく迎え入れることができる環境を整備しました。

**優秀賞：フロイデ総合在宅サポートセンター友部**

～事業所よりコメント～

ご利用者様の意見を反映させて地域交流スペースを改善し、看護小規模多機能型居宅介護のご利用者様にもリハビリを提供できる環境を作りました。



**わたしの部署の接遇練習風景**

今月は「療養病棟 チロル館」



療養病棟「チロル館」では、毎朝朝礼を行なっています。医療療養に転科してからは申し送り時間短縮、業務スケジュール確認・周知時の時間を用いて、接遇意識向上の為、

ロールプレイング、身だしなみチェック、時には注意喚起等を行なっています。限られた時間での共有、意識づけとなりますが、職員一人一人が朝の挨拶から始まる「接遇意識向上」を目指して今後も取り組んで参ります。

**わたしの部署の接遇マイスター⑩**  
**医療法人 博仁会 管理部（老健事務）**



五位淵 さやか さん  
 (老健事務)

管理部の接遇マイスターは五位淵さやかさんです。模範となる接遇対応を行います。窓口対応の多い部署ですので、常に丁寧な言葉遣い・態度で対応し、ご利用者様及びご家族様より高い評価を受けております。接遇及び礼儀作法の良さは業務面においても信頼に繋がりが、他部署職員からも頼られる人材のため、管理部には欠かせない存在です。

**接遇インストラクター養成講座**



10月20日（金）全法人接遇インストラクター養成講座が開催され、各部署から14名参加した。養成講座は講義・ロールプレイング（グループワーク）、筆記試験、接遇対応実技試験の3部構成であり、参加者は緊張しながらも熱心に取り組んでいた。今回、新たに14名のインストラクターが誕生し、SFGの接遇向上に向けてリーダーシップが期待される。養成講座が終了ではなく、ここから実践の中で接遇力を磨きながら自他ともに接遇強化に向けて継続した取り組みを展開して欲しいことが接遇向上委員会からの願いである。

**職員身だしなみアンケート調査結果（行動範囲）**

No.	質問項目	集計	
		できた(人数)	できない(人数)
1	自分から率先してあいさつができていますか	994	22
2	笑顔で明るくあいさつしていますか。	959	57
3	人からの好意に対してお礼のあいさつができていますか。	997	19
4	人に迷惑をかけたとき、素直に謝っていますか。	1002	14
5	相手に聞こえるような発声で、あいさつしていますか。	977	39
6	相手の年齢や立場に合わせた言葉遣いに努めていますか。	960	56
7	命令や指示する様な言葉遣いはしていませんか。	949	67
8	感情的な話し方をしていませんか。	906	110
9	決められた接客、接遇言葉で話していますか。	937	79
10	言葉のもつ意味を理解し、相手に伝わる言い方をしていますか。	968	48
11	おもてなしの心で接客、接遇、応対していますか。	977	39
12	立ち方、歩き方、姿勢に注意を払っていますか。	905	111
13	職員行動規範を理解し、意識していますか。	946	70
14	勤務中は職務に専念し、私語は慎んでいますか。	893	123
15	人がいない、忙しいなどこちらの事情で接していませんか。	867	149
16	清潔感のある身だしなみで、接客接遇対応をしていますか。	986	30
17	他職種者とお互いの職務と専門性を認め合い、互いを尊重していますか。	991	25
18	チームの一員として自覚を持ち、自分の責任を果たしていますか。	985	31
19	人からの意見や忠告には謙虚に耳を傾けていますか。	993	23
20	話しは最後まで集中して聞いていますか。	983	33
21	部門や職種の垣根を越えて、協力関係を築いていますか。	964	52

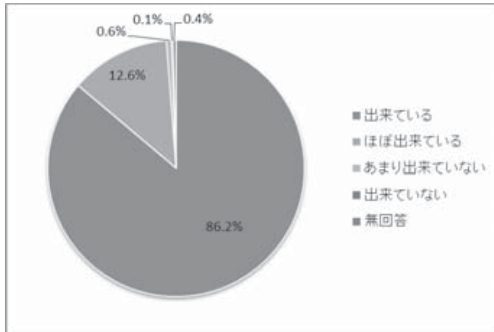
**【考察】**

- ・身だしなみにおいては全項目において「できた」割合が95%以上であった
- ・昨年度実施したアンケート結果よりも全体的に「できた」割合が増えている
- ・昨年度の患者、利用者様向けアンケート、職員向けアンケートでは身だしなみについてご意見をいくつか頂いており、自己チェックと他者からの評価において乖離している部分もある。今後のアンケートで傾向を見ていく必要がある
- ・行動範囲においては「できる」の割合が身だしなみに比べて低くなっている
- ・職員向けアンケートにおいても言葉遣い、話し方などの項目で「できない」の割合が高かったが同じ傾向である
- ・今後も言葉遣いや話し方は重点的に練習、指導していく必要がある

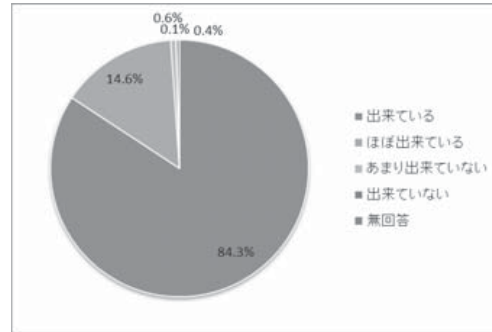


### 令和5年度利用者(家族)向け接遇アンケート調査結果

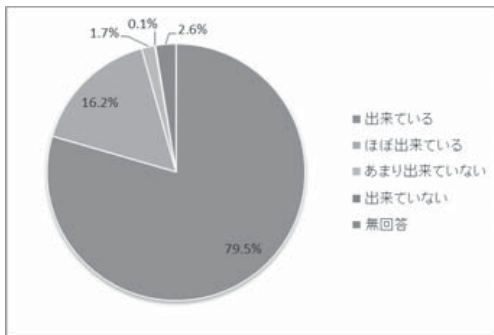
設問1.【礼儀】職員は笑顔であいさつをしていますか



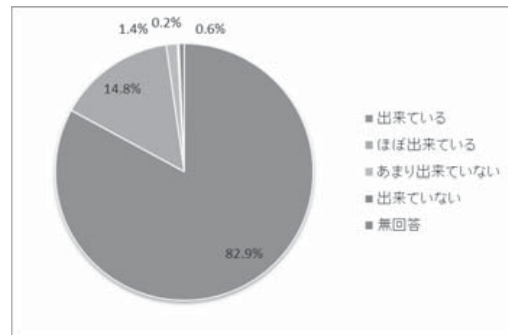
設問2.【対応】職員は適切・誠実・親切に対応していますか



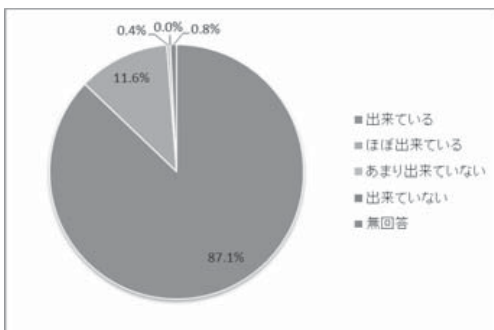
設問3.【気遣い】職員はお困りの際に積極的に声をかけたり、お手伝いをしていますか



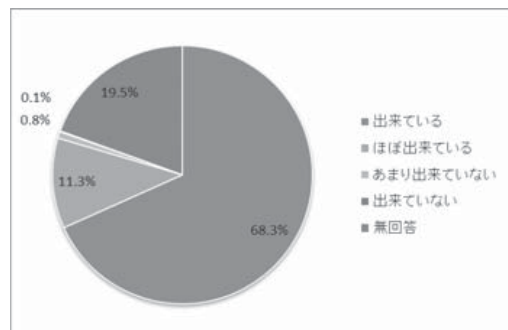
設問4.【言葉遣い】職員敬語を使い、聞き取りやすい丁寧な言葉づかいをしていますか



設問5.【整容】職員の身だしなみ(ユニフォーム・名札・靴・髪・におい等)は整っていますか



設問6. 施設内は整理整頓され、清潔に保たれていますか



#### 【分析・考察】

笑顔、あいさつ、言葉遣い、身だしなみでは出来ている、ほぼ出来ているが昨年度と同様に高い割合となっている。施設内の整理整頓では在宅サービス利用の方もおり無回答が多いが、出来ている、ほぼ出来ている割合は高い。設問3では他の設問に比べ出来ている、ほぼ出来ている割合が少ない。積極的にお困りではないかとの声掛けをしていく必要が法人全体である。昨年度に比べ全体的に出来ている、ほぼ出来ている割合が高くなっている。来年度は更に改善するように各部門で接遇改善に取り組んでいく。



## 接遇新聞

# Welcome

## 第30号 No.1

2023年9月1日  
発行：接遇向上委員会  
編集：広報委員

### 令和4年度サクスカード表彰

1位（39枚） 安藤 彩夏さん



2位（27枚）井坂美由紀さん	・3位（24枚）石崎仁子さん	・4位（19枚）鈴木真弓さん
5位（16枚）横山美恵子さん	・6位（12枚）根本昌子さん	・7位（9枚）大高香菜さん
8位（7枚）仲田竜一さん	・8位（7枚）石川和範さん	・8位（7枚）小口奈保美さん
8位（7枚）小堀佳代さん		

### わたしの部署の接遇練習風景

今月は「診療サービス課」



診療サービス課では朝に身だしなみのチェックを行い、昼食休憩後にロールプレイングを実施しております。受付窓口や電話対応は「病院の第一印象」に繋がりますので、課内職員の一人一人が患者様から信頼される地域密着型の病院として、接遇向上を目指しております。

### 今後の予定

- 環境美化コンクール 9月2日（土）  
対象部門：SC城里・SC水戸河和田・SC水戸けやき台・工房なか・ひたちなかMP・SC友部・水戸MP
- 中途採用職員向け接遇向上研修会（ZOOM） 9月22日（金）13時～16時40分  
会場：SC大宮・水戸MP・ひたちなか
- 接遇インストラクター養成講座 10月21日（土）

平成27年に接遇インストラクターを28名、更に令和3年には26名を選出し現在接遇向上委員会にて活躍しています。全法人の接遇向上の為、接遇インストラクターの増員を計り、より良い接遇を目指して参りたいと思います。つきましては接遇インストラクター不在の部署及び選出希望の部署は必要な人数の選出をお願いいたします。

### わたしの部署の接遇マイスター⑮

医療法人 博仁会 人事課



横山 俊輔さん

人事課の接遇マイスターは横山俊輔さんです。接遇面において模範的な対応を行います。誰に対しても丁寧な言葉遣いと態度で接し、職員及び外部の方から好評を得ております。接遇面の良さは業務において円滑なコミュニケーションに繋がり、他業種から転職して4年目ですが職員から頼られることが多く、人事課に欠かせない存在です。



接遇新聞

# Welcome

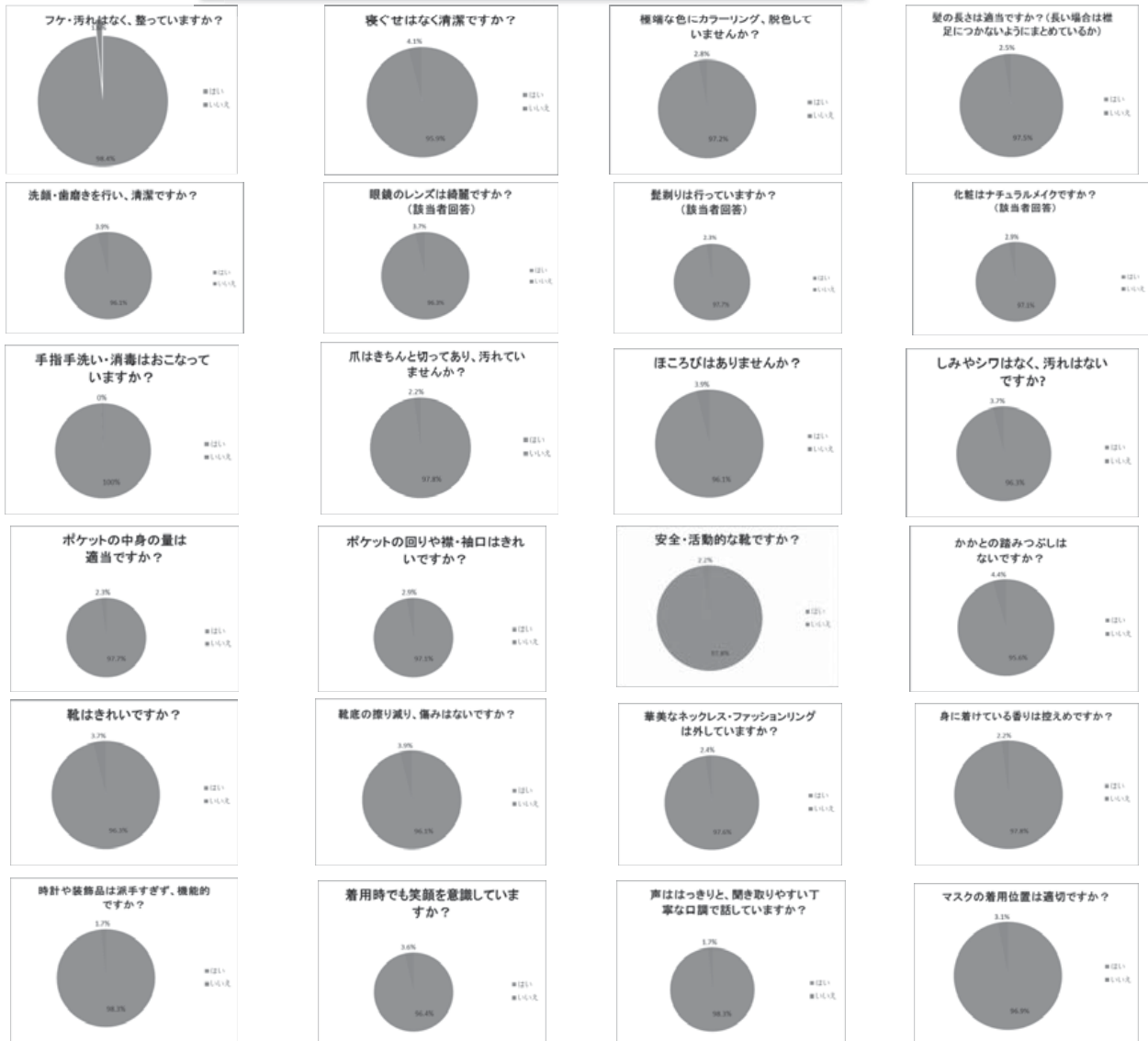
第30号 No.2

2023年9月1日

発行：接遇向上委員会

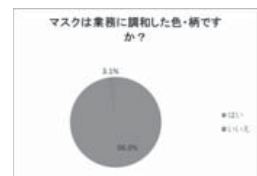
編集：広報委員

## 職員身だしなみアンケート調査結果



### 【考察】

- ・身だしなみにおいては全項目において「できた」割合が95%以上であった
- ・昨年度実施したアンケート結果よりも全体的に「できた」割合が増えている
- ・昨年度の患者、利用者様向けアンケート、職員向けアンケートでは身だしなみについてご意見をいくつか頂いており、自己チェックと他者からの評価において乖離している部分もある。今後のアンケートで傾向を見ていく必要がある
- ・行動範囲においては「できる」の割合が身だしなみに比べて低くなっている
- ・職員向けアンケートにおいても言葉遣い、話し方などの項目で「できない」の割合が高かったが同じ傾向である
- ・今後も言葉遣いや話し方は重点的に練習、指導していく必要がある



## 8. 各委員会活動報告 博仁会 医療介護安全推進委員会

### 【目的】

医療法人博仁会における医療事故を防止するための必要な啓発を図るとともに、医療事故が発生した場合の適切な対策を協議する。

### 【活動内容】

医療安全業務・相談  
医療介護安全管理推進会による研修会の企画と実施  
インシデント・アクシデント報告書の集計・評価・分析  
事故発生時の状況把握、対応  
事故後の改善策の検討・実施・評価  
各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための改善結果・効果を記録する  
医療安全活動実績の記録  
医療安全地域連携（医療安全ラウンド）

### 【委員会開催状況】

毎月1回 開催（12回 開催）  
4/14、5/9、6/16、7/10、8/8、9/5、10/10、  
11/7、12/12、1/15、2/14、3/11

医療安全地域連携 ラウンド・カンファレンス  
12月13日（常陸大宮済生会病院と連携）  
インシデント情報共有システムの活用  
センサーの種類、選択  
身体拘束 コメディカルのインシデント状況 医療安全体制  
ISO 外部審査 3月13日

### 医療安全ラウンド（5S活動）

各部署 5Sチェック表に基づき安全チェック  
施行

評価：医療安全ラウンドは、5Sチェック表に基づき、各部門・部署で実施、評価した。  
対応は直ちに、定期的かの判断。原因はインシデント・アクシデントになる前に対応していくことが大切である。リスクマネージャー、部門長は自分書の問題・課題について部内に働きかけを行う。「医療安全」は常に意識するのは難しい。

### 【インシデント・アクシデント報告状況】

年 間：854件（病院：475 施設：379）  
月平均：71件

- ・レベル0 1件
- ・レベル1 104件
- ・レベル2 596件
- ・レベル3 a 135件
- ・レベル3 b 12件（病院：5 施設：7）  
（内訳：骨折4 針刺し3 離設3 熱傷1 裂傷1）
- ・レベル4 6件（病院：0 施設：6）  
（内訳：骨折4 脳挫傷1 離設1）
- ・レベル5 0件
- ・レベル6 0件

年間活動評価：インシデントまたはインシデントの前の気づきが大切。

インシデント/アクシデント報告書より転倒による骨折が主、昨年度よりレベル・内容に大きな変化はない。環境設定とタイムリーな対応が必要である。  
本人、家族への適切な対応を引き続き心がけていく。

### 【医療介護安全推進大会実績】

- ・オンライン/USBによる研修案内
- ・学研e-ラーニング  
（全職員対象）10・16～11・15
- コード CJ2303 医療ガスの安全管理と事故防止策
- コード CA2304 患者参加で実現する医療安全～医療対話推進者の視点～

（医療放射線安全）（博仁会 診療部・看護部・画像検査職員対象）11・16～12・15

- コード CJ2355 放射線従事者に対する診療用放射線における安全管理

- ・医療安全研修案内情報提供（個人希望参加）  
主なもの 日本医療機能評価機構より
- ・検査・処置・手術安全セミナー
- ・施設・環境・設備安全セミナー
- ・患者安全推進地域フォーラム
- ・新人・新入職員研修（新入職員40名対象）  
3・23当法人の取り組み 緊急コール  
KYT（グループワーク）

## 8. 各委員会活動報告 博仁会 感染対策委員会

感染対策委員 専任講師 小倉 十三子

### 【感染対策委員会の活動】

1. 月1回の委員会の開催
2. 年2回以上の全職員を対象とする講習会の開催による職員の啓蒙
3. 毎月、院内の病原菌分離状況と染状況の報告
4. アウトブレイク時の迅速な対応
5. 院内の感染症発症状況の情報共有
6. 職員の安全管理と職業感染対策
7. 感染対策に関する講習会・研究会への参加
8. ICTメンバーによる病棟ラウンドとミーティング
9. 経済性にも配慮した感染防止のため、機器、物品、薬品等の変更
10. 新型コロナウイルス感染症の病院対策本部と合同ミーティング参加
11. 各施設感染ラウンド実施と報告

### 【感染対策委員会目標】

- ① 感染拡大防止、新型コロナウイルス感染症のクラスターを発生させない
- ② 手洗いと手指消毒回数を増やす
- ③ 定期的なマニュアルの見直し（結核マニュアルの見直し）

### 【取り組み事項・活動】

・4月、5月全職員の手洗いチェック実施と、个人防护具着脱チェックをおこない職員間の周知を実施する。5月8日以降のコロナウイルス感染症の対応マニュアルと針刺し事故マニュアル改訂。4月手洗い245名、5月个人防护具着脱チェック191名。

感染対策委員会規定と院内感染対策指針見直し。病院機能評価機構審査。

「感染小委員会」の名称を「感染作業部会」と改める。委員会名簿と組織図作成。

新型コロナウイルス感染症の病院感染本部とICT合同ミーティングは終了する。

・6月、7月はコロナ感染症が2類から5類感染症変更に伴い、病棟の面会時間を一部変更しました。血流感染視点から中心静脈カテーテル消毒剤を変更する。

「COVID-19 診療の現状と今後の展望」WEB研修参加

・9月は新型コロナウイルス感染症5類移行後の予約面会を解除とし、平常時の面会方法に変更する。

・10月は水戸医療センター感染管理認定看護師病院訪問。院内ラウンド状況報告。

感染対策定期研修会、計4回に分けて「コロナウイルスの構造と変異の推移、インフルエンザウイルス

の構造」オンライン講演、参加人数 337名

研修「改訂感染対策法」オンライン参加

・11月は感染管理認定看護師ラウンドの改善報告（一般病棟と回復期リハビリ病棟）

第2回感染症診療における早期対応に関するWEB研修参加

・12月4日に保健所病院立ち入り検査対応。

・2月 結核感染対策マニュアル改訂

・その他、

各病棟月々手指衛生回数 の平均値報告

毎月薬剤耐性菌検出報告・一般病棟抗菌薬使用報告

年4回水戸医療センターと地域感染制御ネットワークカンファレンス WEBにて参加

毎週土曜日病院内感染ラウンド実施

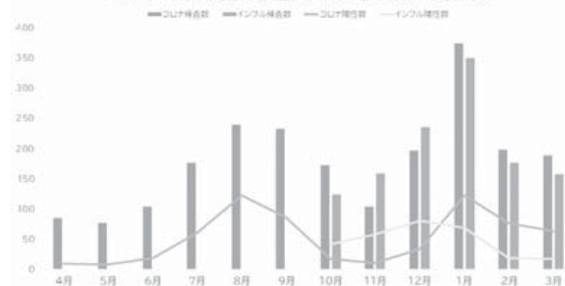
SFG 感染ラウンド実施（大宮エリアと水戸エリア）

毎週の火曜日 ICT ミーティング



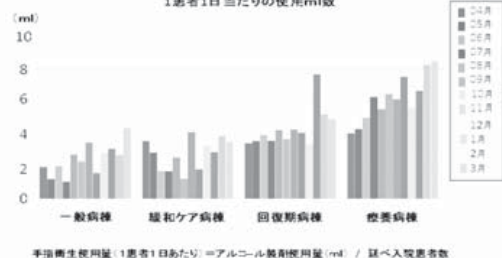
水戸医療センター感染管理認定看護師と大久保看護師

2023年度 発熱・検査外来の患者数と陽性数



手指衛生使用量

2023.4月～2024.3月  
1患者1日当たりの使用ml数



## 8. 各委員会活動報告 博仁会 褥瘡対策委員会

### 【委員会紹介】

疾患の治療や療養の過程で低栄養状態である方、脳血管疾患や廃用の進行により自力での体位変換ができない状態の方、終末期の高齢者や長期間寝たきりの方。これらの方の皮膚は脆弱な状態になりやすく、わずかな圧迫やずれ等の刺激でも容易に褥瘡を発生し、更には悪化することがあります。

当院の褥瘡対策委員会では、各病棟の事例をもとに効果的な褥瘡の発生予防や早期治癒のため対策を検討したり、勉強会により褥瘡対策ケアの質の向上を図る等、ご利用者様に安心して治療・療養をしていただくために活動しています。

### 【活動目的】

- (1) 事前の予防により、患者様、ご利用者様が日常生活においてよりよい生活をお送りできる。
- (2) 褥瘡の早期発見、早期対応に努め、患者様が本来の疾患の治療に専念できる。

以上の2点における対策を検討し、さまざまな視点から討議しています。

### 【委員会目標】

- ・褥瘡予防に対する知識と他職種共同によるケアの質を向上させ、褥瘡発生0件を目指す。
- ・DESIN-R 2020による褥瘡評価を定着させる。

### 【年間活動】

- 4月 各部署前年度の反省、令和5年度の目標 症例報告（ドイツ・スイス・チロル・ガルテン）
- 5月 症例報告（ドイツ・チロル・緩和ケア・訪問看護）
- 6月 症例報告（ドイツ・チロル・緩和ケア・訪問看護）
- 7月 症例報告（ドイツ・チロル・訪問看護） 勉強会報告（チロル・緩和ケア）
- 8月 症例報告（ドイツ・チロル・緩和ケア・フロイデ・ガルテン） 勉強会報告（ガルテン・ドルフ、ケアプランセンター）
- 9月 症例報告（ドイツ・チロル・緩和ケア・スイス・フロイデ・訪問看護） 勉強会報告（フロイデ入所・サポートセンター山方）
- 10月 症例報告（ドイツ・チロル・スイス・訪問看護） 勉強会報告（リハビリ科・フロイデ入所）
- 11月 症例報告（ドイツ・チロル・訪問看護） 勉強

会報告（チロル・栄養科）

- 12月 症例報告（ドイツ・チロル） 勉強会報告（薬剤科・外来）
- 1月 症例報告（ドイツ・チロル・訪問看護） 勉強会報告（スイス・訪問看護）
- 2月 症例報告（ドイツ・チロル・訪問看護）
- 3月 症例報告（ドイツ・チロル・訪問看護） 来年度の目標

### 【内容】

褥瘡の基礎知識習得や写真による比較、DESIGN-Rによる評価を定着させるために、2023年度も前年に引き続き毎月の症例検討と勉強会を行いました。

また、全体研修としてeラーニングを使用し「褥瘡ケアの「いろは」～予防・発見・悪化防止の3ステップ」、「創傷管理の基本とドレッシング材・外用薬使用のコツ」、「いまさら聞けない褥瘡の適切なアセスメントに必要な知識」の教材を使い各自学習して頂きました。褥瘡の予防、ケアは介護士から医師、看護師他、多職種での情報交換を行うことが必要となってきます。褥瘡に対しては各部署とも同じようなリスクを抱えています。毎月、委員会の際に報告される症例に対しては委員全員で効果的な対策を検討するという事で、今後に活かせるようにしてきました。褥瘡対策委員会では、医師、看護師はもちろん、栄養科、リハビリ科、薬剤師等による、それぞれの観点から意見交換を行い、患者様に向き合って褥瘡の改善に努めていきます。

### 【まとめ】

当委員会では、西村医師をはじめとした博仁会・博友会の各職種のスタッフが「褥瘡」という課題に取り組むことで、スキルアップに努めています。当院の褥瘡の発生数は減少していますが、低栄養状態の高齢者や終末期の方の入院、入所前からの重症な褥瘡症例の報告は増えています。様々な視点から褥瘡対策を考えることで治癒に繋げていくことも重要ですが、安楽な体位の検討等、QOLの維持向上を考慮していくことも今後の課題となります。私たちは、褥瘡状態のみでケアを検討するのではなく、患者様の全身状態とニーズから導き出したケアが提供できる病院を目指していきたく思います。

## 8. 各委員会活動報告 博友会 感染・褥瘡予防委員会

感染予防委員会は1)施設内の感染予防に努める。2)各部署に、常に必要な情報を提供し感染症発生時に的確な対応が出来るようにする。3)日常生活の上で感染症が発生しない環境を整え、職員の理解を深める。という目標を掲げ、利用者を守るため施設に感染症を持ち込まない事を基本に、全職員で感染予防に努めております。

### < 具体的活動内容 >

職員に対する感染症の予防指導（年2回感染症についての勉強会実施）

施設内で発生しやすい感染症の予防策や注意点を各部署に対して日常的に指導する。

医療法人博仁会の院内感染対策委員会と情報を共有し、施設に必要な情報を分かりやすく各部署に伝達し、感染予防に役立てる。

メディアによる全国的な情報や地域、他施設で発生した感染症などの情報提供を速やかに朝礼で行なう。

インフルエンザ・新型コロナウイルスに対する予防接種の完全実施。

### < 年間活動内容 >

- 4月～5月：新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、年間を通じて感染対策実施強化
- 5月：全職員対象に各部門で手洗い手技の実施
- 6月：感染予防「食中毒について」資料を配布し、全職員対象に各部署での勉強会実施  
新型コロナウイルス感染症の高齢者施設における感染対策について5類に移行後の感染対策（2023年5月8日～の対応）リモート研修開催
- 8月～10月：ガウンテクニックについて各部署にポスター配布（手洗い・防護具の着脱指導は継続実施）
- 7月～10月：ゾーニングの確認、各事業所毎に新型コロナウイルス感染者発生時のシュミレーション実施
- 10月～12月：入所者・職員のインフルエンザ予防接種実施
- 1月～3月：新型コロナウイルス予防接種実施（入所利用者・職員）未接種者については、その都度病院と連携し実施

※新型コロナウイルス感染症、感染状況に応じて面会の一時中断・面会緩和を行った

褥瘡予防委員会 博仁会褥瘡予防委員会資料を褥瘡予防委員会にて配布、勉強会実施

### 【全体の活動評価】

私達のサービスの対象者のほとんどが高齢者であることから、集団感染に対する予防策を講じることは重要な課題です。高齢者施設の職員自身が媒体者にならないよう、年間計画に基づき職員の知識向上を図り研修会や勉強会を実施した。2023年度も感染予防に対する職員教育に力を入れました。年間を通して感染対策予防の成果があり結果として、今年度博友会全体でインフルエンザやノロウイルス等の発症はありませんでした。

新型コロナウイルス感染症に関しては流行により各事業所にて感染はありましたが、マニュアルに基づいて早急な対応をした結果、大規模なクラスターを防ぐことが出来ました。

今後更に活動を強化し職員一人ひとりが感染予防を意識した対応が出来るよう意識を高め継続的な啓発活動を推進し、又高齢者のケアについても、全てにおいて初期対応が重要であり、いち早く状態の変化に気づけるよう日々の関わりを大切にしていきたい。

## 8. 各委員会活動報告 博友会 地域広報委員会

2023年度は、コロナ禍も明け少しずつではありますが、地域行事など増えて参りました。しかし、まだまだコロナ禍前と同様とはいかないため、各事業所が工夫したうえで専門職の派遣や、地域住民へのリハビリ体操のDVD配布等出来る事を実施して参りました。また、今年度御前山地区では、ミニ産直市を御前山ダム公園ではなく、御前山フロイデガルテンにて開催しました。御前山地区の農家や近隣の商店の方に出店していただき地産地消の促しができておりました。また、第二層協議体で検討されていた「旧御前山中学校の活用」において、謎解きゲームを開催し旧校舎を使用することにより、良い活用ができたと考えます。

今後も、地域ニーズの収集を行う事で各事業所が地域包括ケア拠点として、地域住民の生活を支えられる事業所を目指し、取り組んで参ります。

### 活動内容（一部抜粋）

	内容	内容
御前山フロイデガルテン	ミニ産直市開催 ごぜんやままつり 2023 参画	長倉七夕まつり参画 旧御前山中学校 謎解きゲーム
大宮フロイデドルフ	大宮フロイデドルフ秋祭り 開催	家族会開催
グループホーム桂	しろさと町民まつり	家族会開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター美和	北斗星への女子クラブ 作品展示・販売	クデカフェ開催 氷之沢・高部地区
フロイデ総合在宅 サポートセンター城里	しろさと町民まつり	オレンジカフェ開催 健康教室開催
フロイデ総合在宅 サポートセンター友部	シルバーリハビリ体操教室開催	オレンジカフェ開催 元気すこやか教室開催
フロイデアシスト ハウス大宮	敬老会開催	常陸大宮市 市民運動会

## 8. 各委員会活動報告 博友会 食事委員会

### 【活動内容】

4月	年間計画の作成	10月	おやつアンケート実施
5月	デイリクエスト献立調査・集計	11月	入所リクエスト献立調査・集計
6月	デイリクエスト献立実施	12月	入所リクエスト献立の実施
7月	入所部門嗜好調査の検討・アンケート作成	1月	在宅部門嗜好調査の検討・アンケート作成
8月	入所部門嗜好調査の実施・集計・分析	2月	在宅部門嗜好調査の実施・集計・分析
9月	入所部門嗜好調査結果公示・配布	3月	在宅部門嗜好調査結果公示・配布

\* 毎回：喫食状況の把握

### 【入所部門嗜好調査】 \*実施日 2023年8月17日～8月23日

\* 配布 110枚 回収 110枚 回収率 100%

\* 対象 御前山フロイデガルテン入所者・大宮フロイデドルフ入所者桂GH・サポートセンター美和GH

\* 考察 各事業所によって、ご利用者様の食事内容、嚥下機能が異なるため、それぞれの施設にあった食事を提供していかなければならない。嗜好調査を実施することで、その施設での問題点は何かを把握することができ、改善につなげることができた。

### 【在宅部門嗜好調査】 \*実施日 2024年2月11日～2月25日

\* 配布 408枚 回収 375枚 回収率 91.9%

\* 対象 御前山ガルテンデイサービス・サポートセンター美和デイサービス・サポートセンター城里デイサービス・サポートセンター友部・御前山配食サービスセンター・城里配食サービスセンター・小規模多機能城里・アシストハウス友部・看護小規模多機能友部

\* 考察 味、見た目などそれぞれの部分で不満もあるが、全体的には満足してくれている結果になった。個人個人嗜好が異なるため、全員が満足できる食事にするのは難しいのかもしれないが個別対応により、より多くのご利用者様に満足してもらえる食事を提供していけるよう努めていく。

### 【全体の評価】

食事の献立は、どこの施設でも統一となっているが、対象者はそれぞれの施設で異なっている。

自分の施設の結果だけではなく、ほかの施設の意見も参考にしながら、それぞれの施設と連携をとり、栄養SG全体でよりよい食事を提供していけるよう協力し合い食事を提供していく。

## 8. 各委員会活動報告 博友会 リスクマネジメント委員会

### 【ヒヤリハット件数】

レベル	合計	前年合計	増減数
レベル0	157	317	-160
レベル1	137	92	45
レベル2	99	68	31
	393	477	-84

### 【事故報告件数】

レベル	合計	前年合計	増減数
レベル3a	1	6	-5
レベル3b	3	0	3
レベル4	5	9	-4
レベル5	2	0	2
レベル6	0	3	-3
	11	18	-7

### 【評価】

全体のヒヤリハット提出件数は393件、事故報告11件であった。前年度よりヒヤリハットの提出件数が減少、事故報告書の件数が減少した。

ヒヤリハット提出件数の減少についてはレベル0が大いに減少したが、レベル1、2が増えていることから小さいリスクの把握がされずに利用者様に影響が出ていることが示唆された。しかし事故件数は減少していることから、利用者様に大きな影響を及ぼす事例に関しては結果的には回避できたといえるため、全体としてはリスクコントロールの質はやや向上したと評価できる。利用者の高齢化と現場職員の人員不足による疲弊は課題として残り続けるため、更なるヒヤリハット、事故報告の効率化が必要である。委員会の存在感を示す活動を今後も継続し、啓発活動に努める必要がある。

### 【次年度対策】

ヒヤリハットの書式変更を行い、現場職員の負担軽減と提出率向上を図る。引き続き、各部門のリスクマネジメント意識の向上を図っていく。

## 8. 各委員会活動報告 博友会 防災管理委員会

### 【委員会活動】

6月	2022年度委員会活動について (委員長・副委員長選任)	1月	職員緊急連絡通報訓練
11月	地震想定における避難訓練	3月	夜間想定避難訓練の実施
11月	発電機使用説明	3月	発電機使用説明

### 【消防訓練活動】

施設	上期	下期
御前山フロイデガルテン	2023年09月29日	2024年03月15日
	火災避難訓練・消防用設備説明	火災避難訓練・消防用設備説明
グループホーム桂	上期未実施	2024年03月15日
サポートセンター美和	上期未実施	2023年03月13日 2024年03月14日
サポートセンター城里	2023年07月25日	2024年03月27日
サポートセンター友部 アシストハウス 友部	2023年08月10日	2024年02月06日
大宮フロイデドルフ	2023年06月29日	2024年03月15日
アシストハウス大宮	下期実施	2024年01月17日 2024年03月15日

### 【教育活動】

実施日	内容
2023 上期	各拠点で避難訓練時、防災設備に関する説明実施
2024 下期	各拠点で避難訓練時、防災設備に関する説明実施

### 【その他】

実施日	内容	実施日	内容
2023年06月	日常自主点検チェック	2023年12月	備蓄に関する確認、
2023年06月	ポスター掲示	2023年12月	ポスター掲示
2023年08月	発電機自主点検	2023年12月	日常自主点検チェック
2023年09月	日常自主点検チェック	2024年02月	ポスター掲示
2023年10月	ポスター掲示	2024年03月	発電機自主点検

防火管理者の新たな資格取得者はなし。

- ・コロナウイルスに伴い密を避けるよう避難訓練計画書を各拠点作成し実施しています。
- ・避難訓練のマニュアルや手順を見直し災害時の対応が速やかに行えるよう努めました。
- ・緊急連絡網の見直しを行い、通報訓練を実施しています災害時速やかに連絡が出来るよう実施しました。
- ・地震や豪雨などの災害発生によるサービス停止は、利用者の生命の危険や機能低下をもたらす恐れがあるため、災害時であっても命にかかわる最低限のサービスについては継続していく必要があります。事業継続計画（BCP）を作成し災害時の対応を具体化するように計画を作成し見直しを実施する。

## 8. 各委員会活動報告 博友会 車両安全管理委員会

### 【交通安全啓蒙活動】

#### ① ポスター制作・アルコールチェックの実施

対象：博友会全部門

期間：2023年4月～2024年3月

内容：毎月、交通安全の標語を掲げた交通安全啓蒙ポスターを作成。各部門へメールで配布し、目のつきやすい場所に掲示してもらうことで職員に交通安全やマナーに対する意識の向上を働きかけました。

評価：交通安全啓蒙ポスターを作成・掲示することで、日々行っている運転業務における「安全・マナー」に対する意識の向上や、アルコールチェックの実施について全部門への周知徹底を図りました。今後も啓蒙活動を継続し、交通事故0を目指してまいります。

#### ② 事故分析

期間：2023年4月～2024年3月（月1回の委員会開催時に検証）

内容：2023年度の事故報告総数は21件（前年比+3件）自損事故17件、物損事故4件、人身事故は御座いませんでした。

評価：検証の結果、14件の事故が事前に確認や注意を払う事で防止する事が出来た事故であり、再発防止策の徹底や、事業所・法人内での危険個所などの共有出来ていない事例が御座いました。法人車両を運行する者は必ず運行者のマグネットの装着を行う事を周知徹底し、交通法規の遵守及び交通運転、マナー向上を継続し、より一層の交通事故防止の啓発活動に注力して参ります。

### 事業所別事故報告数

事業所名	保有台数	事故報告件数	事故率
御前山フロイデガルテン	1台	1件	0
御前山デイ・配食	11台	6件	54%/台
フロイデグループホーム桂	1台	0件	0
大宮フロイデドルフ	2台	0件	0
就労支援（ロッチェ那珂含）	15台	1件	25%/台
サポートセンター城里	9台	3件	33%/台
サポートセンター美和	8台	2件	22%/台
サポートセンター友部	12台	4件	33%/台
訪問介護	3台	4件	133%/台
介護支援G・訪問入浴	4台	0件	0/台



## ■ 第二部 ■



# 1. 学術活動

## (1) 理事長執筆取材講演実績

### ○ 執筆・インタビュー

- 1 進言 超高齢社会を支える医療提供体制を目指して  
厚生福祉 2023年4月11日 第6805号 頁9
- 2 特集 急増する高齢者救急—医療提供体制の見直しと自院の役割  
超高齢社会における在宅療養支援病院の必要性  
地域密着型中小病院として高齢者救急を含めた病院機能の確立を目指す  
病院 2023年6月1日 第82巻 第6号 頁518～523
- 3 特別寄稿 日本医師会常任理事としての八年間を振り返って  
尚仁会誌 令和4年度 第七十五号 頁55～59
- 4 会員近況 実家に戻ってからの三〇年を振り返って  
尚仁会誌 令和4年度 第七十五号 頁98
- 5 老健施設特別対談  
併設型老健の柔軟性を最大限に活かす  
～病院を中心としたまちづくりと、それを支える老健の力～  
Visionと戦略 2023年5月20日発行 第20巻6号 頁48～51
- 6 INTERVIEW かかりつけ医機能のこれまでとかれから  
機関誌JAHMC 2023June/vol.34NO.6 頁1～4
- 7 巻頭言 ポスト2025年にむけた医療提供体制改革の必要性  
日本医療法人協会ニュース June468 頁1
- 8 Interview 中小病院は地域と運命共同体まちづくりへの参画が不可欠に  
月刊 医療経営士 2023/Sep 通巻110号 頁14～17
- 9 インタビュー 地域包括ケアシステムの中で病院が取り組む在宅医療とは  
地域共生社会の実現を目指して日本在宅療養支援病院連絡協議会発足  
病院経営羅針盤 第14巻 第240号 2023年9月15日 頁4～8
- 10 特集 医療法人の徹底活用  
まちづくりへの参画が求められる医療法人  
新たなソーシャルビジネスの担い手へ  
病院 第82巻 第11号 2023年11月1日発行 頁963～971
- 11 第71回 日本理学療法学会 市民公開講座  
これからの医療と介護予防について—2025年問題・2040年問題を考える—  
理療 Vol.53 No.2 通巻206号 頁17～37

- 12 特集企画 2024年制度・報酬改定への対応を団体トップに聞く  
24年度は「大きな節目の年」物価高騰、賃上げ対応を在支病の病院機能の確立へ  
Visionと戦略 2023年12月20日発行 第20巻12号 頁9
- 13 Interview 地域包括ケアのマインドをもった看護師を地域全体で育成する  
看護展望 2023 December Vol.48 NO.14 頁1～5
- 14 「超高齢社会に向けた新たな看護教育の実」  
すこやか 47号 茨城県養護教諭会 令和5年11月21日発行 頁2
- 15 年頭所感 同時改定を超えて三位一体の取り組みの推進を！  
茨城県医師会報 2024January No.841 頁3
- 16 同時改定を超えて医政活動のさらなる活性化を！  
茨城県医師連携だより 令和6年1月1日発行 頁1
- 17 新年のごあいさつ 2040年に向けた新たな三位一体の取り組み  
日本医療法人協会ニュース January 475 頁12
- 18 医療・介護～生活支援の多機能施設 誰もが通える「健院」へ  
シルバー産業新聞 第327号 2024年1月10日 頁5
- 19 Interview 超高齢社会の在宅医療  
変わりゆく中小病院の役割  
病院 第83巻 第2号 2024年2月1日 頁81～89
- 20 特集 第34回全国介護老人保健施設大会 宮城 シンポジウム1  
令和6年度 介護・医療同時改定の視点と介護DX 医療サイドから、介護への期待  
老健 2024.2 第34巻第11号 頁17～18
- 21 HMS政策研究会集会 2040年診療報酬改定と病院経営シンポジウムレポート  
地域密着型中小病院としての在宅療養支援病院の必要性  
Visionと戦略 2024年2月20日発行 第21巻3 頁10
- 22 茨城県医師会報特別寄稿  
ポスト2025年の地域医療構想に向けてー水戸地区6病院再編統合の必要性ー  
茨城県医師会報 2024Mach No.843
- 23 巻頭言 医療会は今こそ医師会を中心に大同団結が必要  
日本医療法人協会ニュース March 477 頁1
- 24 第73回日本病院学会 シンポジウム2 2040年に向けて中小病院が「かかりつけ医機能」として果たすべき役割について  
日本病院会雑誌 2024.3 第71巻第3号 頁19～25

## ○講演

- 1 第71回日本理学療法学会市民公開講座  
「これからの医療と介護予防について-2025年問題・2040年問題を考える」  
広域社団法人 全国病院理協会茨城支部 2023年 5月28日
- 2 リハ卒後研修  
「社会保障制度概論」  
茨城県指定地域リハ支援センター、茨城県リハ専門職協会 2023年 6月 1日
- 3 第10回日本在宅栄養管理学会集会  
「地域包括ケアシステム構築における在宅栄養管理の重要性」  
一般社団法人日本在宅栄養管理学会 2023年 7月16日
- 4 第9回地域包括ケア病棟研究大会  
「地域包括ケア病棟、あるべき姿への挑戦」  
一般社団法人日本地域包括ケア病棟協会 2023年 7月 8日
- 5 宮崎県医師会 かかりつけ医に関する研修会  
「ポスト2025年に向けた医療提供体制改革におけるかかりつけ医機能充実・強化の必要性」  
一般社団法人宮崎県医師会 2023年 8月10日
- 6 東京都病院協会 回復期医療委員会  
「地域包括ケアを支える地域密着型中小病院としての在宅療養支援病院の必要性」  
一般社団法人東京都病院協会 2023年 9月20日
- 7 第73回日本病院学会  
「地域包括ケアを支える地域密着型中小病院としての在宅療養支援病院がかかりつけ  
医機能において果たすべき役割について 」  
一般社団法人日本病院会 2023年 9月21日
- 8 東京青年医会早朝勉強会  
「地域包括ケアを支える地域密着型中小病院としての在宅療養支援病院の必要性」  
東京青年医会事務局 2023年 9月29日
- 9 茨城医学会総会 第224回茨城内科学会  
「ポスト2025年に向けた医療提供体制改革の必要性」  
茨城県内科学会 2023年10月15日
- 10 公益社団法人日本介護福祉会第30回全国大会 第21回日本介護福祉会in茨城  
「介護医療連携における介護福祉士への期待」  
公益社団法人日本介護福祉会 一般社団法人茨城県介護福祉士会 2023年11月11日
- 11 WJU勉強会 鈴木邦彦先生特別講演会  
「志村フロイデグループが行う地域包括ケアの取り組み」  
ウエルフェア・J・ユナイテッド株式会社 2023年12月5日

- 12 病院経営者向け研究会「朋遠会」2024年1月定例会  
「トリプル改定の行方と対策地域包括ケアを支える地域密着型中小病院としての在宅療養支援病院の  
必要性～2024年診療報酬改定を見据えて～」  
一般社団法人国際福祉医療経営者支援協会 2024年1月27日
- 13 2040年診療報酬改定と病院経営シンポジウム  
「シンポジウム:答申目前の2040年診療報酬改定を徹底予測し  
改定をチャンスにし業績を構築する病院経営戦略とは」  
保健・医療・福祉サービス研究会 2024年1月28日
- 14 令和5年度東北地方慢性期医療協会講演会  
「地域包括ケアの深化と中小病院の生き残り－2024年同時改定を見据えて－」  
東北地方慢性期医療協会 2024年2月3日
- 15 一般社団法人全国在宅支援医協会 『第1回日本在宅医療コンgres』  
地域包括ケア時代の在宅医療～その質を問う～  
「茨城－在宅推進フォーラム 在宅っていいな～あなな気持ちにより添うために～」  
一般社団法人 全国在宅療養支援医協会 2024年3月9日

## ○ 常勤医師執筆講演実績

大仲功一

### 【著書(分担執筆)】

フェーズ別の対応 第4期「復興期」

書籍名： 災害リハビリテーション標準テキスト 第2版

企画・編集： 一般社団法人 日本災害リハビリテーション支援協会

医歯薬出版 pp67-68, 2023年7月

### 【講演】

講演会名： 茨城県立図書館 知の探究セミナー

テーマ： 知っておきたい身近な障害 高次脳機能障害

日付： 2024年1月27日

会場： 茨城県立図書館

講演会名： 令和5年度茨城県回復期リハビリテーション病棟の会講演会

テーマ： 日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT)について

日付： 2024年3月29日

会場： オンライン

# 1. 学術活動

## (2) 学会発表

1. コロナ禍におけるCOVID-19感染後の患者の退院支援  
地域医療連携センター 後藤 まどか 2023年6月23日～6月24日(神奈川)
2. 通所リハビリテーションでの下肢装具フォローアップへの取り組み  
リハビリテーション事業部 皆川 恭之 2023年7月21日～22日(東京都)
3. FIMの理解向上に向けた当病棟におけるFIMチームとしての活動  
看護部 萩野谷泉羽 井坂未範 2023年10月19日～10月20日(大阪)
4. 活動を通じた自己改善  
コミュニケアサービス部 和田 裕 2023年10月20日～21日(東京)
5. 地域住民の健康を支える当法人の取り組み  
リハビリテーション事業部 國井 崇洋 2023年10月26日～27日(広島)
6. 地域共生多機能拠点としての独自の取り組み  
リハビリテーション事業部 南後 主 2023年10月26日～27日(広島)
7. 当グループにおける腰痛予防対策に向けた腰痛発生リスクの検討  
リハビリテーション事業部 梅澤 健 2023年10月26日～27日(広島)
8. 認知症カフェから始まる地域共生社会  
ひたちなか市北部地域包括支援センター 大津 匡史 2023年10月26日～27日(広島)
9. 高次脳機能障害者の家族介護者における自己効力感評価尺度の開発  
リハビリテーション事業部 小野瀬 剛広 2023年11月10日～13日(沖縄)
10. 多職種連携による「その人らしさ」の実現に向けて  
コミュニケアサービス部 工藤 直樹 2023年11月11日～12日(茨城)
11. 地域と共に生きる  
コミュニケアサービス部 藤田 拓巳 2023年11月11日～12日(茨城)
12. 介護福祉士の専門性と介護過程の関連性  
コミュニケアサービス部 内藤 和也 2023年11月11日～12日(茨城)
13. 地域の方々との交流を再開  
コミュニケアサービス部 園原 岳人 2023年11月11日～12日(茨城)
14. 生活相談員の立場から地域との関りを考える  
コミュニケアサービス部 細田 毅 2023年11月11日～12日(茨城)
15. ワーキングデイ  
コミュニケアサービス部 松島 恭平 2023年11月11日～12日(茨城)

16. 活動と睡眠の関係性について  
コミュニティケアサービス部 辛島 孝守 2023年11月11日～12日(茨城)
17. 高次脳機能障害者を有する利用者への支援  
コミュニティケアサービス部 高橋 由幸 2023年11月11日～12日(茨城)
18. 健康運動実践指導者としての役割  
コミュニティケアサービス部 猪股 一輝 2023年11月11日～12日(茨城)
19. ICT(見守りロボット)導入におけるサービスの質の向上  
コミュニティケアサービス部 武藤 拓也 2023年11月11日～12日(茨城)
20. 現場視点で考える在宅医療・介護連携事業と医療計画上の在宅医療連携拠点の関係性  
地域医療連携センター 川崎 真弓 2023年11月19日(東京)
21. 四十九日の手紙を取り入れた家族へのグリーフケア  
老健入所科 坪 宗彦 五町 靖 2023年11月21日～22日(宮城)
22. 特別支援学校に通う成長期の脳性麻痺・痙直型四肢麻痺児の下肢痙縮増強予防  
リハビリテーション事業部 上倉 洋人 2024年1月28日(大阪)
23. 立位能力に合わせた環境調整と、注意障害を考慮しながら手順定着を図ったこと  
リハビリテーション事業部 菊地 加奈 2024年2月4日(茨城)
24. 段階的なADL練習を行ったことにより自己効力感の向上に繋がった事例  
リハビリテーション事業部 志賀 歩美 2024年2月4日(茨城)
25. 小脳出血患者における立ち上がり時の後方へのふらつきに対する原因分析  
リハビリテーション事業部 磯野 睦 2024年2月4日(茨城)
26. 第一腰椎圧迫骨折者の杖歩行再獲得の為、両側肩甲帯に対して行った理学療法  
リハビリテーション事業部 清水 宙世 2024年2月4日(茨城)
27. 階段付けした座位練習を繰り返し行うことで行為動作定着へ繋げた症例  
リハビリテーション事業部 小河 千明 2024年2月18日(茨城)
28. 退院後の生活像を本人・家族と共有することで、自宅での家事動作再開につながった症例  
リハビリテーション事業部 村上 茉耶 2024年2月18日(茨城)
29. 入浴、調理動作への介入や家族指導を行った結果、自立度向上や動作に関する本人・家族の理解が得られた事例  
リハビリテーション事業部 山本 知歩 2024年2月18日(茨城)
30. 当院における職員教育と転倒防止の取組について  
リハビリテーション事業部 山田 浩史 2024年3月8日～9日(熊本)

## 2. 各種行事

### 第23回 全法人目標・成果発表大会

2023年6月17日

#### 志村フロイデグループ 第5次3か年計画目標

1. 4大フロイデケアタウン構想(大宮・ひたちなか・水戸・友部)
  - 1) フロイデケアタウン大宮 (地域型)  
病院を中心としたまちづくり
    - ①住宅型有老 (20室) 大宮イースト (博仁会)
    - ②サ高住 (20戸) (博友会)
    - ③カフェレストラン (ライブハウス・ミニシアター) (有限会社)
    - ④コンビニエンスストア / コインランドリー / クリーニング取次 (有限会社)
    - ⑤ボディケアショップ / 花屋 / 甘味処 (回転焼き含む) (有限会社)
    - ⑥総合保健福祉センター交差点 両側舗道・街灯整備 (博友会)
    - ⑦上町テナントの活用 (有限会社)
    - ⑧東日本銀行跡地の活用 (有限会社)
    - ⑨大宮十字路空地の活用 (有限会社)
    - ⑩常陸大宮駅前土地取得、活用 (有限会社)
  - 2) フロイデケアタウンひたちなか (タウン型)  
フロイデひたちなかメディカルプラザ第3期工事①～④
    - ①サービス付き高齢者住宅 (22室) (博友会)
    - ②保育所 (小規模保育・病児 (病後児) 保育) (博友会)
    - ③発達障がい支援・放課後等デイサービス (博友会)
    - ④通所介護 (リハビリ機能強化型) (博友会)
    - ⑤栄養ケアステーションの立ち上げ (博仁会)
    - ⑥生活支援の移動販売車の導入 (博仁会)
    - ⑦ISO取得に向けた準備 (博仁会)
  - 3) フロイデケアタウン水戸 (地域型)
    - ①水戸河和田 サ高住 (20戸) + 障がい者グループホーム + 保育所 (博仁会)
    - ②水戸第4拠点整備 (博仁会)
    - ③栄養ケアステーション開設における運営の確立 (博仁会)
    - ④学生確保に向けた、スクール車両と運営の確立 (博仁会、志村学園)
  - 4) フロイデケアタウン友部 (施設型)
    - ①居宅介護支援事業所 (博友会)
2. 生活支援サービスの拡充 (博仁会・博友会・有限会社)
3. 介護技能実習生及び特定技能者の受入と交流 (ベトナム・モンゴル・ミャンマー・ネパール) (博仁会・博友会)
4. 介護留学生の受け入れ (ベトナム・ミャンマー・ネパール) (志村学園)
5. 栄養科第1号特定技能者の受入 (医療・介護施設給食製造職種) (博仁会・博友会)
6. セントラルキッチン (株式会社)
7. 常陸大宮市駅周辺整備計画協力 (博仁会・博友会・有限会社)
  - ・首都圏からの移住
  - ・ひたち大宮まちづくり推進協議会の設立
  - ・各専門家への参画依頼 (谷口氏、小杉氏、久野氏、JR 東日本建築設計)
7. 地域診療所・地域介護施設との懇談会開催 (年1回) (博仁会)
8. フロイデ DAN NPO 法人取得 (博仁会)
9. SFG 在宅支援システム構築 (夜勤体制の訪問看護運営構築等) (博仁会・博友会)
10. 生活介護事業所 (生活訓練含む) + 障がい者グループホーム (博友会)
11. 就労支援事業所 (博友会)
12. 病院機能評価 リハビリテーション (回復期) 高度・専門機能の取得 (博仁会)
13. SFG 運営体制 本部事務局の強化 (博仁会・博友会)
14. メディカルフィットネス3事業認定取得 (博仁会)
  - ・疾病予防運動施設 (医療法 42 条施設)、厚生労働大臣認定「健康増進施設」、指定運動療法施設3つの認定をめざす

#### 【看護学校】

1. 受験生の確保、定員確保 (看護学科：40名、介護福祉学科 20名以上)
- (1) 広報活動の充実  
共通事項：インスタグラムでの情報発信による募集活動  
(看護学科) ①オープンキャンパス：5月より実施 (個別相談：随時実施) ②高校訪問：50校訪問、5月～夏季休暇前 ③進学ガイダンス 会社主催への積極的な参加 ④ホームページの刷新・充実  
(介護福祉学科) ①高校訪問。高校ガイダンス。

職業別出前授業の実施。地域ケア実習の充実。  
ボランティア活動への積極的参加。②オープン  
キャンパス：介護実習棟のPR。在校生の活用。  
③社会人入学の案内：茨城県離職者訓練計画へ  
の参画 ④外国人留学生の獲得

(2) 校内外の環境整備

## 2. 国家試験「看護12回生」「介護3回生」全員合格！の達成

- (1) 成績管理システム導入による成績の分析と指導方法への活用
- (2) 映像教育教材やシミュレーション教材などの活用
- (3) 国家試験対策  
e-ラーニングの活用、個別指導、全国模試の分析と対策
- (4) 学習支援体制の強化  
チューター制、グループ学習、学生間による学習方法の共有
- (5) 学生のメンタルヘルスへの対応。  
個人面接の実施と対応。カウンセリングの活用周知。

## 3. 財政の目標

- (1) 定員の充足（看護学科40名、介護福祉学科20名以上）
- (2) 経費削減

## 4. 地域との連携

- (1) 地域の看護教員との連携(教員連絡会への参加)
- (2) 実習施設との連携
- (3) 地域特性理解のための地域の方々の講義依頼
- (4) 北富田地区行事への参加

## 2. 各種行事

### 茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会

事務局 梅澤 健

#### 【活動実績】

2023年6月9日(金):第55回事務局会議  
2023年7月14日(金):第45回定例会  
2023年10月13日(金):第56回事務局会議  
2023年11月10日(金):第46回定例会  
2024年2月9日(金):第57回事務局会議  
2024年3月8日(金):第47回定例会

#### 【脳卒中患者の退院実績】

茨城県央・県北脳卒中地域連携パス研究会にて把握が可能であった「脳卒中患者の退院実績(2023年2月～2024年1月)」について、急性期病院全体での合計は2,968例であった。また、その内訳は表1の通りであった。回復期リハ病院全体での合計は402例であり、その内訳は表2の通りであった。

#### 【活動内容】

2023年度は5月に新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)が5類となったが、各医療機関や施設においてはCOVID-19感染防止策が継続して行われていることが多く、事務局会議および定例会はZoomを活用したWeb会議での開催を継続した。

2023年度の定例会においても、脳卒中地域連携パスに関わるものだけでなく、「各病院・施設の面会状況」や「家屋調査や家族指導などの実施状況」など、COVID-19が5類となったことによる具体的な課題について相談するなど、より身近な情報交換の場を提供することができた。

2023年度後半からは、少しずつではあるが、学会や研修会などを集合形式で実施することが増えてきた。当研究会においても、Web会議という選択肢を残しつつ、次年度は定例会の集合形式での開催を視野に入れ、活動方法について研究会参加施設と共に検討し、脳卒中における地域連携の質の向上を図っていきたい。

【表1】脳卒中患者における急性期病院からの退院先(2023年2月～2024年1月)

退院先	患者数
自宅	1,520
回復期リハ病棟	452
老健	46
その他	950
計	2,968

【表2】脳卒中患者における回復期リハ病院からの退院先(2023年2月～2024年1月)

退院先	患者数
自宅	290
老健	68
その他	44
計	402

## 2. 各種行事

ごぜんやままつり 2023

第 69 回長倉七夕まつり



今年も開催された「ごぜんやままつり」。出店する店舗がかなり減った印象ではありますが、御前山フロイデガルテンからは、変わらず「軽食1品」「御前山女子クラブ」「ガルテンバザー」を出店させていただきました。

今年度は初めての試みとして、「鉄板ナポリタン」を出店いたしました。鉄板で作るナポリタンは、ケチャップのいい匂いが食欲をそそり、珍しさもあってか売り上げは非常によく、お客様からも「おいしかったよ」等のご好評のお声を頂きました。

ガルテンバザーは、例年開店前より行列ができているほどの大好評でございます。博友会関連の施設を御利用されているお客様にご協力いただいております、バザー商品は毎年完売であり、今年度も完売の結果を残しております。皆様のご協力に感謝申し上げます。

地域活性化のため、来年度以降も参加し続けてまいりたいと考えております。



2023年8月5日(土)に第69回長倉七夕まつりが開催されましたので、御前山フロイデガルテンが参画しました。今回初めて、御前山デイサービスセンター管理者の森が、長倉七夕まつり協賛会の副会長として任命され、4月より役員会に参加し祭りの運営に参画しました。また、当日のステージでのイベントの進行も任せていただき、微力ながら祭りの盛り上げに居力させていただきました。

御前山フロイデガルテンとしても七夕飾りの出展及びフードコートにて、フランクフルトと光るドリンクの出店をし、フランクフルト出店2時間での完売、光るドリンクも早々に完売となってしまいました。次年度も継続して七夕飾りの出展をするとともに、フードコートでの出店の際には、より個数を増やしての販売を予定しております。

今後も伝統ある地域のお祭りに参画し、存続ができて、地域の活性化に繋がるよう、御前山フロイデガルテンとして参画してまいりたいと考えております。

2023年度（令和5年度）

# 法人年報

第19号

2025年3月20日 印刷

2025年3月31日 発行

編集発行 医療法人 博仁会

茨城県常陸大宮市上町313

電話 (0295)-53-1111

F A X (0295)-52-2705

U R L: <http://www.hakujinkai.com/>

E-mail: [hakujin@onyx.dti.ne.jp](mailto:hakujin@onyx.dti.ne.jp)

社会福祉法人 博友会

茨城県常陸大宮市野口平146-1

電話 (0295)-54-2555

F A X (0295)-54-2550

U R L: <http://www.hakuyukai-sfg.com>

E-mail: [jimusg@hakuyukai-sfg.com](mailto:jimusg@hakuyukai-sfg.com)

学校法人 志村学園

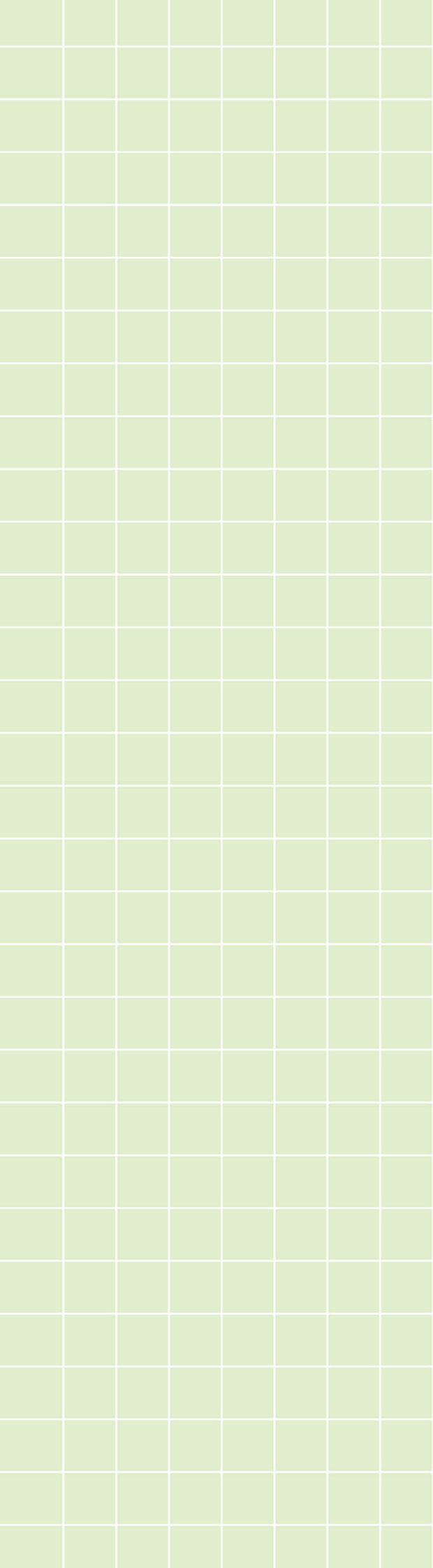
茨城県常陸大宮市下村田2304-4

電話 (0295)-54-1422

F A X (0295)-54-1422

U R L: <http://www.ihnc.ac.jp>

E-mail: [info@ihnc.ac.jp](mailto:info@ihnc.ac.jp)



**医療法人 博仁会  
社会福祉法人 博友会  
学校法人 志村学園**